

日本映画大学 映画学部

シラバス

(授業内容)

2017年度

「シラバス」は、受講科目を選択する上で必要となる各科目の授業内容を記載したものです。各科目の記載内容をよく読んで、十分に活用してください。

本書のほかに『学生便覧』（入学時のみ）、「授業時間割表」、「科目配分表」を配付します。これらには履修上必要な事柄が記載されていますので、大切に保管し履修に役立ててください。

履修に関する事項、授業に関する事項など、学生支援部からのお知らせは、各キャンパスの学内掲示板、WEB メールで行いますので必ず確認してください。

目 次

目次	2
学年暦・授業日程一覧	4
教育方針	5
シラバスの見方	6

【シラバス（授業内容）】

教養科目〈基幹〉

スタートアップ演習	8
人間総合研究	9

教養科目〈A群〉

日本文化論	10
日本伝統音楽概論	11
文学Ⅰ	12
英米文学	13
サブ・カルチャー論	14
哲学	15
文学Ⅱ	16
映画で学ぶ歴史と社会Ⅳ	
〈セクシュアリティとジェンダー〉	17
演劇WSⅠ	18
映画文化特殊講義Ⅰ〈身体・思想〉	19
美術史Ⅰ〈日本美術史〉	20
物語WS	21
演劇史Ⅰ	22
美術史Ⅱ〈西洋美術史〉	23
批評論	24
演劇WSⅡ	25

教養科目〈B群〉

日本語Ⅰ	26
日本語Ⅱ	27
日本語Ⅲ	28
英語Ⅰ	29
情報メディア論	30
国際合同制作〈日韓合同映画制作〉	31
英語Ⅱ	32
中国語	33
韓国語	34

教養科目〈C群〉

著作権概論	35
表象文化論	36
社会学入門	37
映画で学ぶ歴史と社会Ⅰ〈国際情勢〉	38
映画文化特殊講義Ⅲ〈ビジュアル・フォークロア〉	39

映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ〈アジア交流〉	40
映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ〈ネイションとエスニシティ〉	41
博物館概論	42
現代社会と社会教育	43
現代思想	44

教養科目〈D群〉

地球環境倫理学	45
映画文化特殊講義Ⅱ〈環境・災害・技術〉	46
デジタル映像技術概論	47
音響論	48

教養科目〈E群〉

キャリア・サポートⅠ	49
精神医学入門	50
生涯学習概論Ⅰ	51
生涯学習概論Ⅱ	52
体育	53
キャリア・サポートⅡ	54
インターンシップ	55

基礎科目

脚本基礎演習	56
映画制作基礎演習	57
長編シナリオ演習Ⅰ	58
長編シナリオ制作	59
長編シナリオ演習Ⅱ	60
ビデオ・デジタル技術基礎演習	61
映画美術論	62
日本映画史	63
映画史概論	64
テーマ研究Ⅰ〈映画会社とスター〉	65
フィルム・アーカイヴ学	66
映画と文学	67
映像とことば	68
映画流通論	69
プロデュース論	70
コンテンツ文化史	71

専門基礎科目

演出専門基礎講義	72
脚本専門基礎講義	73
撮影照明専門基礎演習	74
録音専門基礎演習	75
編集専門基礎演習	76
ドキュメンタリー専門基礎演習	77
理論専門基礎講義	78

専門科目〈選択必修〉

脚本WSⅠ	79
演出専門演習Ⅰ〈ワンシーン〉	80
脚本専門演習Ⅰ〈インプロビゼーション〉	81
技術合同専門演習(撮影照明コース)	82
技術合同専門演習(録音コース)	83
技術合同専門演習(編集コース)	84
ドキュメンタリー専門演習Ⅰ	85
映画・映像文化専門演習Ⅰ	86
脚本専門演習Ⅰー2	87
合同制作A〈ドラマ〉(脚本演出コース)	88
合同制作A〈ドラマ〉(撮影照明コース)	89
合同制作A〈ドラマ〉(録音コース)	90
合同制作A〈ドラマ〉(編集コース)	91
合同制作B〈ドキュメンタリー〉	92
映画・映像文化専門演習A	93
脚本専門演習Ⅱ〈脚色〉	94
脚本演出専門演習Ⅱ〈3分エチュード〉	95
撮影照明専門演習	96
録音専門演習	97
編集専門演習	98
ドキュメンタリー専門演習Ⅱ	99
映画・映像文化専門演習B	100
卒業制作〈ドラマ〉	101
卒業制作〈ドキュメンタリー〉	102
卒業シナリオⅠ	103
卒業シナリオⅡ	104
卒業論文Ⅰ	105
卒業論文Ⅱ	106

専門科目〈選択〉

映画美術演習	107
ドキュメンタリー映画史	108
アメリカ映画史	109
映画前史	110
テーマ研究Ⅱ〈比較映画論〉	111
映画と演劇	112
映像人類学	113
写真論	114
記号論	115
こども映画教育演習	116
アジア映画史	117
テーマ研究Ⅲ〈映画ジャンル論〉	118
情況論	119

資格科目

博物館教育論	120
--------	-----

博物館資料論	121
博物館資料保存論	122
博物館展示論	123
博物館情報・メディア論	124
博物館経営論	125
博物館実習	126
社会教育計画	127
社会教育演習	128
社会教育活動	129

科目別索引	130
-------	-----

2017年度学年暦・授業日程一覧

 = 授業日

 = 上映会・試験・補講・ガイダンスなど

【前期】 4月1日～9月30日

	日	月	火	水	木	金	土
4月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

	日	月	火	水	木	金	土
5月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

	日	月	火	水	木	金	土
6月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

	日	月	火	水	木	金	土
7月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土
8月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

	日	月	火	水	木	金	土
9月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

4月 4日(火)	入学式・総合ガイダンス
5日(水)～10日(月)	新入生ガイダンス
5日(水)	4年生前期履修登録・後期学業成績通知書配付
6日(木)	2・3年生前期履修登録・後期学業成績通知書配付
7日(金)～8日(土)	新入生履修登録
10日(月)	授業開始
21日(金)・22日(土)	学生定期健康診断
29日(土)	昭和の日(授業実施日)
5月 1日(月)・2日(火)	臨時休講日
5日(金)	こどもの日(授業実施日)
26日(金)・27日(土)	臨時休講日
7月 17日(月)	海の日(授業実施日)
21日(金)	2年生専門コース選択ガイダンス
21日(金)	前期定期試験時間割発表
21日(金)～8月7日(月)	前期追試験願提出期間
29日(土)	前期授業終了
31日(月)～8月3日(木)	前期補講期間
8月 4日(金)・5日(土)	前期定期試験期間
5日(土)	2年生専門コース発表・ガイダンス
7日(月)～9月16日(土)	夏季休業
18日(金)	前期履修結果発表・追再試験時間割発表
18日(金)～21日(月)	前期追・再試験手続期間
25日(金)・26日(土)	前期追・再試験期間
28日(月)～9月9日(土)	夏期集中科目授業期間
9月 12日(火)	1・2年生後期履修登録・前期学業成績通知書配付
13日(水)	3・4年生後期履修登録・前期学業成績通知書配付
18日(月)	後期授業開始
	敬老の日(授業実施日)
23日(土)	秋分の日(授業実施日)

【後期】 10月1日～3月31日

	日	月	火	水	木	金	土
10月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

	日	月	火	水	木	金	土
11月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

	日	月	火	水	木	金	土
12月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

	日	月	火	水	木	金	土
1月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

	日	月	火	水	木	金	土
2月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28			

	日	月	火	水	木	金	土
3月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

10月 9日(月)	体育の日(授業実施日)
13日(金)・14日(土)	臨時休講日
15日(日)	創立記念日
11月 3日(金)	文化の日(授業実施日)
23日(木)	勤労感謝の日(授業実施日)
27日(月)	1年生映画制作基礎演習発表会(授業割愛)
28日(火)・29日(水)	卒業制作合評会(授業割愛)
30日(木)	補講日
12月 23日(土)	天皇誕生日(授業実施日)
	年内授業終了
25日(月)・26日(火)	総合発表会
27日(水)～1月4日(木)	冬季休業
1月 5日(金)	授業再開
	後期定期試験時間割発表
5日(金)～29日(月)	後期追試験願提出期間
22日(月)	後期授業終了
23日(火)～25日(木)	後期補講期間
26日(金)・27日(土)	後期定期試験期間
29日(月)～2月5日(月)	春期集中科目授業期間
2月 10日(土)	後期履修結果発表・追再試験時間割発表
10日(土)～13日(火)	後期追・再試験手続期間
16日(金)・17日(土)	後期追・再試験期間
3月 3日(土)	卒業生発表
3日(土)～5日(月)	後期学業成績通知書配付(4年)
10日(土)～31日(土)	学年末休業
20日(火)	卒業式

教育方針

建学の精神

1975年（昭和50）年、今村昌平監督は、失われつつある映画撮影所に代わり、映画製作を志す若者を養成するために2年制の専門学院を開設しました。

今村監督はさらに「知は武器である」の理念のもとに、大学設立を視野に入れた構想を1990（平成2）年に発表。残念ながら、その夢の実現を見ることなく今村監督は逝去されましたが、いま、私たちは監督の「思い」を引き継ぎ、学院創設以来ここから巣立ち、輝かしい業績を示しつつある卒業生たちに支えられながら、2011（平成23）年春、日本映画大学を開学しました。

私たちは、あらゆる映像の原理であり世界の共通語である映画を中心に、「映画人の養成と学術コミュニティの構築」「人間として生きる力となる映画力」「映画を媒体とした地域社会との連携」を目的として、新しい感性と専門的な技術を持って映画を創り出していく者、高度な知識の獲得へ向かって研究する者、さまざまな分野で映画を媒体として地域を発展させる者、を養成していきたいと考えています。

映画は1秒24コマのフィルムで表現してきました。しかし、映画はいま大きな転換期を迎えています。未来の映画がフィルムという形式で存続するのか、日々進展し続けるデジタルへと変化していくのか。

いずれにせよ、約120年前に人間が手にした「動く映像」の次の世界を創り出し、その将来を見届けるのは映画への新しい参入者であり、そのような人間たちを育成することが日本映画大学の使命であると考えます。

アドミッション・ポリシー（入学受け入れの方針）

日本映画大学は以下のような学生を求めています。

- 1）美醜や善悪および人間の欲望全般に強い関心を持っている。
- 2）映画や小説をはじめ芸術・芸能が好きである。
- 3）他人と協力することができる。

カリキュラム・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

日本映画大学は、以下の科目構成によって、映画制作の技術を実践的に体得し、映像文化の歴史を理論的に理解し、社会に貢献する教養と人格を身に付けた学生を育成します。

- 1）教養科目 ……映画にとどまらず広く社会一般を洞察する力を養う。（4年間通年）
- 2）基礎科目 ……演習を通して映画制作の基礎的な知識と技術を学ぶ。
同時に、映像文化の歴史を知り、映像を読み解くための基礎的な学力を身に付ける。（2年次前期まで）
- 3）専門基礎科目 ……各コースの基礎を学び、適性や進路にふさわしいコースを選ぶ。（2年次前期）
- 4）専門科目 ……各コースに分かれて専門性を究める。（2年次後期より）
- 5）4年間の学びの集大成として、卒業制作、卒業シナリオ、卒業論文のいずれかに取り組む。社会との関わりを持つため、成果の公表まで学生の手で行う。（4年次）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

日本映画大学は、以下の要件を満たした学生に、映画学士の学位を授与します。

- 1）映画制作の技術の実践的な体得。
- 2）映像文化の歴史の理論的な理解。
- 3）社会に貢献するための教養と人格。
- 4）他者とともに問題解決に臨む姿勢。
- 5）所定の卒業必要単位の修得。

シラバスの見方

科目名	授業科目名のほか、〈 〉内には副題が、() 内にはコースまたはクラスの指定がそれぞれ記載されています。
担当者名	当該科目を担当する教員（創作系科目については専任教員のみ）が記載されています。なお、複数の担当者が記載されている場合は、先頭の教員が主担当者となります。
科目区分	専門性の度合に応じて、「教養科目」「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」「資格科目」の区分があります。
科目分類	履修する上での条件に応じて、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」「自由科目」に分類されます。必修科目は必ず全員が履修する科目です。また、自由科目は卒業要件には含まれない科目です。
授業形態・単位数	すべての授業科目は、「講義」「演習」「実習」のいずれかに属します。これら授業の形態に応じて、必要な学修時間と単位数が定められています。
配当年次	当該科目が履修できる学年を表しています。記載のない学年での履修はできません。
学期	授業が行われる時期を表しています。なお、「通年」は前期および後期にまたがって授業が行われます。
講義型	各授業科目には、時間割編成上の「講義型」が設定されています。「講義型」を見ると時間割のパターンがわかります。 A1（1×15） 毎週 1 コマの授業が15週にわたって行われます。 A2（2×15） 毎週 2 コマ連続の授業が15週にわたって行われます。 B1（3×5） 毎週 3 コマ連続の授業が 5 週にわたって行われます。 C1（1+2×7） 初回 1 週目は 1 コマの授業、翌週から 2 コマ連続の授業が 7 週行われます。 C2（2×7+1） 1 週目から 2 コマ連続の授業が 7 週行われ、最終 8 週目は 1 コマの授業となります。 C3（2×6+3） 1 週目から 2 コマ連続の授業が 6 週行われ、最終 7 週目は 3 コマの授業となります。 E（集中） 夏期や春期などの休業期間に集中的に行われます。 F（その他） 上記のいずれにもあてはまらない科目です。
校舎	授業が白山校舎、新百合ヶ丘校舎のどちらで行われるかを表しています。
履修条件	当該科目を受講する上で履修しておかなければならない科目（先修条件）、あるいは履修しておくことが望ましい科目が記載されています。また、【読替科目】に指定されている科目が履修済の場合は、当該科目の履修はできません。
授業概要	授業の全体像が把握できるよう、科目全体の内容、ねらい、授業で扱う学問的テーマ、授業の進め方といった、授業内容の概略が記載されています。
到達目標	当該科目を履修した結果、どのような知識や能力が修得できるようになるのかといった到達目標が記載されています。
授業計画	毎回の授業計画が記載されています。その回においてどのようなことを学ぶか、どのような授業が行われるのかをあらかじめ知ることができます。
授業外学習	授業外での事前・事後の準備学習（予習・復習等に必要時間や学修内容等）についての指示が記載されています。
教科書・主要参考書	使用する教科書、参考書が記載されています。なお、教科書の入手方法は掲示によって行います。
評価方法	当該科目の単位を修得するにあたり、どのような評価方法に基づいて行われるのかが記載されています。
教員への連絡方法	授業開講日以外の日、授業内容についての質問を受け付ける場合の連絡方法が記載されています。なお、専任教員についてはオフィスアワー制度も設けられていますので、そちらも活用してください。

シラバス

(授業内容)

科 目 名						担 当 者 名		
スタートアップ演習						専任教員全員		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	基幹	必修	演習	4	1	前期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	高校までの勉強から大学での学びへの導入となる科目である。映画を学ぶうえで必要な心構えと基礎的な力を、複数の教員による講義とグループで行うワークショップを通して身につける。 具体的には、映画の見方、文章の書き方、さらにこの後スタートする「人間総合研究」に備えて、調査や取材の方法、現代社会に関する基礎的な教養について学ぶ。							
到達目標	①大学での学習に向けた心構えと、映画を学ぶうえで必要な基礎知識、スキルを身につける。 ②グループで行うワークショップを通して、積極的でスムーズなコミュニケーションに慣れる。							
授業計画	日数	内 容						
	1	ガイダンス						
	2	映画と解説①						
	3	映画と解説②						
	4	映画と解説③						
	5	文章ワークショップ①						
	6	文章ワークショップ②						
	7	「人間総合計画」について／企画の立て方						
	8	取材とは何か①						
	9	取材とは何か②						
	10	ノンフィクション論						
	11	「図書館へのいざない」、利用ガイダンス						
	12	ドキュメンタリーで学ぶ日本社会①						
	13	ネットリテラシーと調査①						
	14	ドキュメンタリーで学ぶ日本社会②						
	15	ネットリテラシーと調査②						
	16	ドキュメンタリーで学ぶ日本社会③						
授業外学習	授業内で完結するプログラムになっているが、課題作成に時間がかかる場合は授業外の時間を使って各自取り組んでほしい。							
教科書	教科書は使用しない。							
主要参考書	適宜資料を配布する。							
評価方法	出席と課題提出で100％							

科 目 名						担 当 者 名		
人間総合研究						関川 夏央、ハン・トンヒョン ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	基幹	必修	演習	8	1	前期	F(その他)	白山・新百合ヶ丘
履修条件	—							
授業概要	「個々の人間に相対し、人間とはかくも汚濁にまみれているものか、人間とはかくもビュアなるものか、何とうさんくさいものか、何と助平なものか、何と優しいものか、何と弱々しいものか、人間とは何と滑稽なものなのかを、真剣に問い、総じて人間とは何と面白いものかを知って欲しい。そしてこれを問う己は一体何なのかと反問して欲しい。個々の人間観察をなし遂げる為にこの学校はある」という本学の理念を象徴する看板授業。 魅力的な「人」を探し、その人について掘り下げていくドキュメンタリーを、動画を使わず、写真や音声素材をまとめて30分の作品として構成し、合評会で発表する。1 クラスに担任教員を含む2 人の担当教員がつき指導とアドバイスを行うが、企画の立案から取材(撮影、録音)、発表まで、すべて学生たち自身がグループごとに協力しながら行うことになる。 人間総合研究は、自分ではない誰かについて調べ、向き合って、迫り、それを表現する実習だが、その人を表現するためにはその人の内面のみならずそれを支える外面、つまりその人がよって立つ個人的、社会的背景についても掘り下げ、立体的に把握していかなくてはならない。またグループ内でのチームワークも重要で、まさに映画を学ぶうえでの第一歩となる総合的な実習だ。							
到達目標	挑戦と失敗、つまり試行錯誤を繰り返すなかで、対象者と世の中、そして自分と他人について知り(何を知らないのか、何ができないのかも知り)、今後4年間の糧とする。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	1. 企画立案・プレゼンテーション クラス全員が企画を考え、企画書を作成してプレゼンテーションをする。企画の発表では、ひとことという「どのような人物を取り上げたいのか。それはどうしてなのか。そのようにして発表したい作品のテーマと面白さとは何なのか」をアピールする。学生どうして企画に関するディスカッションを行い、調査やブレ取材も行う。						
	2	2. 企画決定・班編成 投票や議論を通じて企画を絞り、最終的に1 クラスあたり2つの企画に決定する。企画決定後は、企画別にクラスを2班にわけ、班ごとにプロデューサー、副プロデューサー、インタビュアー、撮影班、録音班、調査班などの分担を決め、決まった企画に丸となって取り組んでいく(写真撮影と録音に関しては、プロの写真家、録音技師から、機材の基本的な使い方を学ぶ特講が開かれる)						
	3	3. 調査・取材① 文献(書籍、新聞、雑誌その他)などを通じて対象者とその背景にあるものについての調査を深めながら、対象者と周辺人物、関連する現場などを直接訪ね、取材を行う。インタビューをはじめとする取材のための交渉、手配など、あらゆる準備は学生自身が行う。インタビュー音声は全員で手分けして文字起こす。ミーティングを重ねながら、さまざまなハードルをクリアして調査、取材を進めるなかで、対象者とその背景に対する理解を深め、テーマに迫っていく。						
	4	3. 調査・取材②						
	5	4. 制作・構成① 取材、調査して集めた写真、音声などの多くの素材のなかから何を使い、どう伝えるかを考え、まとめていく。改めて構成台本・演出担当を決め、班のメンバーで議論を重ねながら発表用の構成台本を練り、スライドを選び、音声を編集していく。スライドにテロップを入れるパワーポイントも作成する。この過程で、合評会での発表時のナレーター、スライド、音声、照明、パワーポイントなどの分担も決める。						
	6	4. 制作・構成②						
	7	5. リハーサル 完成した構成台本にもとづき、発表に向けたリハーサルを繰り返す。取材し、集めた写真と音声のほか、音楽、効果音、場合によってはパフォーマンスなどを取り入れながら演出する。各班の取材と議論の成果、見つけてきたテーマとオリジナリティが30 分の発表のかたちになっていく。						
	8	6. 合評会 構成台本を手になレーション、写真スライド、編集した音声を使って、教員、学生の前で発表します。教員からは厳しい講評が飛ぶこともあるが、その経験は映画づくりへの第一歩を踏み出すための貴重な財産となるだろう。						
授業外学習	授業の進捗状況に応じて、各担当教員から指示する。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	実習への参加態度と姿勢、共同作業でのコミュニケーションや貢献度などから総合的に評価する。							

科 目 名					担 当 者 名			
日本文化論〈祭りと災害〉					高橋 世織			
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義	2	1・2・3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	「人間総合研究」とも連動・関連する科目であるため、一年生は活用してもらいたい。							
授業概要	本学は、6年前の3. 11直後に開学した。3. 11後の感慨と決意から本講義は始まる。日本は自然災害がてんこ盛りの島嶼・弧状列島。火砕流(噴火)と洪水(津波、豪雨、土砂災害、山津波)と揺れ(地震、古典文献では「なみ」と読む)と大風(台風、つむじ風)、さらには落雷・豪雪に見舞われる稀有なる文化を実に長い時間かけて醸成したことを改めて認識せざるを得ない。見舞われると言ったのも、ネガティブに受けとめる一方で、逆手にとって利用し反転させる文化力もしたたかに蓄えて来た。本講義では、こうしたしたたかさ、柔軟さ、きめ細かさ・細やかさ、しなやかさを伴って独自の災害文化、気候文化を形成してきたプラスの側面を、言葉の芸能(和歌、連歌、能・狂言)や工芸(漆器、日本画)、祝文化(食・祭り、寿ぎ)などに尋ねて行く。自然災害との様々な付き合い、関係なくしては日本列島も日本文化も豊饒な芸能の歴史も語れなかったのである。災害や災禍の「災」という文字も、けしてマイナス面だけを表象しているのではない。恵みをもたらしてくれる微も内包しているのです(詳しくは講義で)。ゴミもちょっと前までは護美(箱)というように、ゴミは塵・芥ではなかった。正倉院御物など宝物を1000年単位で保存アーカイブしてきた、そのゆるぎない蒐集の哲学(コレクション・ポリシー)は今日傾聴に値する。つまりゴミと御宝は紙一重なのです。そこから授業に入ります。							
到達目標	①災害とは何か、普段から見聞し考える。②地球温暖化時代をより良く生き抜く感覚とセンスを体得する。③言語文化に対しセンシティブになる。④日本映画の底流を貫流するエートスを探れるようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	「ガレキ」でよいのか！ 災害列島から産れ育った御宝基準を考える。諸君の家にあったはずの「一升枰」は今何処？ ゴミ(護美)/御宝の境界線。正倉院のコレクション・ポリシーとMoMA(NY近美)、東博との比較。円覚寺の《宝物風入れ》、伝世品と出土品の違い						
	2	辞書と事典の違い 9世紀の菅原道真編『類聚国史』全200巻(現存61巻)のスゴさは此处だ！《手垢研究(19世紀以前のデータベース)》と映画「舟を編む」の不满点を映画大学でつぶやく						
	3	祭り、祀り、政り、奉り——マツリはなぜ毎年繰り返されるのか 《山川草木悉皆成仏》と天台宗 応仁の乱と祇園祭、 伝統郷土芸能とは何か						
	4	『櫛山節考』を読み観て考える(深沢七郎、木下恵介、今村昌平)						
	5	皮剥ぎ文化を考える(1) スゴイぞ！和紙 「鳥獣戯画」にみる相剝(あいへぎ)行為。『細川紙』のドキュメンタリー映像を見ながら						
	6	皮剥ぎ文化を考える(3) スゴイぞ！ 膠と漆 工芸の修復技術、『方丈記』のなかの楽器						
	7	渡り鳥がもたらした東北アジア日本海文明圏の食文化と植生 「鳥の道を越えて」の今井友樹監督との対論						
	8	外国で解かった《和食》の凄さ——米と麦の違い(必須アミノ酸) コッホ研究所時代に気付いた衛生医学者・森鷗外の米食擁護論						
	9	鯉節考 ——シーボルト記念館で考えた事 「旨味」と漱石チルドレンの文学の味(谷崎潤一郎と宮澤賢治)						
	10	日本文芸の特性(1) 『万葉集』の面白さ。言霊信仰と和歌における「われ」の意識 一人称文学の短歌と俳句(主体としての空気)、『古今和歌集』の序文精読と鈴木大拙『日本的霊性』の比較						
	11	日本文芸の特性(2) 自照性の濃厚な「日記文学」をなぜ書き連ねたか。セルフ・ドキュメンタリーの源流 「土佐日記」「更級日記」「蜻蛉日記」「和泉式部日記」「紫式部日記」に共通する素晴らしさ						
	12	日本文芸の特性 (3) 「私小説」隆盛する風土と土壌。 自然主義文芸思潮の消長、極私的、私写真(荒木経惟)、私ガタリとは何か						
	13	谷崎潤一郎『陰翳礼讃』はここがスゴイ！ 闇の手触り、『盲目物語』、耳の物語『細雪』への自解自註						
	14	「音」と「響き」は天と地の違い 音響学者(地球物理学)＝寺田寅彦の御説、及びオノマトペ考、来訪神譚、『源氏物語』『夕顔』の巻、『宇津保物語』に触れつつ・・・						
15	《東北》とは誰からの視点なのか？！ 地名と地霊 (おわりに)『裏日本』(岩波新書)に対する私の所感こもごも							
授業外学習	サントリー、根津、山種、出光、太田浮世絵、江戸東京、東博等のミュージアムの企画展はたえずチェックして、極力実物のアジアの宝物を眼の当たりにしてほしい。＜展示＞とは何かを常に考えながら。近年、美術館の展示のあり方が大きく変わってきている。大いに参考になろう。							
教科書	特に指定はしない。毎回、必要資料はプリント配布する。							
主要参考書	呉座勇一『応仁の乱』(中公新書)、古厩 忠夫『裏日本』(岩波新書)、鈴木大拙『日本的霊性』(角川ソフィア文庫)、中尾正義『地球環境学と歴史学』(山川出版社)、尾池和夫『四季の地球科学—日本列島の時空を歩く』(岩波新書)、『谷崎潤一郎随筆集』(岩波文庫)、石井和紘『数寄屋の思考』(鹿島出版会)、『日本歴史災害事典』、笹本正治『中世の災害予兆』、峰岸純夫『中世 災害・戦乱の社会史』(以上、吉川弘文堂)							
評価方法	学期末の課題レポート(1200字程度)を評価し、出席状況(リアペ内容)を加味して総合的に判定する。出席状況50%、課題レポート50%							

科 目 名						担 当 者 名		
日本伝統音楽概論 〈日本伝統楽器の歴史と特徴〉						野川 美穂子		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義	2	1・2・3・4	前期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	特になし。強いていえば、音に対する興味を持っていること、偏見を持っていないことが条件。							
授業概要	この授業では、さまざまな音色を奏でる日本の伝統楽器を軸に、日本の音楽を紹介する。映画の中で、どのように日本の楽器の音が使われているかについても取り上げる。 「日本伝統音楽」というと、古臭くて面白くないもの、というイメージがあるかもしれない。雅楽、声明、平家、能楽、地歌、箏曲、尺八楽、長唄、義太夫節など、多くの種目に分かれていてわかりにくいこと、現代社会では身近に楽しむ機会が減っていることが、そうしたイメージの背景にある。しかし、日本伝統音楽は過去の遺物ではない。古典のみでなく新作も盛んに行われ、現代に生きる日本の文化の一つとして、その魅力を日々深めている。この授業では、新作も積極的にとりあげる。また、能、歌舞伎、文楽などを例に、演劇や舞踊などの視覚芸術と結びついた日本音楽の特徴についても考える。							
到達目標	この授業の究極の到達目標は、日本人が育んできた音に対する繊細な感覚を見つめ直すことによって、日本の文化全般に対する興味を広げることである。まずは、その入り口として、日本の伝統的な楽器の特徴と歴史を理解することを目標とする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス、日本伝統音楽の特徴と種類						
	2	弦鳴楽器のいろいろ ①琵琶						
	3	弦鳴楽器のいろいろ ②箏と琴						
	4	弦鳴楽器のいろいろ ③三味線						
	5	弦鳴楽器のいろいろ ④胡弓						
	6	気鳴楽器のいろいろ ①雅楽の「吹き物」						
	7	気鳴楽器のいろいろ ②能管と篠笛						
	8	気鳴楽器のいろいろ ③尺八						
	9	膜鳴楽器のいろいろ ①能楽に使われる鼓類						
	10	膜鳴楽器のいろいろ ②歌舞伎に使われる鼓類 ③創作和太鼓						
	11	体鳴楽器のいろいろ ①仏教儀礼に使われる楽器						
	12	体鳴楽器のいろいろ ②民俗芸能に使われる楽器						
	13	楽器の製作方法						
	14	越境する伝統楽器						
	15	日本の楽器や芸能に関連する映画から						
授業外学習	日本の楽器の豊かな表現や、そうした音を用いた作品(映画を含む)に対する関心を広げられるよう、授業時に紹介する視聴覚資料や演奏会情報を参考にしながら、授業外にも自らの耳を研ぎ澄ますことを期待します。							
教科書	毎時、プリントを配布して授業を進めます。参考書については、適宜、授業内で紹介します。							
主要参考書	—							
評価方法	出席回数40%、授業時のリアクションペーパー20%、期末課題レポート40%の割合で評価します。 出席回数が授業総数の3分の2に満たない場合には不可とします。							

科 目 名						担 当 者 名			
文学Ⅰ 〈近・現代文学テキスト講読〉						関川 夏央			
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
教養	A群	選択	講義	2	1・2・3・4	前期	C2(2×7+1)	白山	
履修条件	—								
授業概要	近代文学の、おもに短編を、または中長編の部分を、「常識」にのっとり読む。その過程で日本近代史の流れを追ひ、「常識的」歴史観を形成する。								
到達目標	近・現代文学テキストの読解を通じて、日本人の外国文化との接触のあり方を学び、日本近・現代史像を把握する。								
授 業 計 画	回数	内 容							
	1 2	「序論」——1906年3月、作家漱石の出発。 『坊っちゃん』を読む①							
	3 4	漱石留学——1900年秋～1903年初。その経路、その経験。 20世紀的世界の実情。 正岡子規宛書簡によるロンドン報告。							
	5 6	漱石の英国体験の結実——「クレイグ先生」および 「下宿」「過去の匂い」分析。							
	7 8	魯迅の日本留学——1902年来日。その経緯と作品「藤野先生」 清国留学生と「辛亥革命」							
	9 10	『坊っちゃん』精読②——1895年の松山赴任と1906年の『坊っちゃん』執筆の相関。							
	11 12	樋口一葉の1895年——ベンチャービジネスとしての作家専業。 一葉の野心、樋口家の生活。							
	13 14	『坊っちゃん』精読③——その後の漱石と魯迅。 大都会東京の成立と新たな人間関係のありかた。							
	15	「まとめ」——明治から大正へ、時代精神の移ろい。							
	授業外学習	授業でとりあげる作品は通読しておく。							
	教科書	他のテキストはコピーで配布する。							
	主要参考書	特になし							
	評価方法	出席60%、平常点30%、レポート10%							

科 目 名						担 当 者 名		
英米文学						大友 りお		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義	2	1・2・3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	テキストの購入 【読替科目】 英米文学精読(～2016年度)							
授業概要	米国の作家レイモンド・カーヴァーの短編小説は村上春樹の翻訳により日本でも広く読まれている。本講では短編集『大聖堂』(Cathedral、1983)に含まれる12編を読み、そこに描かれる「普通の人の日常」について考え、現代日本社会に生きる自分の日常を見つめ直す。ミニマリズムの巨匠と言われるカーヴァーの文体は、短い文と「普通の言葉」を使って、感情の揺れや人間関係のキビを効果的に描いており、一遍がそれぞれ独立した映像のドラマとして読者に受け取られつつ、全体としてはカーヴァー独自の世界を醸し出している。カーヴァーの作品をオムニバス方式にした映画『ショート・カット』(ロバート・アルトマン、1993)とオーストラリアに舞台を移した映画『ジンダバイン』(レイ・ローレンス、2006)の二作を鑑賞し、そこに生まれるメッセージの違いについて考える。							
到達目標	物語を読む力をつけ、自分の創作に役立つ手法を学ぶ。とくに、物語の構成が見えるようになることと、「日常」の中にテーマを発見することができるようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	講義:作家と作品の背景						
	2	講義:視点の問題						
	3	講義:カーヴァーとミニマリズム						
	4	講義:語り手の問題						
	5	講義:趣向と依存症の差異:映画鑑賞『28デイズ』(ベティ・トーマス、2000)						
	6	講義:アメリカ社会						
	7	講義:作品の中の女性たち						
	8	講義:村上春樹の文学						
	9	講義:アルトマンの映画作品・レビューを読む						
	10	映画鑑賞:『ショートカット』(ロバート・アルトマン、1993)						
	11	「ショートカット」に使用された原作短編を読む						
	12	講義:オーストラリアの表象						
	13	映画鑑賞:『ジンダバイン』(レイ・ローレンス、2006)						
	14	二作品の比較・ディスカッション						
15	講義:課題短編「大聖堂」ディスカッション							
授業外学習	読書(2－3時間)・レポート作成(3時間)							
教科書	レイモンド・カーヴァー著、村上春樹訳『大聖堂』中央公論新社、2007年							
主要参考書	—							
評価方法	毎週の課題(60%)、レポート(40%)							

科 目 名						担 当 者 名		
サブ・カルチャー論						大澤 信亮、藤田 直哉		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義 (ペア)	2	1・2・3・4	後期	B1(3×5)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	この授業では主に、マンガ、アニメ、ゲーム、SF、特撮、キャラクター文化といった、映画の近傍に位置する表現ジャンルについて学ぶ。進行としては、全15回中、6コマを大澤が担当し、9コマを藤田が担当する。受講者には毎回、レポートの提出を義務付ける。ここで扱われる対象は、いずれも近年、日本の有力コンテンツ産業として注目を浴びている。たとえば、マンガの実写映画化はすでにありふれた事態になっており、これから映画を作っていく人間にとって、マンガの知識は前提として要求される。とはいえ、視覚表現として映画と共通する一方、それらの表現ジャンルには固有の性質もある。そのような差異について理解することは、映画を作るという限定的な目的以前に、日本文化について理解を深めるために必要である。(なお内容については状況に応じて変更される可能性もある)							
到達目標	映画の周辺領域にある様々な映像表現の固有性と歴史性について理解する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	イントロダクション——サブカルチャーとは何か						
	2	マンガの歴史——その身体性の変遷、手塚治虫「勝利の日まで」から古屋兎丸『ライチ光クラブ』へ						
	3	構造と表現——『ONE PIECE』と『NARUTO』の比較、コマのつながりと視線誘導、内面描写など						
	4	アニメーションの歴史——『海の神兵』と『白蛇伝』						
	5	ディズニーと宮崎駿——フル・アニメとリミテッド・アニメ						
	6	アニメーションと思想——ヤン・シュヴアンクマイエル、ユーリ・ノルシュテイン、クエイ兄弟						
	7	コンピューターゲームの歴史——2Dから3Dへ						
	8	ゲームと社会——ゲーム化する社会、社会化するゲーム						
	9	ゲーム的リアリティの未来——現実感覚の再編成						
	10	戦後日本とサイエンス・フィクション——サブカルチャーの原点として						
	11	『ゴジラ』——日本にとって特撮映画とは何か						
	12	日本SFから、オタク・カルチャーへ——SF作家たちの軌跡						
	13	キャラクター文化の発展——ゴジラからポケモン、サンリオへ						
	14	「テクノロジー／キャラクター」国家としての日本文化——国外での受容と研究						
	15	総評——サブカルチャーはどこに向かうか						
授業外学習	マンガ喫茶やインターネット等で、自分の好きなマンガを読み直し、アニメを見直ししておくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	特になし。							
評価方法	各回の課題(20%×5回)。							

科 目 名						担 当 者 名		
哲学						田 辺 秋 守		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特に履修条件はない。							
授業概要	哲学は「問い」を立て、議論し、反論を思い描き、その概念が有効なのかを考えてみるという仕方で行なわれる。哲学の主な営みは、「観念」や「概念」を問い直し、理解することである。本年度は、「行為の哲学」について講義する。人間の行為はなぜ動物の行動と違うのか。人間に本質的な行為とは何かをじっくりと考えてみたい。人間の行動や行為は、映画を考える上で決定的に重要な要素である。							
到達目標	受講後には、人間の行為をより深い観点から考えられるような地点に立っているようにしたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	行為の哲学:行為とは何か						
	2	アリストテレス『ニコマコス倫理学』における行為の問題						
	3	悲劇的行為について:アリストテレス『詩学』						
	4	悲劇的行為と喜劇的行為:ヘーゲル『美学』						
	5	人間の行為と性格の関連:カント『人間学』						
	6	意志的行為と非意志的行為:リクール(1)						
	7	自由と必然性(行為の限界・感情の脆さ):リクール(2)						
	8	無意識的行為の問題:フロイト						
	9	悪の行為の問題(1):カント「根源悪」						
	10	悪の行為の問題(2):シェリング「悪の実在性」						
	11	悪の行為の問題(3):ニーチェ『善悪の彼岸』『道徳の系譜学』						
	12	悪の行為の問題(4):ハンナ・アーレント「凡庸な悪」						
	13	非人間学的行為の問題(1):ニーチェと〈超人〉						
	14	非人間学的行為の問題(2)フーコーと〈怪物〉						
	15	映画における行為の問題:ドゥルーズ「行動イメージ」						
授業外学習	授業では断片的にしか触れられない著作(オリジナルな著作)を、一編くらいは全部を読むこと。							
教科書	特になし。毎回授業時にプリントを配布する。							
主要参考書	廣松渉他編『岩波哲学・思想事典』岩波書店、木田元編『コンサイス20世紀思想事典』三省堂、アンドリュース・エドガー他『現代思想芸術事典』青土社							
評価方法	期末試験60% 出席30% リアクションペーパー10%							

科 目 名						担 当 者 名		
文学Ⅱ 〈近・現代文学テキスト講読〉						関川 夏央		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	「文学Ⅰ」を履修していることが望ましい。							
授業概要	「文学Ⅰ」につづき、日本近・現代文学のおもに短編を、または中長編の部分を、「常識」にのっとり精密に読む。その過程で日本近・現代史の流れを追い、「常識的」歴史観を形成する。							
到達目標	近・現代文学作品の読解を通じて、「時代精神」の変遷を理解し、世界の中の日本のイメージを把握する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1 2	「序論」——森鷗外『舞姫』を読む① 鷗外留学、その経緯と鷗外の「青春」。						
	3 4	『舞姫』を読む②——鷗外のドイツ体験。 漱石のそれとの比較。						
	5 6	文学産業の成立——石川啄木の彷徨。 「短歌」のリズムによる回想と抒情の成立。						
	7 8	『舞姫』から「普請中」へ——帰国後の鷗外。 「始末書文学」『舞姫』と鷗外の小倉左遷。						
	9 10	鷗外の歴史小説への転換——大正期の時代精神。 「明治」の総括。						
	11 12	「新しき村」と「赤い鳥」——コミュニケーションと「童心主義」 武者小路実篤、鈴木三重吉の実験。						
	13 14	江戸、明治、大正における「海外文学」の受容のありかたと変遷について。 ——馬琴、二葉亭、小山内薫に見る受容。						
	15	「まとめ」——時代精神と文学の相関。						
	授業外学習	授業でとりあげる作品は通読しておく。						
	教科書	主テキスト以外のテキストはコピーで配布する。						
	主要参考書	特になし。						
	評価方法	出席60%、平常点30%、レポート10%						

科 目 名						担 当 者 名		
映画で学ぶ歴史と社会Ⅳ〈セクシュアリティとジェンダー〉						大友 りお		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	B1(3×5)	白山
履修条件	授業に出席し、ディスカッションに積極的に参加する意図がある人							
授業概要	本講の第一目標は、これまで「あたりまえ」だと思っていたことが、実は歴史的に形成されたひとつの視点であったことに気づくことである。大学で身につける教養は、「あたりまえ」にひそむ歴史的な背景とそれに関わる権力の存在を知ること、そしてその上で新たな自分の視点を獲得することだとも言える。ここでは、映画作品の分析を通して、性差の複雑なメカニズムについて一緒に考え、この「あたりまえ」を検証していく。授業は、映画を鑑賞し、ワークシートの質問に答え、それをもとに意見交換をする。講義では第三の波と呼ばれるフェミニストたちが到達したクイア理論と、その過程に大きく関わったミッシェル・フーコーの思想を中心に、身体、欲望、他者、表象などについて分かりやすく解説していく。							
到達目標	受講後学生は、文学テキスト、広告、映像メディアを通して表現されるすべての物語を、性差の局面から分析することができるようになり、自分自身の生き方と創作にそれを反映させる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画『ミルク』に見る1970年代のアメリカ:同性の身体を欲望すること						
	2	ワークシートとディスカッション						
	3	講義:ミッシェル・フーコー『性の歴史』解説:アイデンティティとしてのホモセクシュアリティ						
	4	映画『ハッシュ』に見る結婚しない女性の身体						
	5	ワークシートとディスカッション						
	6	講義:女性の欲望の表象について:『ガールフレンド』と『砂の女』を通して						
	7	映画『プリシラ』に見る性差をパフォーマンスする身体						
	8	ワークシートとディスカッション						
	9	講義:過剰なフェミニニティとマスキュリニティの行方						
	10	映画『ビューティフル・ランドレット』に見る移民と階級のクイアな空間						
	11	ワークシートとディスカッション						
	12	講義:「他者は誰か、他者の身体は自分にとって重要か」という問いについて						
	13	校外学習「アクティヴミュージアム:女たちの戦争と平和資料館」訪問						
	14	ゲスト講師による特別講義『日本軍慰安婦の問題を考える』						
	15	ドキュメンタリー鑑賞とディスカッション						
授業外学習	ワークシートを持ち帰り、次の授業までに書き直し、書き換えて提出する							
教科書	なし							
主要参考書	授業内で提示							
評価方法	ディスカッションと発表(60%)・ワークシート提出(40%)							

2017年度						2018年度		
科 目 名						担 当 者 名		
演劇WS(ワークショップ) I						天願 大介		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	演習	2	1・2・3・4	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	事前の知識はとりあえず必要とされない。しかし、特別にやむを得ない事情のない限り、全回出席することが履修の条件となる。 (4年は2017年度のみ開講)							
授業概要	ワークショップとは体験を通じて学ぶ講座のこと。この講座では演技の基本であるいくつかの要素を体験することで、映画制作における俳優の役割をより深く理解する。しかし俳優を訓練するのが目的ではない。あらゆる表現は筋肉の運動である。その発見を各自の創作活動にフィードバック出来るようにするため、最後に身体を使った短いドラマを創作する(講師の都合によりスケジュールは入れ替わることがある)。							
到達目標	全員が俳優を体験することで身体がすべての基本であることと、その重要性を意識する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1・2	身体を使った表現とは何か 身体表現概論。						
	3・4	舞踏家によるワークショップ1(肉体の発見)。						
	5・6	舞踏家によるワークショップ2(肉体の可能性)。						
	7・8	俳優によるワークショップ(感覚の記憶 感情の記憶)。						
	9・10	身体表現でのドラマ作り1。						
	11・12	身体表現でのドラマ作り2 舞台の設営。						
	13・14	身体表現でのドラマ作り3 舞台稽古。						
	15・16	身体表現でのドラマ作り3 上演。 (講師のスケジュール次第では2コマ連続で行う)						
授業外学習	生活の中で身体感覚を意識する。							
教科書	特になし。							
主要参考書	特になし。							
評価方法	出席および受講態度を総合的に評価し(全回出席することが条件)、最後にレポートを提出。							

科 目 名						担 当 者 名		
映画文化特殊講義Ⅰ〈身体・思想〉						高橋 世織、中所 宜夫、畑中 健二		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義 (オムニバス)	2	2・3・4	前期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	《能楽》については、観世流シテ方の能楽師である中所宜夫講師の講義をベースに謡や舞の鑑賞、実際の舞台の映像鑑賞を踏まえて、実際に「スリ足」や「発声」を体験する。また身体論も見据えつつ日本の精神史(政治思想史)を政治・社会・文化等の横断的観点から、その本質と真髄を畑中講師から学ぶことになります。高橋は、『古今和歌集』(905年)の仮名序から、我が国の言葉の思想の原質・源流を考えてみます。担当講師は全員、歴史や思想、芸能の基本知識や教養に関してもわかりやすくレクチャーいたします。能のWSでは白足袋(700円程度)を各自購入してもらいます(事務所で販売)。コーディネーター高橋は(1)、畑中講師は(2～7)、中所講師は(8～15)を其々担当。なお、担当日のローテーションは若干変更の可能性もあるかもしれません。開講前に詳細・確定版を掲示します。							
到達目標	室町時代初期の観阿弥・世阿弥によって作られた能、さらに江戸時代の国学思想。本講では中世から近現代に至る身体・思想の流れを大きくとらえる視点や歴史的感性を体得・感得してもらおう。そもそも身体を身ぐるみ表象してしまう《映画》芸能と関わる諸君は、身体で考え、身体を考えるセンスを養い磨くことが求められよう。映画文化の基盤を根底から学ぶことを意味するものだ。能のWSでは、間違わずに舞うよりも、しっかりした体幹を身に付け、美しく力強い動きが出来るよう、また豊かな深い声を出すこと、美しい日本語の詞章を味わうことも大きな目標。頭で考えるよりも足裏で世界を考え感じよ。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	(はじめに)『古今和歌集』(905年)の仮名序(紀貫之か?)と真名序の比較——我が国の言葉の思想の原質と源流を考える						
	2	江戸政治思想における「忠臣蔵」の意味						
	3	文字と声——江戸後期の「自然」をめぐる論争						
	4	ディスカッションのすすめ——福澤諭吉『会議弁』の目指したもの						
	5	文明開化と民衆宗教——明治の立身出世競争再考						
	6	歴史と嘘——皇国史観を「文字禍」から考える						
	7	悪と民主主義——丸山眞男を読む						
	8	講義「能の歴史と世阿弥」。世阿弥の天才に迫る。						
	9	講義「江戸式楽としての能」。						
	10	体験「稽古の実際」(スリ足と発声)。						
	11	仕舞と謡『羽衣』より(1)。						
	12	講義『羽衣』について。						
	13	講義「世阿弥の後継者たち、そして伝承へ」。						
	14	鑑賞『羽衣』。詞章を吟味しながら、一曲を鑑賞。						
	15	仕舞と謡『羽衣』より(2)。まとめ。						
授業外学習	能楽は江戸期に武士の式楽として完成された。修身と学問に心を尽くした武士たちの価値観と美意識を反映して、能はその実践の細部までこれからの日本を生き抜いて行くための参考になります。特に指定はないが、演能を実際に能楽堂で観能されたい。(中所)							
教科書	観世流参考謡本『羽衣』(能楽書林。事務所で販売)。							
主要参考書	渡辺浩『日本政治思想史』(東大出版会、2010年)他、授業時に指示します(畑中)。 中所宜夫『能の裏を読んでみた 隠れていた天才』(Kindle出版)(中所)							
評価方法	①出席および能WSでの態度:40%②期末レポート:60% 全5日間のうち3日以上欠席した場合には原則、期末レポートを提出しても不合格となります。							

科 目 名						担 当 者 名		
美術史Ⅰ〈日本美術史〉						小川 稔		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義	2	2・3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特に定めない。							
授業概要	全15回の連続講義で日本美術史の「よみなおし」をする。古代～近世、千年以上にわたる一応の通史ではあるが、常に現在の私たちの地平から日本の歴史的美術の重要性は何かという視点を持ち続けたい。世界美術の中で日本美術にどのような特質があるのか、はたしてそれは今も有効であるかといった問題提起をわすれず、民俗、社会、政治経済などさまざまな視点から見直していく予定である。ジャンルとしては仏教美術・世俗美術の幅広い領域で生まれた絵画・彫刻・建築・工芸・版画・書、あるいはそれらから逸脱するものなどを拾い上げながら出来るだけ多くのスライドを使って講義する。							
到達目標	わが国の美術史概説をとおり学生諸君が「何か」に出会うことを期待したい。基本、常識としての日本美術史の「学び」ということだけでなく、「見る」ことを通して「考える」技術も身につけたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	古代Ⅰ― どこから始まる？日本美術史						
	2	古代Ⅱ― 飛鳥～白鳳時代の仏教美術						
	3	古代Ⅲ― 天平時代の仏像と大仏建立の前後						
	4	古代Ⅳ― 密教と平安初期の美術						
	5	古代Ⅴ― 平安時代の絵巻物について						
	6	中世Ⅰ― 王朝末期の人間模様						
	7	中世Ⅱ― 鎌倉彫刻と仏師運慶の登場						
	8	中世Ⅲ― 室町時代の禅宗美術						
	9	中世Ⅳ― 雪舟と水墨画						
	10	中世Ⅴ― 茶道の美術をめぐる						
	11	近世Ⅰ― 安土桃山時代の絵画						
	12	近世Ⅱ― 俵屋宗達と本阿弥光悦について						
	13	近世Ⅲ― 江戸時代の個性的な画家たち						
	14	近世Ⅳ― 浮世絵と民衆の美術						
	15	近世Ⅴ― 幕末から明治へ						
授業外学習	近隣の美術館、博物館などに普段から足を運び日本美術に関心をもってほしい。							
教科書	資料をその都度配布する。							
主要参考書	授業内で紹介する。							
評価方法	レポート(50%)出席状況(50%)等を総合的に評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
物語WS(ワークショップ)						大澤 信亮		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	演習	2	2・3・4	前期	B1(3×5)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	この講義の目的は「物語を論理的に作れるようになること」である。物語を作るために必要なものは天性の才能ではない。むしろ反復的なトレーニングである。受講者はダイスやグレマスの行為者モデルを簡易化したモデルを使い、まずは破綻のない物語を、次いで魅力的なプロットを、さらには固有のモチーフを展開するための方法を講義と実習によって学ぶ。最終的な目標は自力でプロットを量産できるようになることである。講義のベースはグループワークになるので、受講者は欠席や遅刻のないよう気をつけて欲しい。							
到達目標	物語とキャラクターを論理的に構築する力を身に付ける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	イントロダクション——ストーリーとは何か						
	2	主人公の造形——ダイス＝偶然の力によって生まれた者に責任を取る						
	3	グループ・ディスカッション——各班の創った主人公について意見交換を行う						
	4	敵対者の造形——主人公から論理的に逆算して創り出す						
	5	援助者の造形——主人公よりも成熟している、読者の視線を代行する者						
	6	グループ・ディスカッション——各班の創った敵対者と援助者について意見交換を行う						
	7	ストーリー創作——創造した主人公・敵対者・援助者を使って一問一答式で物語を作る						
	8	ログラインの設定——主人公は×××の状態△△△を求めているが最終的に□□□になる						
	9	主人公の内的欲求と外的欲求——基本構造としての欠損の回復						
	10	敵対者と援助者——邪魔する理由と援助する理由						
	11	世界観の設定——主人公の日常空間とそこからもっとも離れた場所の設定						
	12	物語の結末——主人公は最終的に何を不得何を失うのか						
	13	シノプシスを書く——企画書を書くための練習						
	14	ノベライズ——脚本を小説化するための練習						
	15	総評——魅力的な物語のために						
授業外学習	グループに分かれての毎回の課題作成。							
教科書	特になし。							
主要参考書	大塚英志『ストーリーメーカー』(講談社)。							
評価方法	各回の課題(20%×5回)。							

科 目 名						担 当 者 名		
演劇史Ⅰ 〈物語の原型を探る〉						石坂 健治		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義	2	2・3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	脚本・戯曲など創作の原理に関心のある者、演技者を志す者、映画や演劇の演出に興味を持つ者の参加を望む。							
授業概要	映画の大学で演劇史を学ぶことの意味は何か。ずばり、「物語の原型」に数多く接することに尽きる。古くから演じられ、語り継がれてきた物語の数々は、なぜ現代まで色褪せることがないのか。物語の普遍性とは何なのか。それを問うことは、今村昌平の言う「人間とは何と滑稽なものなのか」「総じて人間とは何と面白いものか」を検証することでもある。したがって本講は平坦な通史ではなく、現代の創作にとって重要な「物語の原型」を演劇史の中に見出すことを目標とする。本年度はギリシャ悲劇とシェイクスピアを中心に据え、日本の古典とも比較しながら進めることとする。							
到達目標	受講生が自ら創作や演技などの表現をおこなう際の「引き出し」が増えて豊かになることをめざす。							
授業計画 映画	回数	内 容						
	1	ガイダンス——映画の大学で演劇の歴史を学ぶことの意味を考える						
	2	ギリシャ悲劇(1)——「オイディプス王」「メディア」「エレクトラ」「アンティゴネー」「オレステス」などを取り上げる。主なキーワードは、神、予言、国家、王、民衆、血縁、陰謀、欲望、殺戮、不条理、など。						
	3	ギリシャ悲劇(2)——同						
	4	ギリシャ悲劇(3)——同						
	5	ギリシャ悲劇(4)——同						
	6	ギリシャ悲劇(5)——同						
	7	シェイクスピア(1)——「ハムレット」「リア王」「リチャード三世」「ヘンリー四世」「冬物語」などを取り上げる。キーワードはギリシャ悲劇の項とほぼ重なる。						
	8	シェイクスピア(2)——同						
	9	シェイクスピア(3)——同						
	10	シェイクスピア(4)——同						
	11	シェイクスピア(5)——同						
	12	日本の古典(1)——能、狂言、文楽・歌舞伎(近松、南北、黙阿弥)を取り上げ、ギリシャ悲劇やシェイクスピアと並べてみる。						
	13	日本の古典(2)——同						
	14	日本の古典(3)——同						
15	まとめ							
授業外学習	特になし							
教科書	授業時に指示する							
主要参考書	授業時に指示する							
評価方法	期末レポート80%＋出席点20%(ただし出席不良の者がレポートだけ提出してもダメ)							

2017 年度								
科 目 名						担 当 者 名		
美術史Ⅱ 〈西洋美術史〉						佐川 美智子		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義	2	2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	古代ギリシア・ローマ時代から近代まで、西欧の様々な美術作品は人類共通の遺産であり、現代でもなお視覚芸術の重要な源泉です。この講義では毎回スライドを使って西洋美術史上の多様な作品(建築、絵画、彫刻等)を通史に沿って紹介していきながら、作者や時代背景、作品の主題、解釈、造形の特色など、理解を深めるために不可欠な事柄も含め、各時代や地域の重要なトピックを取り上げていきます。また美術作品の実物に触れることを重要視しているので、優れた作品の所在地情報や、鑑賞するに値する展覧会の情報等も随時、伝えてゆく予定です。美術史の知識を持っているとより深く理解できる映画・ドラマ等も紹介します。 この講義を通じ、長きにわたり西欧の視覚芸術の根源を形成してきた伝統とその革新というダイナミックな動きに触れるとともに、現代社会で生み出されている映画やアニメーション、ゲームといった一見古いものとは無縁に思える創作物の中でも、西洋の古典的な世界が様々に参照され、引用されている事実気づくことができ、また同時にその源泉を理解することを目標とします。							
到達目標	この講義では西欧の視覚芸術の歴史に対する知識と理解を深めることを第一目標とする。また多様な美術作品に触れることで視野が広がり、異文化に対する理解が促進される。同時に、現代の映像表現に西洋美術がどのような形で生きているかを認識することができるようになる。							
授業計画	回数	内 容						
	1	導入編:なぜ西洋美術を学ぶのか、その意義や面白さについて／受講生へのアンケート実施(西洋美術の知識、興味のあり方、本講義に期待するもの等)。						
	2	西欧世界の美の規範、そのルーツ① 古代ギリシアの建築と美術(古典古代)						
	3	西欧世界の美の規範、そのルーツ② 古代ローマの建築と美術						
	4	中世ヨーロッパ:キリスト教世界の成立と隆盛 教会、為政者、民衆→ロマネスクからゴシックへ						
	5	ルネサンスの始まり イタリアの都市国家の発達と美術						
	6	盛期ルネサンス 天才の時代 レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロなど						
	7	初期ネーデルラント絵画 ヤン・ファン・エイクほか						
	8	北方ルネサンス／宗教改革期の美術 アルブレヒト・デューラー、ルーカス・クラナハ(父)ほか						
	9	北方ルネサンス+独自路線をゆくヒエロニムス・ボス、ピーテル・ブリューゲルほか						
	10	バロック期 レンブラントの光と影、ルーベンスの豊穡、カラヴァッジオの演劇性						
	11	近代の幕開け:ゴヤ、ブレイクなど						
	12	19世紀 変革の時代、視覚の革命→リアリズムから印象派へ						
	13	世紀末から20世紀 セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャンや象徴主義など						
	14	20世紀→世界大戦の時代 ピカソ、ダリなど						
15	現代の美術 多様化する表現領域							
授業外学習	できるだけ実物に触れることが望ましいので、講義中に足を運ぶ意義のある展覧会を紹介します。							
教科書	特になし。							
主要参考書	講義中に紹介。							
評価方法	期末レポート							

科 目 名						担 当 者 名		
批評論						大澤 信亮		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	講義	2	2・3・4	後期	B1(3×5)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	本講義の目的は、創作にとって批評が不可欠であることを理解し、それを現実において実践するための批評理論の基礎を学ぶことである。創作とは意識的な行為である。その意識を自己吟味することは、一方で同時代の受け手の希求を読むことであり、他方で創作行為の普遍性のなかに自らを位置付けることでもある。この授業では、現代を代表する批評家の本を、毎回、グループで読む。受講者は班毎に、論旨の要約、語彙の確認、論点の提出などの役割を分担し、講義内で発表し、ディスカッションを行うことになる。							
到達目標	論旨の要約、語彙の確認、論点の提出などを通して、批評文を読む基礎的な力を身に付ける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	イントロダクション——批評とは何か						
	2	日本の批評——小林秀雄から江藤淳・吉本隆明を経て柄谷行人へ						
	3	山城むつみ——現代における伝統的な日本の批評を体現する存在としての						
	4	山城むつみ「小林批評のクリティカル・ポイント」の解説						
	5	小林秀雄のドストエフスキー論——主にその「禁止」と「反復」について						
	6	ポール・ド・マンの「模倣論」						
	7	山城むつみ「戦争について」の解説						
	8	坂口安吾——主に「文学のふるさと」における反戦について						
	9	カント哲学における「崇高と美」						
	10	山城むつみ「万葉集の「精神」について」の解説						
	11	保田與重郎——主に『万葉集の精神』における参戦について						
	12	ハイデガー哲学における「詩」の問題						
	13	山城むつみ「文学のプログラム」の解説						
	14	本居宣長——主に『古事記伝』における日本語の分析						
	15	ジャック・ラカンの精神分析と言語分析						
授業外学習	グループに分かれての毎回の発表のための資料作成。							
教科書	山城むつみ『文学のプログラム』（講談社文芸文庫）							
主要参考書	特になし。							
評価方法	各回の課題（20％×5回）。							

科 目 名						担 当 者 名		
演劇WS(ワークショップ)Ⅱ						天願 大介 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	A群	選択	演習	2	3・4	後期	E(集中)	新百合ヶ丘
履修条件	「演劇WSⅠ」を履修していること。							
授業概要	当講座は俳優のワークショップではない。映画を作る方法を学ぶのと同じように、演劇を作る方法を学ぶ。映画監督と舞台演出家の違い、映画の演技と舞台演技の違いを理解する。学生たちがエチュードを重ねて短いドラマを作り、上演する。俳優はすべて学生。スタッフも学生。指導は天願とプロの舞台監督、演劇スタッフが行う予定。 ※隔年開講科目のため、2017年度は休講							
到達目標	演劇を学ぶことで映画の特性を発見し、映画と演劇を往復できる人材を育成する。							
授 業 計 画	内 容							
	全体の流れは以下のようなものになる。 人数によってエチュードの本数は増減する。 ●演劇制作と映画制作の違いについての講義。 ●エチュードを作る。 ●キャストを決定。 以下、役割ごとに同時進行。 ●稽古を重ね、構成を考え台本を修正していく。 ●美術プランと美術制作。 ●音響プランと音の仕込み。 ●照明プランと照明の仕込み。 ●衣装・小道具の準備。 ●舞台の設営と舞台稽古。 ●ゲネプロと上演(客入れ、開演、カーテンコール)。 ●総括と撤収。							
授業外学習	観劇体験をしておくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	特になし。							
評価方法	出席および受講態度を総合的に評価し(全回出席することが条件)、最後にレポートを提出。							

科 目 名						担 当 者 名		
日本語 I						晏 妮(アンニ)、山口 紀子、湯沢 まゆみ		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	B群	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	留学生は全員履修すること。							
授業概要	日本語の口語力と文章力をともに向上させる授業である。毎回テーマを決めて書く練習をしてもらう。書いてもらった文章を教員が添削して返却し、次回の授業で前回提出したものにどこにどんな問題があるのかと自己点検をしてもらったり、あるいはクラス全員に問題点を検討させたりする形式によって授業を進める。映画をめぐる話題を中心に、時々テキスト(映画史、理論の本かシナリオ)を読んでもらったりもする。言葉のニュアンスも含めて正確に翻訳でき、そして短い文章から徐々に比較的長い文章を書くことができるように、学生とコミュニケーションをとりながら、授業を進めるつもりである。 なお、本科目はA・B・Cの3クラスに分かれて行う。所属クラスの発表は掲示で行う。							
到達目標	15回の授業を通して、日本語の口語表現と文章表現がともにアップできたと実感させることを到達目標とする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	科目の説明、受講生の日本語による自己紹介						
	2	課題:最近見た一本の映画について感想を述べる						
	3	課題:この作品の特徴について						
	4	課題:なぜこの作品が好きなのか						
	5	課題:好きな映画ジャンルについて						
	6	課題:もし自分に映画を撮る機会が与えられたら、どんな作品を撮りたい(書きたい)のか						
	7	課題:もし自分に映画を撮る機会が与えられたら、どんな作品を撮りたい(書きたい)のか						
	8	課題:どのように撮る(書く)のか						
	9	課題:どのように撮る(書く)のか						
	10	課題:テキストを読んで翻訳を試みる。						
	11	課題:テキストを読んで翻訳を試みる。						
	12	課題:作品分析レポート						
	13	課題:作品分析レポート						
	14	日本語による討論会						
15	総括と自己採点							
授業外学習	なるべく日本語の新聞、雑誌、小説、シナリオと映画関係の書籍を多く読むことを勧める。							
教科書	なし							
主要参考書	なし							
評価方法	出席率70%、期末試験30%の割合で総合的に評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
日本語Ⅱ						守内 映子		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	B群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	E(集中)	白山
履修条件	日本語の基礎力を身につける必要があると認められた者で、全授業に出席できる者。 日本語を母語としない者。							
授業概要	総合的な日本語力のベースアップを目的とし、四技能(読む・聞く・話す・書く)を総動員して学習する。比較的身近なテーマのコラム、エッセイ、伝記、対話を読んで、事実関係や物事の経緯、筆者の主張や意図を把握する練習を行う。そして、テーマに基づいて自分の意見を書き発表することを通して、必要な語彙・表現を自律的に学ぶ。さらに、やさしい日本語で書かれ話される日本事情や情報を聴き取り、その内容を数行に要約し、話題について話し合う。また、人前での口頭発表やプレゼンテーションが成立する発音ができるように、日本語のフレージングやイントネーションを中心に、毎回発音練習を行う。							
到達目標	1)文章の型・構成・キーワードを意識して読み、書けるようになる。 2)受け手に伝わるように自分の考えを述べる日本語を知る。 3)話し手の意図や内容を正確に聞き取ることができるようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	オリエンテーション、自己紹介と他己紹介、発音練習、読解テーマ1(トピック導入、語彙導入、本文大意取り)						
	2	発音練習、会話と表現練習(出会いと紹介の表現)、ニュース聴解(記事の聞き取り、要約、意見交換)						
	3	発音練習、読解テーマ1(文法学習、練習問題、本文内容理解)						
	4	発音練習、読解テーマ1(語彙・表現・文型練習、タスク活動、テーマに関する作文)						
	5	発音練習、会話と表現練習(伝聞と様態の表現)、ニュース聴解(記事の聞き取り、要約、意見交換)						
	6	発音練習、読解テーマ2(トピック導入、語彙・表現導入、文法学習、練習問題、本文内容理解)						
	7	発音練習、会話と表現練習(トラブル解決の表現)、ニュース聴解(記事の聞き取り、要約、意見交換)						
	8	発音練習、読解テーマ2(語彙・表現・文型練習、タスク活動、テーマに関する作文)						
	9	発音練習、読解テーマ2(作文のピア・ラーニング、修正稿執筆、発表)						
	10	発音練習、読解テーマ3(トピック導入、語彙・表現導入、文法学習、練習問題、本文内容理解)						
	11	発音練習、会話と表現練習(失敗と謝罪の表現)、ニュース聴解(記事の聞き取り、要約、意見交換)						
	12	発音練習、読解テーマ3(語彙・表現・文型練習、タスク活動、テーマに関する作文、ピア・ラーニング、発表)						
	13	発音練習、会話と表現練習(電話の表現)、ニュース聴解(記事の聞き取り、要約、意見交換)						
	14	発音練習、読解テーマ4(トピック導入、語彙・表現導入、文法学習と練習問題、本文内容理解)						
	15	発音練習、読解テーマ4(タスク活動、テーマに関する作文、ピア・ラーニング、発表)						
授業外学習	事前に指定されたニュースを聴解し、内容を把握し要約してくる。また、読解文の予習をし、少なくとも分らない言葉は調べておく必要がある。復習として文法の宿題を出すので、必ず問題を解いて提出すること。作文の宿題が出た時は、与えられた条件で執筆してくる。							
教科書	読む力-中級(くろしお出版、2011年刊行、奥田純子監修、1600円＋税)、NHK News Web easy、日本語会話生中継-初中級編(くろしお出版、2008年刊行、ボイクマン総子他著、1800円＋税)、教師作成自主教材プリント							
主要参考書	—							
評価方法	出席率と授業参加態度(50%)、授業内活動及び課題評価(50%)							

科 目 名						担 当 者 名		
日本語Ⅲ						山口 紀子		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	B群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	日本語を母語としない者で、日本語能力試験 N1を未取得の者。							
授業概要	日本語能力試験N1受験のための対策講座である。まずは模擬テストにより現在の実力を測り、不足している日本語能力及び試験合格までに獲得が必要な言語知識の自覚を促す。その上で次回受験までの学習計画を各人に立ててもらう。授業では、能力試験の①文字・語彙②文法③読解④聴解の各分野における多様な問題形式を体験し、パターンに慣れることで、N1受験に必要な回答技術を養う。また、講義と練習を通して、各分野におけるN1レベルの言語知識の習得と言語運用能力の向上を目指すものである。本授業では毎回予習課題を課す。学生諸君の自律的な学習態度に期待している。							
到達目標	①日本語能力試験の多様な問題パターンを理解する。 ②N1レベルの日本語能力を獲得する。 ③能力試験受験までに必要な自律的学習態度を身につける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	オリエンテーション						
	2	N1模擬試験Ⅰ（言語知識・読解）・解答・ふりかえり・自己目標の設定						
	3	小テスト、文法①・読解①						
	4	N1模擬試験Ⅰ（聴解）・解答・ふりかえり・自己目標の設定						
	5	小テスト、文法②						
	6	読解②、聴解①						
	7	小テスト、文法③						
	8	読解③、聴解②						
	9	小テスト、文法④						
	10	読解④、聴解③						
	11	小テスト、文法⑤						
	12	読解⑤、聴解④						
	13	N1模擬試験Ⅱ（言語知識・読解）						
	14	N1模擬試験Ⅱ（聴解）						
15	模擬試験の解答とふりかえり、今後の自己目標設定							
授業外学習	語彙については配布プリントの予習を求めます。また、文法は授業で扱った内容の復習問題を宿題に課します。宿題の内容について、毎回授業の始めに15分程度の小テストを行います。							
教科書	授業はプリント中心に進めます。							
主要参考書	「パターン別徹底ドリル日本語能力試験N1」アルク 「新完全マスター 日本語能力試験N1シリーズ」スリーエーネットワーク 「日本語能力試験公式問題集N1」国際交流基金 「どんなときどう使う日本語表現文型500」							
評価方法	授業への参加態度＝50%、小テスト(毎授業)＝15%、宿題提出＝15%、期末試験(N1模擬テストⅡ)＝20% 総点で80％以上をA、70％以上80％未満をB、60％以上70％未満をCと評価します。出席回数は全体の3分の2以上が必要で す。							

2017年度 科 目 名						担 当 者 名		
英語 I 〈実践英語〉						学谷 亮		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	B群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	高校までの単語と文法を理解していること。(英語IとIIのどちらを先に履修しても良い)							
授業概要	この授業では、高校までに学んだ単語と文法を用いて日常の会話文がスムーズに作れるようになることを目標とする。毎週与えられた短い文を暗記して小テストを受け、単語を入れ替えてバリエーションを作る。また、配布される会話文を完成させて、二人一組でそれを演じたり、スクリーン・ミュージックで広く愛されている歌の歌詞を学び、歌うなど、アクティビティに積極的に参加することで、英語の発話力をつける。毎週の小テストと授業内で行う最終テストで成績を評価する。							
到達目標	学生は英語を「教えてもらう」のではなく、「自分で学ぶ」視点と態度を獲得し、今後の自己学習を可能にする方法を探る。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	01) I do...の形 02) Do...? の疑問文						
	2	03) 04) am, is, are...物事の情報						
	3	05) am, is, are...の疑問文 06) There is...存在と位置						
	4	07) It...が示すもの 08) This is と That is						
	5	09) have...自分のもの 10) 時間の流れの中の「今」						
	6	11) 現在形と現在進行形 12)過去のあゑ一点						
	7	13) 過去の疑問文 14) 過去のあゑ一定の期間						
	8	15) 今決めた未来 16)もう決まっていた未来						
	9	17) will と be goint to 18)依頼する can, could						
	10	19) may と might 20) should と must						
	11	21) 便利な would 22)ていねいな shall						
	12	23) What...? 24) Why...?						
	13	25) Which...? 26)When and where...?						
	14	27) How...? 28) Let's ...						
	15	授業内まとめテスト						
授業外学習	毎週与えられた文を暗記し、応用できるよう練習する (予習は2時間以上必要)							
教科書	『毎日の英文法:頭の中に「英語のパターン」をつくる』 朝日新聞出版 2017年 (「英語Ⅱ」で、後半を使用する)							
主要参考書	特に無し							
評価方法	小テスト(50%) 授業内最終テスト(50%) 出席が10コマに満たない者は最終テストの受験資格を失う。							

科 目 名						担 当 者 名		
情報メディア論						中川 譲		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	B群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	B1(3×5)	白山
履修条件	特になし							
授業概要	情報社会に生きる我々は、インターネット、テレビ、ラジオ、新聞、書籍などの様々なメディアとそれらを支える技術によって、膨大な量の情報を伝達し合っている。現代社会で当たり前のように存在を受けて入れている様々なメディアの技術的な特質と、それらの社会的な位置付けを歴史的に理解していくことで、様々なメディアから伝達される情報を主体的に向かい合い、情報の送り手として生きていくための姿勢を探求・考察する。							
到達目標	メディアを客体化し史的な視座から理解する力を養うこと。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	メディアとは何か、定義と外縁						
	2	メディアを研究しようとする意識の歴史						
	3	メディアを理解しようとする理論						
	4	メディア理論の変遷・マス・コミュニケーション理論の展開とその限界						
	5	メディアの理論確立以前、メディアの変化と知覚の近代化						
	6	カルチュラル・スタディーズの介入						
	7	メディアの歴史・新聞と近代ジャーナリズム						
	8	電話の誕生、電話する「普通」の人達						
	9	誰が映画を誕生させたのか						
	10	メディアの歴史・ラジオの誕生とマニアたちの社交圏の邦画						
	11	テレビが「家にやって来た」						
	12	個人化するデバイスが変える都市の風景						
	13	パソコンとネットワークが変える社会構造						
	14	グローバル・メディアとしてのテレビの終焉と新しいグローバル・プラットフォーム						
	15	メディアを変革するための知						
授業外学習	教科書の熟読と、未知の語や概念についての調査を行うこと。							
教科書	吉見 俊哉 『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話 改訂版』(2012・有斐閣)							
主要参考書	山本 武利『新聞と民衆』(1973・紀伊國屋書店)、 佐藤 卓己『現代メディア史』(1988・岩波書店)、 青山 輝雄・武山 昭子『メディア史を学ぶ人のために』(2004・世界思想社)							
評価方法	複数回のレポート提出によって採点する。欠席すると大きく成績評価上不利になる。							

科 目 名						担 当 者 名		
国際合同制作〈日韓合同映画制作〉						天願 大介 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	B群	選択	演習	4	1・2・3・4	通年	F(その他)	新百合ヶ丘・白山
履修条件	事前の知識はとりあえず必要とされない。							
授業概要	日本映画大学の学生と韓国国立芸術総合学校の学生が交互に監督を出し、共同で短編作品を制作する。撮影は日本と韓国で交互に行われる。日本で撮影する脚本は韓国側が選んだものから日本側が決定する。監督は韓国、撮影技師、録音技師、主要スタッフは日本、仕上げは韓国で行う。主演俳優は韓国。翌年はそれが逆になる。この授業は日本で撮影する場合のもので、準備と現場のみ、隔年開講となる。							
到達目標	学生時代に合作を経験する。異文化に触れ、映画制作がドメスティックなものでないことを体験する。							
授 業 計 画	内 容							
	(1) 決定した脚本をもとにスタッフを編成し、ロケハン、キャスティング、諸準備を行う。 (2) 韓国チーム来日。顔合わせ。脚本打ち合わせ。オーディション等。 (3) 韓国チームが帰国している間、諸準備を進める。 (4) 韓国チーム再来日(クランクアップまで)。ロケハン、キャスティング等最終決定。 (5) クランクイン〜クランクアップ。							
授業外学習	韓国文化に触れておくこと。韓国映画を見ておくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	授業の中で提示。							
評価方法	①制作期間の出欠及びその姿勢、②出席と各課題の提出 ①と②をもとに総合的に評価							

科 目 名						担 当 者 名		
英語Ⅱ						学谷 亮		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	B群	選択	講義	2	2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	高校英語Ⅰ・Ⅱの単語と文法を理解していること。(英語ⅠとⅡはどちらを先に受講しても良い)							
授業概要	英語Ⅰと同様に、すでに知っている単語と文法を用いて日常の会話文がスムーズに作れるようになることを目標とする。毎週与えられた短い文を暗記して小テストを受け、単語を入れ替えてバリエーションを作る。この小テストの成績と授業内で行うまとめテストで成績を評価する。また、過去の卒業制作ドラマ作品の英語字幕用ダイアログ・リストを読み、自然な会話表現について学ぶ。							
到達目標	学生は英語を「教えてもらう」のではなく、「自分で学ぶ」視点と態度を獲得し、今後の自己学習を可能にする方法を探る。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	29) 受け身 30) getの使い方						
	2	31) 32) my mine myself						
	3	33)たくさん 34) 便利な a lot of						
	4	35) いくつか 36) few と a few あるのかないのか						
	5	37) ゼロのもの 38) each と every ちよつと違う						
	6	39) 説明を加える 40) at という時間						
	7	41) onと inという時間 42) atという場所						
	8	43) onと inという場所 44) on time と in time						
	9	45) for, during, while 46) by 交通手段						
	10	47) by と with 48) by と until						
	11	49) 50) 動き回る前置詞、まぎらわしい例						
	12	51) ed or ing 52) 比較級						
	13	53) 最上級 54) 副詞の ly						
	14	55) make, haveでさせる						
15	授業内まとめテスト							
授業外学習	毎週与えられた文を暗記し、応用できるよう練習する（予習は2時間以上必要）							
教科書	『毎日の英文法:頭の中に「英語のパターン」をつくる』朝日新聞出版 2017年（「英語Ⅰ」で、前半を使用する）							
主要参考書	特に無し							
評価方法	小テスト(50%) 授業内最終テスト(50%) 出席が10コマに満たない者は最終テストの受験資格を失う。							

科 目 名						担 当 者 名		
中国語						劉 書明		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	B群	選択	講義	2	2・3・4	後期	A1(1×15)	白山
履修条件	中国語学習初心者(中国人留学生は履修不可)。							
授業概要	本講座は、初めて中国語に接する初心者を対象に、中国語の基礎知識を教えると同時に、今後、中国人と交流をはかる際に参考にできることを目的とする。発音、文法、文型、文字(略字)を始め、基本会話を中心に行う。							
到達目標	受講者が本講座を通して、中国語の基本知識、中国語とは、中国語の発音とは、中国語の文法とはについて勉強し、今後独学が出来る技術を身につける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	授業内容、進行方法等の概説						
	2	第1回 発音①						
	3	第2回 第1課 御名前は？						
	4	第3回 練習、復習						
	5	第4回 第2課 これは何ですか？						
	6	第5回 練習、復習						
	7	第6回 第3課 どこへ行きますか？						
	8	第7回 練習、復習						
	9	第8回 第4課 これはいくらですか？						
	10	第9回 練習、復習						
	11	第10回 第5課 ご飯食べましたか？						
	12	第11回 練習、復習						
	13	第12回 第6課 夕方に時間がありますか？						
	14	第13回 総合復習						
	15	小テスト						
授業外学習	—							
教科書	「中国語はじめての一步」白水社(2200円)							
主要参考書	日中辞典、中日辞典 小学館							
評価方法	出席30%、平常点30%、定期試験30%、その他10%							

科 目 名						担 当 者 名		
韓国語						ハン・トンヒョン		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	B群	選択	講義	2	2・3・4	後期	A1(1×15)	白山
履修条件	とくにないが、基本的には完全な初心者対象(韓国人留学生は履修不可)。							
授業概要	完全な初心者を対象に、ハングル(文字)の読み方から始め、韓国語であいさつと簡単な自己紹介ができるレベルを目指す。また折に触れて講師が以前携わっていた報道番組の字幕制作の経験や朝鮮半島の歴史、社会、文化などについても紹介することで、学生たちの視野を広げることに寄与したい。							
到達目標	ハングルを読めること、自分の名前が書けること、韓国語であいさつと簡単な自己紹介ができること。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス・イントロダクション～〈基礎〉第1課 韓国語について						
	2	〈基礎〉第2課 基本の母音						
	3	〈基礎〉第3課 基本の子音						
	4	〈基礎〉第4課 複合母音						
	5	〈基礎〉第5課 パッチム						
	6	〈基礎〉第6課 発音の変化～〈基礎〉第7課 あいさつ						
	7	中間まとめと復習						
	8	第1課 私は浅井ゆかりです						
	9	第2課 出身はソウルですか						
	10	第3課 図書館ではありません						
	11	第4課 時間がありますか						
	12	第5課 何をしますか						
	13	第6課 貿易会社で働いています						
	14	第7課 服を買います						
	15	第8課 スーパーでよく買います						
授業外学習	原則として毎回課す予定の小テストのためにも授業後の復習を欠かさないように。教科書付属のCDも活用を。日常的に韓国語への関心を持ち意識を高めることも重要。またカリキュラム上、教科書の最後まで進むことができないので、興味と意欲のある人は引き続き独学を(それが可能な教科書を選定した)。							
教科書	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級【改訂版】』木内明(国書刊行会、2013年)							
主要参考書	—							
評価方法	期末テスト60%+基本的に毎回課す予定の小テストと出席などの平常点40%							

科 目 名						担 当 者 名		
著作権概論 〈著作権と表現の自由との衝突・調整について〉						柳原 敏夫		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	C群	選択	講義	2	1・2・3・4	前期	B1(3×5)	白山
履修条件	【読替科目】 著作権入門(～2016年度)							
授業概要	映画製作にあたって直面する基本的な法律問題について学ぶ。つまり映画製作者を守るとされる著作権が一步誤ると映画制作者の首を絞める現実について、対外的(表現の自由との衝突)と対内的(著作権制度)の両面から学ぶ。 対外的な問題を学ぶために、同様の課題をよりシビアに突きつける肖像権・パブリシティ権、名誉・プライバシー、猥褻について学ぶ。 体内的な問題を学ぶために、過去(著作権の起源)と現在(インターネットの出現による著作権の突然変異)について学ぶ。 但し、その際、法律の知識・情報を学ぶのではなく(知識情報は本来自分で入手するものである)、法律の極意・センスを会得することに努める(それが、いかなる場面で、いかなる法律問題が存在するかを察知するための唯一の能力だから。) そのためには、一方で、法の基本原理(貨幣・言語・数と同一レベルで法を捉える)に戻ると同時に、他方で、多様な現実に降り立つために活きた紛争を題材にした事例研究を行なう。							
到達目標	自身が現実の紛争に直面した時、法の基本原理原則に立ち帰って、自らベストと思える解決を引き出せるようになること。 たとえそこまで無理でも、何が問題であるのか、対立点を理解できること。 たとえそこまで無理でも、紛争発生のおそれを予知できること。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	基礎理論1(法とは何か1:近代法の本質・人権宣言出現の意味)						
	2	基礎理論2(法とは何か2:法律が紛争を作り出す。真・善・美の関係)「サド」裁判						
	3	基礎理論3(法とは何か3:子どもにとって法律は何か)「酔っ払った馬の時間」						
	4	事例研究1(表現の自由との衝突1:プライバシー)柳美里「石に泳ぐ魚」裁判						
	5	事例研究2(表現の自由との衝突2:肖像権・名誉毀損)原一男「ゆきゆきて神軍」						
	6	基礎理論4(表現の自由と他の人権との衝突を調整する原理)「普遍宗教」						
	7	事例研究3(表現の自由と著作権の衝突の調整1)写真「パロディ」裁判						
	8	事例研究4(表現の自由とメディア) チョムスキー「マニファクチャリング・コンセント(合意の捏造)」						
	9	事例研究5(表現の自由と著作権の衝突の調整2)江戸風俗画「模写」裁判						
	10	事例研究6(表現の自由と著作権の衝突の調整3)大河ドラマ「春の波濤」裁判						
	11	事例研究7(表現の自由と著作権の衝突の調整4)漫画「タイガーマスク」裁判						
	12	事例研究8(表現の自由と著作権の衝突の調整5)「歴史小説VSテレビマンユニオン制作番組」裁判						
	13	歴史1(著作権法の起源)グーテンベルクの印刷術の出現の意味						
	14	歴史2(著作権法の現在) インターネット出現による著作権法の突然変異						
15	歴史3(著作権法の未来) 著作権法の廃止を唱える海賊党の出現・それは我々の手にかかっている							
授業外学習	サイト「著作権その可能性の中心」(http://song-deborah.com/copyright/)の授業に関する記事を目を通しておくこと。							
教科書	なし							
主要参考書	著作権ハンドブック(第九版)定価3,500円 柄谷行人「世界史の構造」定価3,500円 著作権情報センター http://www.cric.or.jp/							
評価方法	試験							

科 目 名						担 当 者 名		
表象文化論						伊津野 知多		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	C群	選択	講義	2	1・2・3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	「表象」(representation)とは、人間が自己や自分自身をとりまく世界を、感覚や媒体を通じてイメージ化すること、およびその行為を通じて生み出されたものを指す。絵画や写真に代表される視覚表象、それに加えて聴覚や時間を厚みとして持つ映画、触覚や空間が重要な役割を果たす彫刻、文字とイメージとが交錯する絵本や地図、さらには鑑賞者自身がそのなかに入り込むことで感覚的に体験する建築など、さまざまなジャンルやメディアが人間の表象行為に関わっているといえる。 この授業は「表象」をていねいに読み解くための基礎的な講義であり、「表象」という概念によって映画・映像を考察しながら、人間の創造行為を捉え直すことを目的とする。毎回参考上映を行うほか、受講者が参加する「エクササイズ」を随時設ける。できるだけ受講者と討議しながら進めたい。							
到達目標	①映画を「印象」や「感想」で終わらずに読解するための手がかりを得ること。 ②受講者それぞれがイメージを語る言葉を獲得すること。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	「表象」とは何か／写真(映画)という表象の特殊性について						
	2	映画を「読む」ために一見たものを他人に伝えること						
	3	【イメージの空間を読む】						
	4	フレーム／画面と画面外／イメージ内部の構成／映画の場合：静止画と動画で何が違うか						
	5	【映画における視点と視線】						
	6	映画の視点の多様性／登場人物たちの視線						
	7	【イメージの時間を読む】						
	8	静止したイメージに捉えられた運動と時間／写真と映画の時間性の違い／映画の時間						
	9	【映画における音】						
	10	視覚と聴覚の共感覚性／映画における音と映像(画面)との関係／映画の音の3つの区分						
	11	【イメージに触ることー映画の触覚性】 ※期末レポート事前課題発表・解答用紙配布						
	12	五感を駆使して映像を「目と耳で触る」／映画の触覚性の4つの次元						
	13	表象不可能性と倫理						
	14							
15	まとめ／期末レポート当日課題発表とレポート作成 ※授業終了時にレポート提出							
授業外学習	作品を全編にわたって上映することが難しいので、授業で取り上げた作品については、映画館やDVDなどで各自見ておくこと。							
教科書	使用しない。必要なテキストはプリント配布する。							
主要参考書	ジャン＝クロード・フォザ他著・犬伏雅一他訳『イメージ・リテラシー工場』(フィルムアート社、2006) 吉田眸『ドアの映画史ー細部からの見方、技法のリテラシー』(春風社、2011)							
評価方法	毎回提出するリアクションペーパーの評価点(30%)＋期末レポート(70%) (期末レポートは事前発表課題と最終日に発表する当日課題からなる。)							

科 目 名						担 当 者 名		
社会学入門						ハン・トンヒョン		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	C群	選択	講義	2	1・2・3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	とくになし。							
授業概要	社会学は、自分自身がかかわる社会事象を正面から扱う学であり、その考え方の基本は「常識をうまく手放す」ことである(佐藤俊樹『社会学の方法』)。自分自身、つまり自己は絶対的なものではなく、他者との関係の中に、自己と他者を含む社会との関係の中に存在する。このように、人は生物学的な存在であることを超えて「社会的な存在」なのであり、社会学が扱うのは、そのようなものとしての人間の連なりからなる「社会」だ。すべての社会事象、社会問題はそこに起因しており、あらゆる芸術やエンタテインメント作品はそのようなものとしての社会学の射程から逃れられない。社会学的な視点は、芸術やエンタテインメントにかかわる者にとっておそらく有効な道具となるだろう。本講義は、社会学説の基本を踏まえたうえで有用な概念を身につけ、自らが抱えて立つ日本社会の成り立ちに触れることで、それまで見てきた世界(と自分自身)をとらえ直し、よりよく見通せるようになるきっかけを作ることを目指す。							
到達目標	社会学的な視座を獲得するためのきっかけをつかむ。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス・イントロダクション～社会学とは？						
	2	社会とは？～実在するのか、まぼろしなのか:デュルケムとウェーバー						
	3	個人と集団:ジンメルほか						
	4	自己と他者:ミードとゴフマン						
	5	振り返りディスカッション						
	6	ネイションとエスニシティ:「〇〇人」であることを決めているもの？						
	7	セクシュアリティとジェンダー:「性別」や「性差」を決めているもの？						
	8	マイノリティとマジョリティ						
	9	アイデンティティと文化						
	10	差別はつくられる						
	11	振り返りディスカッション						
	12	家族と友だち						
	13	教育と労働						
	14	世代と時代						
	15	最終ディスカッションおよび課題提出						
授業外学習	未読の配布資料は授業後に必ず読むこと。普段から社会の一員として社会問題に関心を持ち、自分の問題と思うことは違う立場から、他人事に思えることは自分の問題として、考えてみる練習をすること。							
教科書	とくに指定しない。毎回、必要な資料はプリントを配布する。							
主要参考書	『自殺論』デュルケム(中公文庫) 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』マックス・ヴェーバー(岩波文庫) 『ブリッジブック社会学』玉野和志編(信山社、2008年) 『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる社会学』現代位相研究所編(日本実業出版社、2010年) 『喪男の社会学入門』カラスヤサトシ・千田有紀(講談社、2010年) 『現代社会論——社会学で探る私たちの生き方』本田由紀編(有斐閣ストゥディア、2015) 『社会を結びなおす～教育・仕事・家族の連携へ』本田由紀(岩波ブックレット、2014年) 『平成史【増補新版】』小熊英二編著(河出ブックス、2014年) 『共に生きる——多民族・多文化社会における対話(現代社会学ライブラリー3)』塩原良和(弘文堂、2012年) 『仕事と家族——日本はなぜ生きづらく、産みにくいのか』筒井淳也(中公新書、2015)							
評価方法	課題70%+出席やリアクションペーパーなどの平常点30%							

科 目 名						担 当 者 名		
映画で学ぶ歴史と社会Ⅰ〈国際情勢－国際紛争、環境問題を読み解く〉						熊岡 路矢		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	C群	選択	講義	2	1・2・3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	テーマ【映画で学ぶ歴史と社会(国際情勢) 紛争と環境問題を読み解く】に関わる教科書、参考書、新聞記事、ネットニュースなどの一部でも読んでおくこと。受講学生は、今後のキャリア形成、国際理解分野での問題意識や自身の獲得目標を整理しておくこと。							
授業概要	概要 1)何を教えるのか。：①地球規模課題(紛争、貧困、人権、環境の4大重要課題)についての基本理解。②とくに、現代の国際政治の歪みから生ずる、各紛争および難民問題の構造、原因、現状、解決策について。また「食(農・牧畜業)」の安全、気候変動、原発事故を中心に地球環境問題の基礎理解に関して教える。③紛争解決、環境問題解決における、国連、政府、市民、NGOの役割について教える。 2)方法：①書籍、新聞記事のほか、問題解明に役立つ映画・映像(主にドキュメンタリー。一部、ドラマ)を活用する。②国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)との共同企画(「難民映画祭」など)を構想する。③自由に質問を受け、学生の意見表明や議論、ディベートが活発になる環境を醸成する。							
到達目標	一般社会やメディアで扱われる、現代国際社会、国際問題(特に政治と紛争、その他、経済問題、貧困、人権、環境問題など)に対して、関心と批判的理解(リテラシー)をもって、読み取ることが出来るようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	オリエンテーション(はじめに)： 国連用語、地球規模課題(紛争、貧困、人権、環境)とは何か。現代のイラク戦争(2003年～)からシリア戦争【2011年～)への流れ。原因、経緯、現状、想定される解決への道。						
	2	1)国際政治と戦争の歴史： ①紛争と難民流出構造について。紛争解決における国連-政府-市民社会-NGO／CSOの役割						
	3	1)国際政治と戦争の歴史： ②20世紀という 「戦争と映画の世紀」 について学ぶ。(二つの世界大戦、冷戦・後、現在の世界へ)						
	4	* 一般市民を巻き込む大量殺りく型戦争の原点としての第一次／第二次世界大戦。中東紛争の基となった 「サイクス・ピコ」条約 。						
	5	1)国際政治と戦争の歴史： ③第二次世界大戦後、冷戦構造下における紛争。冷戦構造の終了と、「911」事件。						
	6	* 中東紛争の根源であるパレスチナ紛争。911事件を利用したイラク戦争。 イラク・シリアの破綻国家化と「イスラム国＝IS」台頭 。						
	7	1)国際政治と戦争の歴史： ④紛争の基となる、 資源(エネルギー、水・土地、希少金属など) を巡る争いと 「貪欲資本主義」						
	8	* 富の極端な格差、資源争い、戦時下の性暴力等の問題。紛争をめぐる情報と諜報。						
	9	2)地球環境問題： ①農・牧畜業の化学化・工業化の問題。 脅かされる私たちの「食」の安全 。化学的大量生産と大量消費の問題。健康への危険。						
	10	* 世界の農牧畜業と、食の安全 遺伝子組み換えと食料メジャーの台頭の問題 。 「水」の危機 (汚染、旱魃／砂漠化、管理民営化)						
	11	2)地球環境問題： ②地球温暖化と気候変動の問題 「不都合な真実」とアル・ゴア、そしてIPCC (国連気候変動に関する政府間パネル)。						
	12	* 北極、南極の溶ける氷山と、水面上昇。世界の島国・島嶼部の運命。 温暖化と、極端な異常気象現象(メガ・クライシス) 。政府、企業、人々が出来る、温暖化対策とは。						
	13	2)地球環境問題 ③原子力発電／発電所の基本問題と日本・世界 原発事故と、放射性廃棄物の影響と処理の課題 。 放射性廃棄物の処理は可能か 。						
	14	* 原爆や原子力・放射能へのアレルギーと、原発は如何にして日本／世界に導入されたか。 スリーマイル(1979)、チェルノブイリ(1986)そして福島原発事故(2011)。 事故後のデブリス(炉心溶融物)対策と、廃炉の問題 。						
	15	3)今日の国際情勢、まとめ(過去－現在－未来)。 UNHCR【 国連難民高等弁務官事務所 】の 難民映画祭 について。						
授業外学習	本テーマに関する本、新聞記事、映画、TVプログラム、ネットニュースを通して学ぶこと。必要資料は講義の中で紹介していく。							
教科書	『戦争の現場で考えた 空爆、占領、難民－カンボジア、ベトナム、イラクまで』(熊岡路矢著)／彩流社／2014年)、 『原発・正力・CIA－機密文書で読む昭和裏面史』(有馬哲夫著／新潮新書／2008年)							
主要参考書	『サイクス＝ピコ条約 百年の呪縛－中東大混迷を解く』(池内恵著／新潮選書／2016年)、その他、授業内で参考文献表・資料を配布する。							
評価方法	毎回リアクション・ペーパーを記入・提出し、各自の理解の度合いを評価し、翌週の講義で補足補正する。 期末授業内試験結果(60%) リアクション・ペーパーの内容と受講態度(40%)。【原則、出席率70%以上を評価の対象とする。】							

科 目 名						担 当 者 名		
映画文化特殊講義Ⅲ〈ビジュアル・フォークロア〉						姫田 蘭		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	C群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	E(集中)	白山
履修条件	【読替科目】 民俗学(～2016年度)							
授業概要	講義は、映像を手段とした映像民俗学(海外からは「映像人類学」とも評される)である。アイヌの儀礼「イヨマンテ(熊送り)」や、「越後奥三面」など貴重な記録映像作品を上映・解説しながら、未来を担う学生と大いに対話が可能なかたちでレクチャーする。使用される映像資料は、1976年に創設された民族文化映像研究所が製作した映画フィルム作品を中心に昭和30年から日本各地を取材した映像である。なお、講義は本学開学時の特任教授であった故・姫田忠義(記録映像作家・民族文化映像研究所所長)の構想・理念に基づき、本講義の重要なキーワードである「基層文化」とは何かということを探求・解説していく。							
到達目標	日本各地に伝わる年中行事・習俗・儀礼・生活文化などを映像を通し、現在・未来のかたちを考える。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映像と民俗学 基層文化の探求(1)		映像民俗学へのいざない				
	2	映像と民俗学 基層文化の探求(2)		映像手段を用いて民俗を記録する				
	3	映像と民俗学 基層文化の探求(3)		基層文化とは				
	4	生命の糧を得るいとなみの基層(1)		アイヌ文化				
	5	生命の糧を得るいとなみの基層(2)		狩猟・採集行動1				
	6	生命の糧を得るいとなみの基層(3)		狩猟・採集行動2				
	7	生命の糧を得るいとなみの基層(4)		焼畑行動1				
	8	生命の糧を得るいとなみの基層(5)		焼畑行動2				
	9	生命の糧を得るいとなみの基層(6)		稲作行動				
	10	自然の恩恵への感謝・民俗行事と信仰(1)		東北地方の信仰儀礼				
	11	自然の恩恵への感謝・民俗行事と信仰(2)		奄美諸島の信仰儀礼				
	12	自然の恩恵への感謝・民俗行事と信仰(3)						
	13	大自然の動きと人間の生を見つめ直す(1)		「越後奥三面 ～山に生かされた日々」				
	14	大自然の動きと人間の生を見つめ直す(2)		「越後奥三面 ～山に生かされた日々」				
	15	大自然の動きと人間の生を見つめ直す(3)		基層文化の探求総括				
授業外学習	本講座は、映像を通して民俗学とは何か、そして基層文化とは何かを考えていく。一般的にドキュメンタリー作品と言われるものであるが、主にNHKなどで放送される番組などを事前に観て、本講座で使用される作品との違いを考えておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	「忘れられた日本の文化 ～撮り続けて30年」 姫田忠義 著 岩波ブックレット193 岩波書店 JAN 9784000031332							
評価方法	毎回提出するリアクションペーパーを40%、全講義終了時に発表するレポートを60%として評価。							

科 目 名						担 当 者 名		
映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ〈アジア交流〉						晏 妮(アンニ)		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	C群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	【読替科目】「日本とアジアの映画交渉史」(2016年度)							
授業概要	映画はその生成期から越境的な性質を持つメディアである。したがって、一か国映画史はその越境的性質を語るには限界がある。大衆を対象とする映画が芸術であると同時に、商品としても世界範囲において流通している今、映画を多元的に語るのは、ますます不可欠な視点となってきた。本授業はそうした視点に基づき、日本映画とアジア映画との交渉(交流)と受容を歴史的に検証する。具体的な事例とそれに関わる作品を通して、映画を歴史的、社会的、あるいは文化的文脈において、重層的に解説する方法論を学んでもらう。							
到達目標	本講義では、作家論やテキスト分析の方法を取り入れつつ、映画をより多元的に解説する知識と感性を学生たちに身につけさせることを到達目標とする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	オリエンテーション						
	2	李香蘭の『私の鶯』―満洲・ロシア・日本と中国						
	3	山口淑子(李香蘭)の戦時と戦後、表象と実象の混合―『上海の女』						
	4	インド、東南アジア映画と日本映画『雪割草』						
	5	『白毛女』と『どっこい生きている』の日中相互受容に見る時代性						
	6	香港映画・日本映画の技術交流・李香蘭の再生―『白夫人の妖恋』						
	7	戦後日本における国民映画『二十四の瞳』と中国						
	8	井上梅次と香港ミュージカル映画―『香港ノクターン』						
	9	日本の『座頭市』と香港の『片腕必殺剣』との出会い―『新座頭市 破れ! 唐人剣』						
	10	ツイ・ハークの『ブレード/刀』―日港アクションものの相互影響						
	11	中国映画の第五世代を支える日本映画の技術―『紅夢』						
	12	映画『ラスト、コーション』に描かれた歴史、実話、原作と日本						
	13	日本映画業界とジャ・ジャンクー『山河ノスタルジア』						
	14	日本、中国、韓国、台湾、香港―多国合作映画の現状						
	15	総括						
授業外学習	なるべく授業で取り上げる映画と関連のある作品を見てほしい。							
教科書	必要時に資料を配布する。							
主要参考書	晏妮『戦時日中映画交渉史』(岩波書店、2010)、四方田犬彦・晏妮『ポスト満洲 映画論 日中映画往還』(人文書院、2010)、西本正・山田宏一・山根貞男『香港への道 中川信夫からブルース・リーへ』(筑摩書房、2004)石坂健治等監修『アジア映画の森 新世紀の映画地図』(作品社、2012)、『地域研究』No.2 総特集 混成アジア映画の海 時代と世界を映す鏡(勁草書房、2013)など。							
評価方法	出席率60%、レポート40%の割合で総合的に評価する。無断出席が多くなると単位が取れないことがある。							

2017 年度								
科 目 名						担 当 者 名		
映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ 〈ネイションとエスニシティ〉						ハン・トンヒョン		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	C群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	【読替科目】 朝鮮半島の近現代社会史(～2016年度)							
授業概要	「誰々が〇〇人だ」という場合、それはどのようにして決まるのか。国籍か？血筋か？生まれ育った場所か？身につけている文化か？「〇〇人であること」はこれらの組み合わせや取捨選択によってできており、それは時代や場所によって変わる。思われているほど自明でも強固でもないのに、自明で強固だと思われがち「〇〇人であるということ」——エスニシティやネイション(日本語だと民族(性)や国民に当たる)——について、主にそのボーダー上にいる人びとに焦点を当てつつ考える。							
到達目標	「(自他ともに)人々の拠り所」としての国や民族を相対化する視座を持つためのきっかけをつかむこと。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス・イントロダクション～「〇〇人になる」？						
	2	『ウエストサイド物語』『パッチギ！』						
	3	植民地という空間						
	4	『お嬢さん』『半島の春』『愛と誓ひ』						
	5	3つの国家の狭間で						
	6	『忘れられた皇軍』『見よ、あれが港の灯だ』『ディア・ピョンヤン』						
	7	「関係ねえよ、俺は俺だ」						
	8	『青～chong』『GO』						
	9	多文化社会ニッポン						
	10	『月はどっちに出ている』『SR サイタマノラッパー』『SR サイタマノラッパー ロードサイドの逃亡者』『孤独なツバメたち』『ハーフ』						
	11	本当の敵は誰だ？						
	12	『This is England』『サウダーズ』『ホテル・ルワンダ』						
	13	映画で知る隣国①朝鮮民主主義人民共和国						
	14	映画で知る隣国②大韓民国						
15	まとめとディスカッション							
授業外学習	配布資料には必ず目を通すこと(欠席した場合も入手し、映像資料についても探したうえで自分で見ること)。授業内容と関連する社会問題に関心を持ち、学んだことを応用して考えてみること。							
教科書	とくに指定しない。毎回、必要な資料はプリントを配布する。							
主要参考書	『平成史【増補新版】』小熊英二編著(河出書房新社、2014年)、『在日外国人 第3版——法の壁、心の溝』田中宏(岩波書店、2013年)、『共に生きる——多民族・多文化社会における対話(現代社会学ライブラリー3)』塩原良和(弘文堂、2012年)、『社会の芸術／芸術という社会——社会とアートの関係、その再創造に向けて』北田暁大・神野真吾・竹田恵子(社会の芸術フォーラム運営委員会)編(フィルムアート社、2016年)、『知っていますか？在日コリアン—問—答』川瀬俊治・郭辰雄編著(解放出版社、2014年)、『在日朝鮮人ってどんなひと？』徐京植(平凡社、2012年)、『在日朝鮮人——歴史と現在』水野直樹・文京洙(岩波新書、2015年)、『知っていますか、朝鮮学校』朴三石(岩波ブックレット、2012年)、『チマ・チョゴリ制服の民族誌——その誕生と朝鮮学校の女性たち』韓東賢(双風舎、2006年)、『なぜ今、移民問題か 別冊「環」20』宮島喬・藤巻秀樹・石原進・鈴木江理子 編集協力(藤原書店、2014年)、『ルボ 差別と貧困の外国人労働者』安田浩一(光文社、2010年)、『ルボ ニッポン絶望工場』出井康博(2016年、講談社)、『ネットと愛国——「在特会」の闇を追いかけて』安田浩一(講談社、2012年)、『ルボ 京都朝鮮学校襲撃事件——(ヘイトクライム)に抗して』中村一成(岩波書店、2014年)、『ヘイトスピーチとは何か』師岡康子(岩波書店、2013年)、『「在日特権」の虚構——ネット空間が生み出したヘイト・スピーチ』野間易通(河出書房新社、2013年)、『日本人はなぜ存在するか』與那覇潤(集英社インターナショナル、2013年)、『娘と映画を見て話す 民族問題ってなに？』山中速人(原題企画室、2007年)、『映画は社会学する』西村大志・松浦雄介編(法律文化社、2016年)							
評価方法	期末課題70%＋出席やリアクションペーパーなどの平常点30%							

科 目 名						担 当 者 名		
博物館概論						植野 真澄		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養 資格	C群 博物館学芸員	選択	講義	2	2・3・4	前期	C1(1+2×7)	白山
履修 条件	—							
授業 概要	第一に、博物館のなりたちおよび博物館学についての歴史的な経緯について、第二に、博物館関係の法令、博物館のコレクション、展示、運営形態、設置場所、博物館を支える人々、学芸員の役割、普及活動など博物館の諸機能について、第三に、現在の博物館をとりまく諸問題について考える。							
到達 目標	「博物館とは何か」を考えるために必要な、博物館および学芸員に関する基礎的な知識を身につけることを授業の目的とする。また、博物館および学芸員をとりまく現状を把握した上で、博物館業務に従事するために必要な専門性を理解し、その基礎となる能力を養う。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	はじめに(博物館を考えるにあたって)						
	2	博物館の定義(博物館法及びその他の関連法令について)						
	3	博物館の歴史						
	4	博物館の機能(博物館を作る、とは)						
	5	博物館の機能(資料を集める、とは)						
	6	博物館の実地見学(専門博物館の役割を学ぶ)						
	7	博物館の機能(資料の保存、活用、とは)						
	8	博物館の機能(展示室を作る、とは)						
	9	博物館の機能(展示を作る、とは)						
	10	博物館の機能(普及活動、とは)						
	11	博物館の機能(博物館を支える人々、とは)						
	12	博物館の実地見学(地域博物館の役割を学ぶ)						
	13	博物館の機能(博物館を運営する、とは)						
	14	博物館の諸問題:博物館の現在と未来						
	15	まとめ						
授業外 学習	授業内で紹介した博物館を見学するなど、普段から博物館についての関心や知識を深める習慣を身につけておくこと。							
教科書	—							
主要 参考書	授業の中で適宜伝えます。							
評価 方法	リアクションペーパー(60%)＋期末レポート(40%) ＊なお、この授業で近隣の博物館を見学する校外学習を数回程度実施する予定なので、その見学参加と見学レポートの提出を含みます。見学先と見学日程については受講者数と博物館の都合等を調整の上、授業期間中に決定します。							

科 目 名						担 当 者 名		
現代社会と社会教育						呉 世蓮		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養 資格	C群 社会教育	選択	講義	2	2・3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修 条件	授業は映画鑑賞、参考書、配布物等に即して進めるが、随時トピックスごとに学生による分担・報告を行い、自ら考え発表する力やプレゼンテーション能力の向上をめざす。聞くだけの受け身の姿勢ではなく、意見発表や討論・議論及び質問等、学生の積極的な授業参加を期待する。							
授業 概要	社会教育・生涯学習の概念とその理論的到達点を踏まえながら、多文化・多民族共生教育の視点から異なる文化、言語、民族、貧困及び格差の問題に向き合うことを課題とする。これまで蓄積されてきた国民の教育権論の蓄積を少数・先住民族をはじめとするマイノリティの教育権論へと敷衍し、国際的視野から何が課題となっているかについての明確な指標を得る。その際、各国の言語政策と生涯学力政策を検討し、それらの進捗状況を日本と比較しつつ、社会教育・生涯学習の在り方について構造的な理解を得ることを目標とする。							
到達 目標	(1)生涯学習論の基礎的理解を踏まえて、異なる文化や言語に向き合うということの意味、基本的人権としての「学習権」や「言語権」の役割などについて理解する。 (2)提示されたテキストや課題の本質を読み取り、客観的な資料・事実に基づいて議論する力をつける。 (3)クリティカル・シンキングの能力を高めるとともに、プレゼンテーションの力をつける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	前期授業のガイダンスー前期授業の目標と進め方ー						
	2	社会教育・生涯学習とは何か(1)						
	3	社会教育・生涯学習の理論及び歴史について(2)						
	4	学習権とは何か						
	5	日本社会の「国際化」の現状と教育の国際化の課題						
	6	多文化・多民族共生教育の概念と論点(1)ーユネスコの国際理解教育ー						
	7	多文化・多民族共生教育の概念と論点(2)ー日本における国際理解教育の展開ー						
	8	多文化・多民族共生教育の概念と論点(3)ー文化的多元主義と多文化教育ー						
	9	多文化・多民族共生教育の概念と論点(4)ー日本民族のルーツとアイデンティティー						
	10	アメリカにおける生涯学習と多文化教育の課題						
	11	カナダにおける生涯学習と多文化教育の課題						
	12	韓国における平生教育と多文化教育の課題						
	13	中国における終身教育と多元文化教育の課題						
	14	日本における生涯学習と国際理解教育						
	15	本授業のまとめ						
授業外 学習	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で取り上げる項目について教科書や資料などを読み、授業を受けること。授業中の発表やレポートで提出すること。							
教科書	ー							
主要 参考書	岩崎正吾編著『生涯学習と多文化・多民族教育の研究』、学文社 朝倉征夫『多文化教育の研究』、学文社 佐藤・前田編著『学校学力から生涯学力へ』、学文社							
評価 方法	試験(40%)：前期の終わりに試験を行います。 平常点評価(60%)：授業時における各自の発表(報告)や提出物を評価します(30%)。出席を評価します(30%)							

科 目 名						担 当 者 名		
現代思想						大澤 信亮		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	C群	選択	講義	2	2・3・4	後期	B1(3×5)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	本講義の目的は、芸術と社会の結びつきを広範かつ批評的に考えることで、鋭い問題意識を持った創作者を育てることである。創作者に必要なことは、現代社会において何が問うに値する問題であるのかを理解し、その問題意識をもって自己と他者を所与の現在から脱出させる強い意志である。この講義では各界の一線で活躍する思想家・活動家をゲストに招く。受講者は、ゲストの著作ならびにその前提となる思想を理解し、かつ実際の人柄や思考に触れることで、同時代に生きている人のなかで、考えることや動くことで人間や社会に影響を与えることの意味を考えることができる。 (以下の授業計画は変更する場合がある。その場合は後期履修登録までに確定シラバスを掲示する。)							
到達目標	現代における様々な問題を、思想・哲学的に理解し、議論できる力を身に付ける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	イントロダクション——現代思想とは何か						
	2	濱口竜介『PASSION』から現代劇映画について考える						
	3	劇映画における「演出」の問題						
	4	ゲスト講義(中森明夫氏)						
	5	山戸結希『おとぎ話みたい』——意識の絶対化について						
	6	現代アイドル論						
	7	アニメーションと現代思想——思想の中心としてのサブカルチャー						
	8	新房昭之『魔法少女まどか☆マギカ』から現在のアニメーションについて考える						
	9	無限ループする現実からの脱出と「神」						
	10	ドキュメンタリーとフィクション——演出と現実						
	11	サファ・ファティ『デリダ、異郷から』から現代哲学について考える						
	12	他者・宗教・脱構築						
	13	対話としての思想——プラトン哲学における対話の意味						
	14	卒業制作作品の検討						
	15	総評						
授業外学習	テキストとなる本の読解と整理。							
教科書	ゲストの著書(第一回の講義ないし講義前に掲示板で指示する)。							
主要参考書	特になし。							
評価方法	各回の課題(20%×5回)。							

2017年度						2017年度		
科 目 名						担 当 者 名		
地球環境倫理学						浜野 喬士		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	D群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	E(集中)	白山
履修条件	授業中に関連文献を紹介するので、各自積極的に読書を進めることを期待する。							
授業概要	・人間は自身が人間という存在になって以来、何が善いことなのか、なぜ人間は善く生きる必要があるのか、そもそも善いとはいかなることなのか、といったさまざまな次元での問いを絶えず繰り返してきた。この自問自答と反省、煩悶こそが、人間を人間たらしめてきたのである。もともとこれらは基本的に、自分自身の生き方に向かう、内面的な問いという側面をもっていた。 ・これに対して、今日の環境問題が突き付けているのは、こうした内面的な倫理学、つまり個人倫理学に一定の限界があるのではないか、という問いである。すなわち、個人が道徳的な生き方を追求するだけでは、問題を解決することがかなわず、社会という単位を道徳の主体として考える必要が出てきたわけである。これが社会倫理学とよばれる問題意識であり、地球環境倫理学もここに含まれる。 ・本講義ではこうした問題意識を基本に、倫理学の学説史をまず確認する。そのうえで、各哲学者であれば、環境問題にどのようなアプローチをとるだろうか、という想定を立て、ともに問題の本質とその解決方法の是非を考えてみたいと思う。							
到達目標	環境問題を、哲学的、倫理学的な観点から考える能力が身につく。身近な問題を、思想的に立体的な視点から振り返るという視点を獲得する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	オリエンテーション:倫理学と環境:古代ギリシア・ローマの倫理学(1)						
	2	古代ギリシア・ローマの倫理学(2)						
	3	古代ギリシア・ローマ的アプローチから見る地球環境問題						
	4	中世・近世の倫理学(1)						
	5	中世・近世の倫理学(2)						
	6	中世・近世的アプローチから見る地球環境問題						
	7	近代の倫理学(1)カントとドイツ観念論						
	8	近代の倫理学(2)カントとドイツ観念論						
	9	近代倫理学的アプローチから見る地球環境問題						
	10	現代社会理論の倫理学(1)ロールズ、ノージック、サンデル						
	11	現代社会理論の倫理学(2)ロールズ、ノージック、サンデル						
	12	現代社会理論的アプローチから見る地球環境問題						
	13	現代環境倫理学の諸問題(1)						
	14	現代環境倫理学の諸問題(2)						
	15	現代環境倫理学の諸問題(3)						
授業外学習	教場で参考書が指定された場合、各自読み進めていくことが望ましい。							
教科書	特になし。プリントを配布する。							
主要参考書	教場で指定する。各自、主体的に読み進めることが大切である。							
評価方法	リアクションペーパー40%、レポート60%							

科 目 名						担 当 者 名		
映画文化特殊講義Ⅱ〈環境・災害・技術〉						高橋 世織、澁澤 壽一、今村 文彦、桜井 進		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	D群	選択	講義 (オムニバス)	2	2・3・4	後期	E(集中)	白山
履修条件	映画人たらしとする者にとって必須の教養科目と言ってもよく、積極的な参加と旺盛な好奇心を持った諸君の履修を期待しています。							
授業概要	環境思想をはじめ自然災害科学、テクノロジーの文明論的視座などの自然科学系の諸学にかんしての最新の知見や報告のエッセンス、さらには思慮を、その分野を代表する第一人者の講師陣たちによってわかりやすくレクチャーして頂きます。災害に対する向き合い方を見直し、発見する実践的な講座です。 担当教員は、1～3回は桜井。4～9は今村。10～15は澁澤。コーディネーター高橋。 映画は、背景の風景・景観(こちらが主役になる作品もある)はもとより生活空間の環境を刻々と丸ごと映し撮っています。景色も、音も、言葉遣いも、暮らしぶりも、生活の小道具のディテールも、つまり人間と自然の交渉する《環境》を丸ごと収録、映し込んでしまうメディアなのです。サステナブル(持続可能)な社会とはどういうことなのか、長い間、森と共に生き続けたかつての我が国の持続可能な社会のありかたは、いまや世界のモデルともなっています。様々な歴史的かつ地域特有の個々の事例を再発見することが、さらなるヒントに繋がるでしょう。諸君のこれまでの認識や常識を更新・一新する授業メニューです。もはや文系/理系といった20世紀的な二項対立的発想基盤は通用しないことを受講後に切実に痛感すると確信致します。							
到達目標	もともと映画は19世紀末に誕生した時点で、当時最先端のテクノロジーの玉手箱(光学・電気物理+化学+生物地学(博物学))であった。自然科学と社会科学と人文科学の3領域が一丸となって総力を結集し叡智を絞り合わない立ち行かない時代がまさに3・11後の21世紀世界である。その意味からも向後、映画・映像が担い果たす役割は際限がないであろう。 我々の都市生活に潜むリスクや暮らしのありかたを再考し、アーカイブされた記録映像と向き合うことで、環境意識、リスク感覚、暮らしぶり、自然(地球システム)、科学技術等に対するセンスを磨き、関心と知見を広め、「安全」や「資源」とは何かを日常の身の回りの事象から絶えず考える習慣を身に付け、ひいては映画制作の梃(テコ)や一助、靈感の源泉となるのが最終目標。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	はじめに(数と数字) 雪月花の美学と数学 ― 黄金比と白銀比からみる西洋と東洋の比較、日本が数学大国になった江戸時代						
	2	ジョン・ネイピアの「対数」誕生物語 ― 星と人とともにある数学、星を測る→三角比→対数→微積分→関数概念						
	3	円周率「 π 」から読む ― 数学のもつ神秘と永遠、数学は至極の芸術 まとめ(科学技術と21世紀文明のあり方をめぐって)						
	4	はじめに(津波学への道) 自然(地球システム)との調和とは、						
	5	我が国の災害の特徴と対策(防災・減災・免災+防潮林など自然力を生かした防災・減災)―岩手県田老町防潮堤のケース他						
	6	災害発生のしくみ・メカニズム(スマトラ沖地震、東日本大震災)						
	7	可視化する方法― 災害を観る、絵図、写真、動画、シナリオ・スクリプトの作成						
	8	リスク認知の方法―ハザードマップ作成、町歩き						
	9	過去の災害記録とハザード・災害情報の収集(記憶と記録)と防災文化(神社仏閣や祭り、年中行事)						
	10	はじめに(私の環境問題事業の来歴―エビ天井から考える地球)						
	11	地球レベルでの環境問題(50年で何が変わったのか?)						
	12	日本の森にみる持続可能な社会(①暮らしの変遷、「仕事」とは何か? ②「森の聞き書き」、「豊森なりわい塾」の試みが伝えること)						
	13	祭りにみる伝えて来たもの、伝えゆくもの―映像記録から考える						
	14	祈り、祭りの精神性―映像から考える						
	15	おわりに(①未来のため江戸時代再発見 ②宮大工の棟梁の話が暗示するもの)						
授業外学習	3・11以後、自然災害や未曾有の産業事故などから派生した、防災・減災意識、家族離散や原発難民、各種の格差問題、エネルギー資源・環境問題など、複層したテーマや課題が山積・顕在しています。ドキュメンタリー分野だけでなくドラマ映画もまた、こうした問題意識や模索抜きには映画制作は覚束ない。普段から、人間や社会を見る各人の物差しを持てるように、							
教科書	詳細な講義ノートを配布の予定(今村)、桜井進著「世界の見方が変わる「数学」入門」(河出書房新社)							
主要参考書	http://www.foxfire-japan.com (澁澤) 「感動する!数学」「面白くて眠れなくなる数学」(共に桜井、PHP)							
評価方法	学期末の課題レポート(1000字程度)を評価し、出席状況(リアクションペーパー充実度)を加味して総合的に判定する。 3回以上欠席した場合は原則、不可扱いとなる。							

科 目 名						担 当 者 名		
デジタル映像技術概論						高橋 登		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	D群	選択	講義	2	2・3・4	後期	A1(1×15)	白山
履修条件	特に無し							
授業概要	「映像」という視点から、映画やテレビの技術発展と連動した「静止画(写真)」「動画」に関するデジタル処理の進化の過程に触れ、ITネットワーク環境を含む、現在のデジタル映像環境の基礎知識と基礎用語を解説する。また、デジタルシネマの今後を含み、進行中の最新のデジタル環境の概要についても紹介する。							
到達目標	映像技術の基本用語を理解し、近年の映像技術の変遷について概観がイメージできるようにする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	テレビ技術発展史(アナログ放送の初期からデジタル放送への変遷)						
	2	ビデオ技術発展史(磁気録音の開始からVTR開発への経緯、業務用VTRと家庭用VTRの開発逸話)						
	3	テレビ放送のしくみ(SDTVとHDTVの概要、地上波、BS、CS、ケーブルテレビのしくみ)						
	4	ビデオカメラのしくみ(ビデオカメラの撮像素子やデジタル処理の概要)						
	5	ビデオの種類としくみ(ビデオフォーマットの種類と伝送方式、テープ記録からファイルベースによる記録方式への移行)						
	6	ディスプレイの種類としくみ(ブラウン管の時代から有機ELテレビまでのディスプレイ技術の変遷、映画用DLPプロジェクターのしくみ)						
	7	デジタルスチルカメラの種類としくみ(コンパクトカメラと一眼カメラの違い、レンズの種類、動画撮影の画質)						
	8	多様化する記録媒体としてのCD(音楽CDの開発と多用途の記録メディアとしてのCDの種類としくみ)						
	9	映像記録媒体であるDVD、Blu-rayディスクについて(DVDとBDの種類と技術概要)						
	10	PCとのインターフェース(PCの機能を拡張する外部インターフェースの利用と映像制作ソフトウェアの種類)						
	11	映像作品におけるデジタル音声について(音声のポストプロダクションの概要、劇場映画のサラウンドサウンドの種類と変遷)						
	12	ノンリニア編集システムの種類と概要(ノンリニア編集の開発経緯と進化過程、映像制作のワークフローにおける編集の位置づけ)						
	13	劇場用映画におけるフィルムからデジタルシネマへの変遷と概要(デジタル化による制作フローの変化について)						
	14	これからのデジタルシネマについて(デジタル上映の今後、色域の拡張、解像度とフレームレート、3D映像等)						
	15	インターネット映像のしくみ(ダウンロードとストリーミング、オンデマンドとライブ配信等)						
授業外学習	授業で紹介する映像技術の概要は広範囲に及ぶため、事前学習は必要ないが、授業で配布するテキストを復習し、各回のキーワードを元にインターネットや専門書を深堀して、各自の興味や知識を満たして欲しい							
教科書	無し							
主要参考書	教員による独自テキストを用いる							
評価方法	授業への参加90%、レポート提出10%							

科 目 名						担 当 者 名		
音響論						弦巻 裕、若林 大介 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	D群	選択	講義 (コラボ)	2	3・4	前期	B1(3×5)	新百合ヶ丘
履修条件	特になし							
授業概要	音響学には様々な分野があるが主にこの講義では映像音響について主に論じる。映画音楽の第一人者である和田薫氏による映画音楽の学術的基礎の講演。実際に和田氏が作曲した作品とスコアを通し、映像音楽の考え方を学ぶ。また、著作権に対し造詣を深める。 様々な映像メディアが氾濫するなか、その音はどのように扱われているかを映画・テレビなど歴史的な変移をたどり解説する。現代の映画音響・録音技術の最先端技術を弦巻裕教授が担当した作品を通し解説する。日本の映画音響の基準となるイマジカ第一試写室(五反田)で行われる録音協会セミナー参加も校外実習の一環として例年一度行っている。 ※ 外部講師の日程調整により、下記のローテーションは、初回までには確定し、掲示・アナウンスします。							
到達目標	現在の映像制作における台詞・音楽・効果音の作られ方を知り、今後の映像作品の制作・批評において生かせる知識を身につける							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画音楽基礎 映画音楽の歴史的に見たスタイルとその技法(和田)						
	2	音楽の三要素と音楽演出の種類(和田)						
	3	日本映画音楽の現状 TVアニメやドラマ、映画音楽の制作過程の違い(和田)						
	4	音楽の三要素とその実演 楽器の種類(和田)						
	5	和田薫氏作曲のさまざまな映画のシーンを見ながら音楽解説(和田)						
	6	音楽著作権・著作者人格権(和田)						
	7	音響基礎 映像制作における音響の基礎技術(若林)						
	8	様々なメディアにおける音のミキシングの違い(若林)						
	9	映画音響のフォーマットとその推移(若林)						
	10	マイクログフォンの技術史、録音技術・音響処理についての歴史と概論(弦巻)						
	11	弦巻裕が録音担当した近作を上映し、録音技術・音響処理についての具体的な工夫と体験を存分に語る(弦巻)						
	12	「音響から観る映画体験について」討議(弦巻)と受講生からの質疑応答						
	13	録音技師等による、最新優秀作品の上映鑑賞。(イマジカの第一試写室での校外実習)						
	14	上映後の解説とスタッフ等の討議討論。(同上)						
	15	受講生からの質御応答とまとめ(同上)						
授業外学習	和田氏の授業の前に和田氏が音楽を担当した「ラストゲーム～最後の早慶戦」を観ておく。							
教科書	授業時に適宜、関連資料を配布する。							
主要参考書	—							
評価方法	毎回のリアクションペーパーの提出・内容(50%)と、期末レポート(50%)で総合評価(3回欠席したら、原則として不可扱いとなる)							

科 目 名						担 当 者 名		
キャリア・サポートⅠ						緒方 明 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	E群	選択	講義	2	1	通年	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	映像業界で働くとはどういう事なのか。映像関係にはどのような仕事があるのか。映画、TV、CM、ネットなど現在の映像業種を紹介し、そこで何が行われているかを考察していく。							
到達目標	自分の将来、どのような形で映像と関わるのか。自分の適性、志向を発見する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	【前期】1－1 「授業オリエンテーション」「監督・演出部とは」						
	2	1－2 「ドキュメンタリーを作る」						
	3	1－3 「撮影部」「照明部」とは						
	4	1－4 映画を書く「脚本」						
	5	1－5 映画美術の奥深さ 「美術部」						
	6	1－6 プロデューサーとは何か、「制作部」						
	7	1－7 ポストプロの概念 「編集・録音」						
	8	【後期】1－8－A 特撮とは何か						
	9	1－8－B 特撮とは何か						
	10	1－9－A テレビ番組を作る						
	11	1－9－B テレビ番組を作る						
	12	1－10－A 「配給・宣伝」 映画の出口						
	13	1－10－B 「配給・宣伝」 映画の出口						
	14	1－11－A 「自主映画を作る・見せる」						
	15	1－11－B 「自主映画を作る・見せる」						
授業外学習	映画およびマスコミ等のスタッフ編成を、就職本等を読んで理解しておく。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席状況とレポート(2回)、50％ずつ							

科 目 名						担 当 者 名		
精神医学入門						磯谷 悠子		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	E群	選択	講義	2	1・2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし							
授業概要	精神医学とは心理学と密接に関連する医学の一分野です。精神は肉体と対比して語られることが多いですが、実際は全人間的に見ても相互に影響しあい、ミクロに見れば脳活動のどこからが精神かというのは難しいとも言えます。本講義では精神医学の基礎知識を学んで人間理解をより深め、異常と正常、個性とは何かを考えていきます。様々な情報発信や人間描写、表現に対して精神医学的な観点から考察する力を養うことは表現者として人間を描く助けとなるばかりでなく、自身が社会及び他者との繋がりの中でより良く生きるための糧ともなります。							
到達目標	①精神疾患全般について正しい知識を持ち、偏見をもたないようになること ②自分の抱えやすいストレスについて自覚できるようになること ③脳と心のつながりについて理解できるようになること							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス						
	2	精神医学の分類						
	3	統合失調症1						
	4	統合失調症2						
	5	気分障害						
	6	アルコール・薬物関連障害						
	7	児童・青年期の精神医学1						
	8	児童・青年期の精神医学2						
	9	脳卒中						
	10	司法精神保健福祉対策						
	11	自殺防止対策						
	12	性格と遺伝と個性1						
	13	性格と遺伝と個性2						
	14	自己と他者と脳						
15	まとめ							
授業外学習	・講義中に紹介する参考図書を読むこと ・配布資料をよく読み返しておくこと							
教科書	講義ごとにスライド資料を配布							
主要参考書	講義内で適宜紹介							
評価方法	出席(30%)と試験(70%)							

科 目 名						担 当 者 名		
生涯学習概論Ⅰ						栗原 保		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養 資格	E群 博物館/社会教育	選択	講義	2	2・3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修 条件	教養科目であるので日ごろから教育問題、社会問題に興味をもつことが重要である。また、社会教育主事及び学芸員課程の最も基礎となる選択必修科目なので、資格取得のためには早い段階で履修しておくことが望ましい。事前に履修しておく科目は特にない。							
授業 概要	学校での「いじめ事件」や家庭での「幼児虐待」、地域社会の「安心安全なまちづくり」など、大人や社会が教育・学習によって解決すべき課題が山積している。こうした課題に「生涯学習」という視点から切り込んでいく。「生涯学習の理念」は急激な社会構造の変化に個人がどう対応するかから構想した「第3の教育改革」と言われ、1980年代に確立した。「いつでも・どこでも・だれでも・何でも学ぶことができる社会の実現」を目標にして90年代から広く市民に広がっている。特に、メディア等に関わる人材は市民の学習活動のサポート役になることが大いに期待される。授業では、生涯学習に関する基本的な知識を習得し、青少年や成人が学ぶことの意味について考える。生涯教育との関連性、生涯学習の本質と意義を理解し、制度・行政・諸施策、学校教育・家庭教育・社会教育等との関連、学習活動への支援等の基礎的資質・能力を身につける。さらに本学の特性を踏まえて、映画文化の普及・啓発・振興などと生涯学習との関連を考察し、多様なキャリアの可能性を拓くことを目指していく。講義を進める際に、日常の具体的なことに目を向けイメージをひろげ、知識理解の定着に結びつけていく。予習課題への取組みやゲスト授業・レポート作成の流れを大事にして、興味関心が持てるように工夫していく。							
到達 目標	(1)教育・学習に関する諸課題がわかる、(2)教育基本法を理解する、(3)生涯教育と生涯学習の意義がわかる、(4)生涯学習社会構築の意味を理解する、(5)生涯学習のこれまでの発展過程を理解する、(6)生涯学習と学校教育・家庭教育・社会教育との関連性が具体的にわかる、(7)市民の学びと映像文化活動との関連がわかる							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	授業ガイダンス、ワーク:「生涯学習の認識」、「青年期の家庭教育観」、「学歴社会」、「子供の頃お世話になった方は誰!」(予習課題)「コミュニティスクールとは」、「学歴社会についてのインタビュー調査」						
	2	教育と生涯学習(1)「教育基本法(平成18年)から学ぶ」DVD視聴「全国生涯学習フェスティバル」(予習課題)「親の家庭教育観に関するインタビュー調査」、「埼玉県家庭教育アドバイザーとは」						
	3	生涯学習と学校教育(1)「学校教育の特質(学習指導要領とは)」、ワーク「学校週6日制を考える」 ＜レポート課題＞「地域の教育施設など(2施設以上)を訪問しインタビュー調査」提出日:第11回授業日						
	4	生涯学習と学校教育(2)「川崎市のコミュニティスクールの取組み」						
	5	生涯学習と学校教育(3)「学校教育の課題」						
	6	生涯学習と教育行政(1) ゲスト授業①川崎市教育委員会職員「教育行政について～『かわさき教育プラン』に基づく教育政策の推進」						
	7	教育と生涯学習(2)「生涯学習の原理・発展過程」						
	8	生涯学習と家庭教育(1) ゲスト授業②:埼玉県家庭教育アドバイザー「家庭教育支援～現場からの声」						
	9	生涯学習と家庭教育(2) ワーク「子供を育てるって?～親の学習 ロールプレイング」						
	10	生涯学習と家庭教育(3) ゲスト授業③:川崎市麻生区保健センター職員「(仮)命の教育～若者世代と共に考える」						
	11	生涯学習と家庭教育(4) 親の役割とは ＊レポート提出締切日						
	12	生涯学習と社会教育(1) レポート(社会教育:地域の教育施設を訪ねて)の発表会。						
	13	生涯学習と社会教育(2)「社会教育法(昭和24年)について」						
	14	生涯学習関連施策の動向						
	15	総括とまとめ～生涯学習施策の展望						
授業外 学習	予習課題・レポートとして、インタビュー調査や事前学習を指示する。							
教科書	遠藤克弥 編著『地域教育論～生涯学習から社会教育へ～』川島書店 2011年 1,800円							
主要 参考書	講義時間中に随時指示する。							
評価 方法	試験40%、レポート1本作成提出(発表会を実施) 30%、予習課題(4回程度) 20%、授業時リアクションペーパー10%							

科 目 名						担 当 者 名		
生涯学習概論Ⅱ						栗原 保		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養 資格	E群 社会教育	選択	講義	2	2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修 条件	日々の教育問題・社会問題に関心を持つことが重要となる。また、社会教育主事及び学芸員課程の最も基礎となる選択必修科目なので、資格取得のためには早い段階で履修しておくことが望ましい。生涯学習概論Ⅰ（前期開講）を受講していることが望ましいが、随時概論Ⅰにもふれていく。							
授業 概要	前期の概論Ⅰを基礎に発展させていく授業となり、全般的に、教育問題や社会問題（いじめや虐待、安心安全な地域社会づくり）に「生涯学習」の視点から切り込んでいく。特に、メディアに関わる人材は市民の学習活動のサポート役になることが大いに期待できる。内容は、各個人が学んだ成果を地域で活かす取組み（市民活動等）から始め、まちづくりに果たす生涯学習の役割などの知識を習得し、生涯学習推進計画策定の状況や評価について考える。生涯学習や社会教育の本質と意義を理解し、制度・行政・諸施策、まちづくりや社会教育行政との関連、学習活動への支援等の基礎的資質・能力を身につける。さらに本学の特性を踏まえて、映画文化の普及・啓発・振興などと生涯学習との関連を考察し、多様なキャリアの可能性を拓くことを目指していく。授業は、前期を未履修のことも考慮し復習も取り入れながら、日常の具体的なことに目を向けイメージをひろげ、知識理解の定着と結びつけながら、自治体のまちづくりとの関連性にまで広げていく。予習課題への取組みやゲスト授業・レポート作成の流れを大事にして、興味関心を持てるよう工夫していく。							
到達 目標	(1) 市民活動とまちづくりとの関連を理解する、(2) 生涯学習と社会教育の関連性を理解する、(3) 社会教育の発展過程がわかる、(4) 社会教育法を理解する、(5) 市民活動と社会教育との関連がわかる、(6) 自治体の生涯学習関連施策や生涯学習推進計画がわかる、(7) 市民の学びと映像文化活動との関連がわかる							
授 業 計 画 								

科 目 名						担 当 者 名		
体 育						岩 田 道 子		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	E群	選択	演習	2	2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	運動不足・ストレス解消を望む学生 途中放棄しない事							
授業概要	運動不足が生活習慣病を発症することはよく知られている。本科目では今までに修得した技能を活用して各種目のゲームを楽しく行い運動不足・ストレスの解消をし、体力の維持・向上と健康をめざす。参加して身体活動を実践してどれだけ汗をかいたかが重要である。したがって出席を重視する。							
到達目標	出来るだけ休まず運動に参加すること。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	オリエンテーション 出席カード記入 写真を用意する:学生証コピー可						
	2	ストレッチ体操 ラジオ体操第一 バレーボール①						
	3	ラジオ体操第一 バレーボール②						
	4	ラジオ体操第一 バスケットボール①						
	5	ラジオ体操第二 バスケットボール②						
	6	なわとび(短縄) ソフトボール①						
	7	なわとび(短縄) ソフトボール②						
	8	ダンベル健康体操 バドミントン①						
	9	ダンベル健康体操 バドミントン②						
	10	なわとび(大縄) バレーボール③						
	11	なわとび(大縄) バスケットボール③						
	12	ラジオ体操第一 バドミントン③						
	13	ラジオ体操第一 バスケットボール④						
	14	まとめ 簡単な実技テスト						
15	まとめ 簡単な実技テスト							
授業外学習	参考図書を参照し 日常の中でできるだけ体を動かすように心がける。							
教科書	使用しない。							
主要参考書	「日常ながら運動のすすめ ―フィットネスクラブ不要論―」 長野茂 講談社α新書							
評価方法	受講態度と出席点(80%)＋実技点(20%)							

科 目 名						担 当 者 名		
キャリア・サポートⅡ						緒方 明 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	E群	選択	講義	2	3	後期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	—							
授業概要	専門コースに進んだ学生自身のキャリアサポートを具体的に行う講義。映像業界のみならず社会人として働くことの意義をゲスト講師のトークを中心に見出させる。現在の就職事情等も講義。							
到達目標	自らの進路を具体的に決定する							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	Ⅱ-1 授業オリエン 映像業界の現状と展望。フリーランスと就職について						
	2	Ⅱ-2 ゲスト講師 映画演出部、制作部の先輩。映画制作の現状と就労について						
	3	Ⅱ-2 ゲスト講師 映画演出部、制作部の先輩。映画制作の現状と就労について						
	4	Ⅱ-3 ゲスト講師 映画技術パート(撮影・照明)の先輩。映画制作現場からの声						
	5	Ⅱ-3 ゲスト講師 映画技術パート(撮影・照明)の先輩。映画制作現場からの声						
	6	Ⅱ-4 ゲスト講師 映画技術パート(録音・編集)の先輩。映画制作現場からの声						
	7	Ⅱ-4 ゲスト講師 映画技術パート(録音・編集)の先輩。映画制作現場からの声						
	8	Ⅱ-5 TVという世界 ゲスト講師 TVディレクター・放送作家(給料で働くということ)						
	9	Ⅱ-5 TVという世界 ゲスト講師 TVディレクター・放送作家(給料で働くということ)						
	10	Ⅱ-6 映画の出口に関わる。 ゲスト講師 配給・宣伝マン(制作だけではなく映画の出口にまつわる状況)						
	11	Ⅱ-6 映画の出口に関わる。 ゲスト講師 配給・宣伝マン(制作だけではなく映画の出口にまつわる状況)						
	12	Ⅱ-7 ドキュメンタリーを仕事にする。 ゲスト講師 ドキュメンタリーディレクター(ジャーナリストを含め映像で現実と向かい合うということ)						
	13	Ⅱ-7 ドキュメンタリーを仕事にする。 ゲスト講師 ドキュメンタリーディレクター(ジャーナリストを含め映像で現実と向かい合うということ)						
	14	Ⅱ-8 キャリアカウンセラーによる就職ノウハウ講義 エントリーシートの書き方、面接のポイント等を講義						
15	Ⅱ-8 キャリアカウンセラーによる就職ノウハウ講義 エントリーシートの書き方、面接のポイント等を講義							
授業外学習	映画およびマスコミ等のスタッフ編成を、就職本等を読んで理解しておく。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席状況(80%)とレポート(20%)							

科 目 名						担 当 者 名		
インターンシップ						伊津野 知多		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
教養	E群	選択	実習	2	3・4	通年	F(その他)	白山・外部
履修条件	インターンシップへの参加を希望する学生は全員履修登録すること。履修登録した学生のうち、原則として以下の要件を満たした者がインターンシップ参加資格者となる。①通算GPA が2.0 以上。②必修・選択必修科目が再履修対象となっていない。③コース担当教員の推薦を受けている。 履修登録しても実習先が決まらない場合は履修が取り消されるので、特に4年生は注意すること。 【読替科目】「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」(～2016年度)							
授業概要	「インターンシップ」は、実働10日間～20日間程度に相当する実習である。 映画制作の現場はもちろんのこと、映像をコミュニケーションのインフラの中心に置いた教育や地域行政、地域コミュニティ、商業施設などさまざまな現場で、これまで学んだ理論や知識、技術を応用することで総合的な映画実践能力を養う。また、社会の一員としてのマナーや責任感を身につけ、自己啓発の機会を得ることを目的とする。 ①学内でのガイダンスへの参加、②キャリアサポートセンターへの「エントリーシート」の提出、③実習先でのインターンシップ、④インターンシップ終了後の「インターンシップ実施報告書」の提出が必須となる。							
到達目標	これまで学んだ理論や知識、技術を実践の中で深め、卒業後の進路についての具体的な知識を得ることができる。社会人としてのマナーと態度を身につけることができる。							
授 業 計 画	内 容							
	以下のような流れで各自が進める。 詳しい手続きや提出書類については、ガイダンスで配布する「日本映画大学インターンシップの手引き」を参照すること。 【1】 <u>ガイダンスに参加する(必須)</u>。 「インターンシップの手引き」配布。(日時は掲示等で告知する) 【2】 実習先を探す(大学が実習先を紹介するケースと、自ら実習先を探し、大学に公認してもらうケースがある。) 【3】 希望する実習先が決まったら、「<u>エントリーシート</u>」をキャリアサポートセンターに提出する(必須)。 【4】 学内での面談や選考、実習先とのマッチングを経て実習先が決定する。 【5】 インターンシップ実習。 【6】 実習終了後、「<u>インターンシップ実施報告書</u>」をキャリアサポートセンターに提出する(必須)。							
授業外学習	—							
教科書	使用しない							
主要参考書	使用しない							
評価方法	①意欲と参加態度(ガイダンスへの出席と「エントリーシート」・「インターンシップ実施報告書」の内容) ②実習先からの評価(「インターンシップ評価表」の内容) ①と②から総合的に評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
脚本基礎演習						斎藤 久志 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	創作系	必修	演習	2	1	前期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	脚本の書き方の基礎を習得させつつ、映画は脚本から始まることを体験させる。ドラマという概念を教え、それがどのように脚本として成立しているかをプロの作品から学ばせたうえで、自分たちも脚本を実際に書いてみる。あらすじを書く、プロットを組み立てる(箱書きを作る)、柱と、だんだんと構成を細かく割って行き、脚本執筆をする。ト書き、セリフ、箱書き(場面ごとの区別)、ハシラ(slug line、物語の出来事が起こる場所、撮影場所の指示書き)などの基本ルール、さらに人物の作り方、シーンの作り方、ストーリーの展開方法、省略の技法、回想形式、など脚本作成の基本作法をしっかり身につける。							
到達目標	後期必修である「映画制作基礎演習」の為の短編シナリオが書けるようになる。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	脚本とはどういうものか？既成の映画の脚本を読んで、完成された映画を観てみる。その上で脚本の書式を学ぶ。						
	2	脚本とはどういうものか？既成の映画の脚本を読んで、完成された映画を観てみる。その上で脚本の書式を学ぶ。						
	3	課題を与え、ワンシーンを書いてみる。出来上がったワンシーンを個別に講評し、書式の不備等を学ぶ。						
	4	ペラ(200字詰め原稿用紙)30枚の脚本に向けてプロットを作る。それぞれの作品は、どういう話なのか、何を描きたいのか、要約して発表する。						
	5	プロットを元に脚本執筆に向けて、箱書き(構成)を学ぶ。						
	6	箱書きを元にシーンに割ってみる。シーケンスとはなにか、シーンとは何かを学ぶ。その上で脚本執筆にとりかかる。						
	7	出来上がった脚本を個別に講評する。その講評を受けて脚本を直す。直した脚本を全員で読み。合評する。						
授業外学習	プロットの執筆。それを元にペラ30枚の脚本の執筆。							
教科書	—							
主要参考書	授業内で配布されるプロの脚本等のプリント。							
評価方法	出席(60%)、提出課題(40%)							

2017年度						2018年度		
科 目 名						担 当 者 名		
映画制作基礎演習						中原 俊 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	創作系	必修	演習	8	1	後期	F(その他)	白山・新百合ヶ丘
履修条件	必修							
授業概要	講義(9日) 映画の基礎知識(役割、工程、用語、技法、シナリオの作り方)を学ぶ。その後、専門家の指導のもと準備、撮影、仕上げの方法を学びつつ10分の映画をつくり、上映・総括・講評を経て、映画制作の全工程を体験する。 なお、本年度は変則的スケジュールで実施される。							
到達目標	映画制作に必要な知識と技術と精神を修得し、今後自分が映画とどう係わっていくかの指針を得る							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	シナリオ決定稿の作り方						
	2	シナリオ決定稿提出 講義―制作・演出・撮影・録音・美術・デジタル等						
	3	準備① 合流式、ロケハン等						
	4	準備② 美打ち、メイク、美術特講						
	5	準備③ 衣装合わせ、リハーサル、シュミレーション						
	6	撮影						
	7	撮影、とりこみ、ラフカット						
	8	編集ラッシュ、音ロケアフレコ、セミ・オールラッシュ						
	9	フォーリー、音楽さがし、整音						
	10	音合わせ、ダビング 発表会						
授業外学習	ロケーションハンティング・衣装、小道具の収集等							
教科書	―							
主要参考書	集英社新書・『映画芸術への招待』 杉山平一、講談社現代新書							
評価方法	指導講師の話し合いによる個別評価(70%)に講義・シナリオへの出席(30%)を加味して決定する							

科 目 名						担 当 者 名		
長編シナリオ演習 I						荒井 晴彦、斎藤 久志 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	創作系	必修	演習	2	1 〔編入生は2年次〕	後期 〔編入生は前期〕	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	劇場用映画の長さのシナリオを書く事を目的に、教員自身の経験を生かしたシナリオ執筆方法を講義し、学生にシナリオ執筆に必要な技術を教える。10人前後の学生に対して一人以上の教職員というほぼマンツーマンの体勢で個別に丁寧に指導していく。個々人にその題材が適しているかを問い、それぞれの人生を丸ごとシナリオにぶつけさせる。人への興味が映画なのだとことを知る。そのうえで映画作りの難しさと面白さの基本を叩き込み、脚本を知ることが、映画のどのパートにとっても最も大事だということを学習する。 ※2年次編入生は2年次前期に履修。							
到達目標	学生個々人がそれぞれの題材を発見し、それを物語(プロット)に落とし込む。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	既成の映画を観て、プロットに要約する。その映画のテーマは何かを見つけ、「脚本基礎演習」で学んだ箱書きにしてみる。そのうえで、起承転結に分けて、どうプロットが展開しているか、解析してみる。						
	2	プロの書いた脚本を読み、シーンの中で人物がどう動いているか、シーンの連なりであるシーケンスではどういう展開をしているかを読み解く。						
	3	それぞれが書こうとするシナリオのテーマ等を発表し、それを物語に落とし込む為のアドバイスをする。200枚(1時間40分)という長さ、描こうとする物語の質を検討する。						
	4	それぞれが、プロットを作り、講評を受ける。						
	5	直したプロットを合評し、シナリオ執筆にあたり取材すべき対象や、学ぶべき本等のアドバイスを受ける。						
授業外学習	プロットの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	指導講師の過去に執筆したシナリオ(あるいは指導講師が選択した既成の映画のシナリオ等)のプリント、完成した映画のDVD等。							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							

科 目 名						担 当 者 名		
長編シナリオ制作						荒井 晴彦、斎藤 久志 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	創作系	必修	演習	4	2	前期	F(その他)	白山
履修条件	「長編シナリオ演習Ⅰ」を履修していること。							
授業概要	「長編シナリオ演習Ⅰ」で書いたプロットを元にシナリオ執筆に入る。ペラ200枚(100分)程度の長さのオリジナルシナリオを書き上げる。春休み中の作業になるので、個別に担当教員が、面談による執筆指導を行う。							
到達目標	ペラ200枚のオリジナルシナリオの完成。							
授 業 計 画	内 容							
	○ テーマの確認。 ○ プロットを大バコ(構成)に分ける。 ○ 大バコをシーケンスに分ける。 ○ シーケンスをさらにシーンに分ける。 ○ その上で登場人物のキャラクター、設定を検証し、シナリオ執筆にうつる。 【200枚シナリオの提出について】 提出期日: 2017年3月31日(木)17時 (2年次編入生は「長編シナリオ演習Ⅰ」の授業内で連絡) 提出場所: 白山校舎事務室 提出方法: 各自2部提出すること(持参)。2部とも必ずレポート用表紙をつけ、ホッチキスで綴ること。 【200枚シナリオの書式について】 以下の情報を必ず明記してください(手書き・PC共通事項)。 作品タイトル、クラス、氏名、登場人物表(名前、年齢、職業のみ)、ペラ換算枚数、ページ番号 ※「長編シナリオ演習Ⅰ」で提出したプロットから大幅に変わる場合は、あらずしも添付すること。 PC提出のレイアウト。 用紙サイズ:A4 段数:2段組み 余白:標準(上・下・左:30mm、右:35mm) 文字数:1行20文字 文字サイズ:10.5							
授業外学習	シナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	執筆物(オリジナルシナリオ)の成果。							

2017年度						2018年度		
科 目 名						担 当 者 名		
長編シナリオ演習Ⅱ						荒井 晴彦、斎藤 久志 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	創作系	必修	演習	2	2	前期 〔編入生は後期〕	F(その他)	白山
履修条件	ペラ200枚程度のオリジナルシナリオの提出。							
授業概要	おそらく初めて200枚もの長さに挑戦した学生は、やっと到達したか、もしくはその手前で終わっていると思う。そこで一度書き上げた脚本を俯瞰で検証する。最初に作ったテーマから物語がずれていないか、展開に無理はないか、描きたりない箇所はどこなのかを個別指導で学び、脚本を直していく。 ※2年次編入生は後期に履修。							
到達目標	個別指導で詳細に検討、直しをすることで、映画の構造を徹底的に知る。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	個別指導① 書いたシナリオからハコに戻してみる。						
	2	個別指導② テーマを検証する。						
	3	個別指導③ 書き手の都合で登場人物を動かしていないか、展開を検証する。						
	4	個別指導④ キャラクターに無理はないか検証する。						
	5	個別指導⑤ ト書き、ダイアログ(台詞)の検証。						
授業外学習	シナリオの直し。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							

2017年度						2017年度		
科 目 名						担 当 者 名		
ビデオ・デジタル技術基礎演習						さの てつろう ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	創作系	必修	演習	2	2	前期	F(その他)	白山・新百合ヶ丘
履修条件	1年次に履修した「人間総合研究」での写真基礎、録音基礎、「映画制作基礎演習」での動画撮影・録音・編集・仕上げについて復習しておく。							
授業概要	これ以降行われる各演習に向けて、「デジタル映画製作」の全ての元となる基礎技術と知識を、「ビデオ・デジタルフォーマット」を使用した映像制作の基本概要を理解する。各種デジタルビデオカメラ・録音機・PCを使った編集機の基本的構造の理解を実践的に習得する。フィルムとの差異を体系的感覚的に理解し、映像制作にどう利用すべきか思考できるようにする。この授業では以後の演習にとどまらず、卒業後プロとしての映像制作現場において必要な新しい用語やキーワードも多数出る。映画制作のなかでそれらがどのように機能しているかも学習し実機を使用しながら立体的に理解させる。							
到達目標	民生機においてなら「撮影・編集・仕上」までの行程を一人で行えるようになる。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	映画制作においてフィルムとデジタルの違い デジタルの特性・将来的な予測利用価値などを講義する						
	2	デジタル機器の種類と用途 この演習に使用する機材取り扱い説明などを講義する						
	3	実践形式での撮影準備・リハーサルなど						
	4	実践形式での撮影準備・リハーサルなど						
	5	撮影実習						
	6	撮影実習						
	7	編集・カラコレ・仕上げ						
	8	編集・カラコレ・仕上げ・完成						
授業外学習	メーカー主催の各種デジタル映像機器ワークショップ等への参加							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「デジタルムービー実践ガイドブック」玄光社 MOOK、「映画撮影術」フィルムアート社 「基礎から始めるプロのためのライティング」玄光社ムック、「映像制作のためのサウンド収録・編集テクニック」玄光社MOOK							
評価方法	授業への参加、機材運用の姿勢(70%)、レポート作成(30%)							

科 目 名						担 当 者 名		
映画美術論						中原 俊、稲垣 尚夫 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	創作系	選択	演習	2	2	前期	F(その他)	白山
					1	後期	E(集中)	
履修条件	この科目はこれまで2年次前期に開講していたが、1年次後期(春期集中)に移動したため、2017年度に限り2回開講する。							
授業概要	映画美術の基礎知識を学ぶ講義をうけた後、学内スタジオを使って、セット美術の基本となる「パネル」「平台」の製作をしながら道具の使い方を習得する。最終日に自分達の作った材料をつかって、1週目の講義をふりかえりつつ、空間概念を理解する。							
到達目標	映画美術の基礎概念を理解し、セット作りための道具の使い方と部品(パーツ)の作り方を習得する。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	演出と美術(中原・木下) 『櫻の園』(‘90)をつかって、演出と美術の不可分の関係について対談で検証する 虚実のはざま(木下) 見世物としての映画に美術がいかに関与しているか考察する						
	2	美術の仕事(稲垣) 映画における美術の在り方とそれにまつわる様々な困難及びその対処方法を講義する 映画美術発達史(中原・稲垣) スタジオの成立の過程と小道具という仕事の変化について解説する						
	3	スタジオの構造と使用方法・工具の使い方(中原・稲垣・相田・大道具)						
	4	パネルの製作・片付け(同上)						
	5	平台の製作・片付け(同上)						
	6	平台を使って舞台を作り、パネルを立てて空間構成の概念を学ぶ(同上)						
授業外学習	自由創作物のプランと作製							
教科書	なし							
主要参考書	「櫻の園」吉田秋生 白泉社文庫(1994) 「美術という見世物」木下直之 講談社美術文庫(2010)							
評価方法	出席60%、指導講師による個別評価40%(理解力＋熱意)。技能を習得した者には美術ライセンスA(工具使用免許)を与える。							

科 目 名						担 当 者 名		
日本映画史						佐藤 忠男		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	理論系	選択	講義	2	1	前期	C3(2×6+3)	新百合ヶ丘・白山
履修条件	—							
授業概要	毎回2コマ連続の授業とし、はじめに古典的な映画を1本上映し、続く時間にその作品の解説と分析と批評を行う。歴史的背景や技術的發展を講義し、あわせて製作、配給、上映などの産業的發展についても述べる。							
到達目標	それぞれの時代に日本の映画人たちがどれほど豊かな創造性を発揮して新しい主題や方法を発見していったかを知って、それに感動と誇りをもてるようになってもらいたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	【第1日】 映画「生まれてはみたけれど」 1932年松竹蒲田作品を鑑賞する。 サイレント映画の技法について。小津安二郎監督の主題と技法について。						
	2							
	3	【第2日】 映画「残菊物語」 1939年松竹作品を鑑賞する。 溝口健二監督の主題と技法について。前回の「生まれてはみたけれど」の小津安二郎監督との比較。						
	4							
	5	【第3日】 映画「生きる」 1952年東宝作品を鑑賞する。 黒澤監督の主題と技法について。						
	6							
	7	【第4日】 映画「有りがたうさん」 1952年大映作品を鑑賞する。 清水宏監督の主題と技法を分析する。						
	8							
	9	【第5日】 映画「復讐するは我にあり」 1979年松竹-今村プロ作品を鑑賞する。 今村昌平監督の主題と技法について論じる。						
	10							
	11	【第6日】 映画「けんかえれじい」を鑑賞する。 鈴木清順監督の主題と技法を論じる。						
	12							
	13	【第7日】 映画「絞死刑」を鑑賞する。 日本映画の伝統と将来を考える。 大島渚監督の主題と技法を論じる。						
	14							
15								
授業外学習	授業で論じた監督の他の作品を図書館のDVDなどで、極力多く見て比較研究すること。							
教科書	「日本映画史」の授業に教科書は使用しない。強いて言えば図書室に多数置いてある佐藤忠男著「日本映画史」(全四巻、岩波書店)が教科書である。ただ大部で高価な本だから買わなくても図書室で読んでくれるだけでいい。							
主要参考書	小津安二郎、溝口健二、今村昌平、大島渚などについては多くの研究書がある。極力、多様な観点をそれらの研究書で学ぶことをすすめる。							
評価方法	受講態度(20%)とレポート等の課題(80%)を総合して判定・評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
映画史概論						佐藤 忠男		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	理論系	選択	講義	2	1	後期	C3(2×6+3)	白山
履修条件	—							
授業概要	映画の発展から今日までの歴史を、技術面、産業面、政治やイデオロギーとのかかわり、文化的伝統とのかかわり、そしてそれらが監督や俳優の個性をつうじて具体的にどのような作品に結実していったかなど、多面的に論じます。必要に応じて作品を映写し、学生と討論します。 日本映画史、アメリカ映画史、アジア映画史、ドキュメンタリー映画史などは他にそれぞれ独立した講義がありますので、ここではそれらから外れたヨーロッパ映画に重点をおくことになります。中南米、中近東、アフリカなどにも言及し、それらの全体を通じて映画文化というものが何をめざし、何を達成してきたか、そして何をめざすべきかを考える力を養うことを目標とします。							
到達目標	世界の映画はそれぞれの国ごとに独自に発達したが、同時に各国の映画は互いに影響し合い、交流し合ってきた。結果として映画は世界文化と呼ぶべき存在になっている。映画にかかわることは世界の未来にかかわることである。そういう自覚を持つようになってほしい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画の発明。 エジソンの発明した映画とリュミエールによる発展。						
	2	映像でストーリーを語る。「アメリカ消防夫の生活」や「大列車強盗」などの短編で映画はストーリーを語るようになる。						
	3	モンタージュ理論 アメリカでD・W・グリフィスによって確立された映画作法の諸原則と、ソビエトのエイゼンシュタインらによる独自の展開。						
	4	トーキー化。 アメリカ映画のミュージカルの大流行と、フランスのルネ・クレールによる洒落れたシャンソンの使い方。						
	5	アメリカ映画の影響。 ハリウッドで確立された映画作法がいかにして世界を制したか。						
	6	ヨーロッパ映画。 フランス、ドイツ、イギリス、スウェーデン、オランダなどの映画						
	7	戦争と映画。 ナチスの映画制作とそれを模範とした日本映画法について。						
	8	検閲と国家統制。 日本のドキュメンタリーの「戦う兵隊」、あるいは劇映画「煉瓦女工」などを具体例とし、考える。						
	9	ネオリアリズム。 ロベルト・ロッセリーニの「無防備都市」、ヴィットリオ・デ・シイカの「自転車泥棒」						
	10	社会主義国の映画。 ソヴィエト、中国、ポーランド、ベトナムなどの国々での映画の国家統制とそれへの抵抗						
	11	ヌーベルバーグ。 1950年代末にフランスで起こった映画人の新しい世代への台頭は世界的に影響を拡大した。その意味はなにか。						
	12	日本のヌーベルバーグ。 日本でも1950年代末から新しい世代の映画人たちが台頭して多くの変化と発展をもたらした。						
	13	アジア映画の世界への進出。 1950年代に日本映画が国際的に大きく進出したのにひきつづき、インド映画、中国映画、韓国映画が世界に知られるようになり、さらに多くの国々の映画が知られるようになった。						
	14	スタジオシステムとインディーズ。 1960年代から1970年代にかけて日本の大手映画会社はテレビに押されて製作力を失い、製作の主力は多くの独立プロダクションに移った。それで映画はどう変わったか。						
15	映画の現在。 現在、映画産業は多くの問題を抱えている。同時に、映画には多用な道が開けてきてもいる。かつてない映画が作られ、国際的な交流はいつそう多様になり多彩になって文化による世界理解の前衛の役割を果たしている。							
授業外学習	授業で触れた作品や関連する作品の多くが図書室にある。それらを極力見て研究すること。							
教科書	「映画史概論」は教科書は用いない。							
主要参考書	参考書としては佐藤忠男著「世界映画史」上下(第三文明社)がある。							
評価方法	受講態度(20%)とレポート等による課題(80%)を総合して判定評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
テーマ研究Ⅰ〈映画会社とスター〉						細野 辰興、中原 俊		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	理論系	選択	講義 (コラボ)	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	日本映画への導入授業なので、1年生は全員受講することが望ましい。							
授業概要	映画の発達の中で出現したヒーロー〈スター〉を軸に、凋落期までの日本映画の変容を大衆文化との関係を考察する。前期「日本映画史」を引き継ぎながら次年度からの創作のヒントを与える。							
到達目標	日本映画を近現代史の流れの中で理解する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画会社の成立						
	2	技術発達の影響						
	3	新しい演技の出現						
	4	戦後映画の変化						
	5	初期のスター達						
	6	レポート課題の発表						
	7	日活のスター						
	8							
	9	基礎演習をふり返り、演出と配役との関係を考える						
	10							
	11	東宝のスター						
	12							
	13	東映のスター						
	14							
15	その他のスター達 まとめ							
授業外学習	関連映画を見て、関連書籍を読む。							
教科書	特になし。							
主要参考書	四方田犬彦『日本映画110年』集英社新書							
評価方法	出席(50%)および期末レポート(50%)による。							

科 目 名						担 当 者 名		
フィルム・アーカイヴ学						岩 槻 歩		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	理論系	選択	講義	2	1	後期	B1(3×5)	白山・外部
履修条件	100年間にわたり映画の基盤であった「フィルム」に関心がある者の参加をのぞむ。事前には、①写真フィルムに触ってセルロイドの感触に親しむ、②映画保存機関である東京国立近代美術館フィルムセンターに一度は行ってみる、といった心がけが肝要。参考図書も読んでおかれたい。							
授業概要	本講では、ほぼ一世紀にわたって映画ソフトの主演をつとめてきた「フィルム」を取り上げ、その物質としての特性や、フィルムから最新のデジタル・ソフトまでをめぐる様々なテーマについて概説する。そして、映像はどのように保存され、次世代に継承されるべきか、地域の映像はコミュニティの中でどのように活用されるべきか、といった諸問題へと踏み込む。課外授業として、講義内容を実践的に発展させるため、映画保存機関や地域上映の拠点を見学する。							
到達目標	映画を「文化遺産」として考える視点を身につける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画保存とは何か——古い映画を残すことにどのような意義があるのかを全員で討議する。						
	2	フィルムとは何か——物質としてのフィルムを物理的に分析する。						
	3	フィルム・アーカイヴの仕事——映画の修復と保存の技術を知る。						
	4	学外学習1——国立フィルムセンター相模原分館見学						
	5	学外学習1——国立フィルムセンター相模原分館見学						
	6	学外学習1——国立フィルムセンター相模原分館見学						
	7	鑑賞——映画保存に関する映像作品を鑑賞して、全員で討議する。						
	8	デジタル時代の映画保存——デジタル映像の保存と問題点について学び、フィルム映像との違いを認識する。						
	9	文化政策と映画保存——2001年制定の文化芸術振興基本法と映画保存の関係を論じる。						
	10	学外学習2——IMAGICA見学(予定)						
	11	学外学習2——IMAGICA見学(予定)						
	12	学外学習2——IMAGICA見学(予定)						
	13	学外学習3——川崎市アートセンター見学						
	14	地域の映像保存とコミュニティシネマ——地域に根ざした映像の上映とアーカイヴの可能性について論じる。						
	15	まとめ						
授業外学習	公開中のクラシック作品を観に行くことなどの課題を出すことがある。							
教科書	必要なテキストは随時配布する。							
主要参考書	『映画という《物体X》 フィルム・アーカイヴの眼で見た映画 』(立東舎) 岡田秀則 2016年 『日本映画は生きている (日本映画は生きている 第1巻) 』岩波書店 2010年 東京国立近代美術館フィルムセンターwebサイト<www.momat.go.jp>、映画保存協会webサイト<http://filmpres.org>							
評価方法	授業内小レポート80%＋平常点20%。100点満点中60点を合格点とする。							

科 目 名						担 当 者 名		
映画と文学						関川 夏央		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	理論系	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	文学の映画化作品を見て、文字表現と映像表現の関係をさぐる。映画と文学、それぞれの作品を生み出した時代相、および時代を表象した俳優たちについて考察する。映画上映のあと、レクチャー、討論を行う。							
到達目標	文学表現と映画表現の関係を理解しながら、1950年代から60年代を中心に日本現代史像を形成する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1 2	今村昌平の初期作品「にあんちゃん」を見、テキスト「にあんちゃん」を読んで、1950年代後半の石炭産業、在日コリアン、および今村昌平という作家と出演した俳優たちについて考える。						
	3 4	成瀬己喜男「流れる」を見、幸田文のテキスト「流れる」を読んで、成瀬己喜男、および幸田文を分析する。1950年代後半の時代相と出演俳優たちについて考える。						
	5 6	市川崑「おとうと」を見、幸田文のテキスト「おとうと」を読んで、市川崑、シナリオの水木洋子および幸田文とその家族像を分析する。大正時代を表現するために市川崑が発想した現像方法「銀残し」を学ぶ。						
	7 8	新藤兼人「裸の島」を見、そのオリジナル・シナリオを分析する。また新藤後期の作品「午後の遺言状」を見て、独立プロ近代映画協会と新藤組のありかたについて研究する。						
	9 10	鈴木清順「けんかえれじい」(1966)を見て、鈴木清順の演出と新藤兼人のシナリオについて、および戦前という時代について考える。平林たい子原作「関東無宿」の部分を見て、文学作品の映像化について考察する。						
	11 12	増村保造「兵隊やくざ」を見、有馬頼義のテキストを読んで、軍隊とその表現について分析する。「大地の子守唄」以降の増村の変貌について考察する。						
	13 14	野村芳太郎「張込み」を見、松本清張のテキストを読んで、小説とその映画化作品の本質的な違いについて学ぶ。野村芳太郎「拝啓天皇陛下様」を見て、企業内監督に徹したその手法を研究する。						
	15	「まとめ」——以上の作家と作品について討論する						
	授業外学習	授業でとりあげるテキストは通読しておく。						
教科書	特になし。							
主要参考書	特になし。							
評価方法	出席60%、平常点30%、レポート10%							

科 目 名						担 当 者 名		
映像とことば						高橋 世織、斎藤 久志、伊津野 知多		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	理論系	選択	講義 (コラボ)	2	2	前期	B1(3×5)	白山
履修条件	課題作品の制作に取り組む意欲のある人に受講してもらいたい。初回の授業時にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。							
授業概要	身体の振る舞いや表情とことばとの関係、映像とことばの作用のちがい、映画におけることばの機能などのテーマから、映像とことばについて多角的に考える。また、ことばで書かれたものを映像化するワークショップと作品制作(指定のテキストを短い映像作品にする)を通して、2つのメディアの特徴と違いを体験的に理解することを目指す。3人の教員はそれぞれの専門分野の立場から授業を行い、受講者と討議する。授業は、講義、ワークショップ、課題作品の発表会で構成される。随時参考上映とディスカッションを行う。							
到達目標	①映像とことばという異なるメディアの特徴について考えを深めることができる。 ②ワークショップと課題作品の制作を通して、得た知識を体験的に理解することができる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	オリエンテーション：授業の内容とスケジュールについて／課題作品制作について 【講義 高橋】ことばとは何か（課題のテキストについて）						
	2	【講義 伊津野】映像とことばの作用のちがい						
	3	【講義 斎藤】映像とことばの多様な関係						
	4	【講義 高橋】ことばのはたらき						
	5	【講義 高橋】詩のことば：オノマトペについて(光の捏ねあげ)						
	6	【講義 高橋】小説のことば：冒頭(ファースト・カット)とは何か						
	7	【ワークショップ 斎藤】身体ふるまいや表情、声とことばの関係について						
	8	【ワークショップ 斎藤】読むことばと聞くことばの違い						
	9	【ワークショップ 斎藤】ことばを映像化する						
	10	【講義 伊津野】映画の意味とは何か／映画の意味作用の多様性						
	11	【講義 伊津野】映画言語について：サイレント時代の映画言語						
	12	【講義 伊津野】映画言語について：トーキー映画の可能性一言葉の意味に頼らないこと、あるいは意味をずらすこと						
	13	【課題作品発表会】作品の上映とディスカッション						
	14	【課題作品発表会】						
	15	【課題作品発表会】						
授業外学習	課題作品制作を各自授業時間外に進めること。							
教科書	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。							
主要参考書	課題作品制作のためのテキストは初回に配布する。							
評価方法	①受講態度(各回授業内で提出するリアクションペーパーの評価点):30%、②課題作品:30%、③期末レポート:40% ワークショップの出席は必須。また全5日間のうち3日以上欠席した場合は、課題作品を制作し、期末レポートを提出しても不合格となります。							

科 目 名						担 当 者 名		
映画流通論						石坂 健治		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	理論系	選択	講義	2	2	前期	C3(2×6+3)	白山
履修条件	専門を問わず、映画産業の全体像を知りたい者に向けて開かれる講義です。事前の心がけとしては、新聞や雑誌の映画広告をこまめにチェックする習慣を身に付け、レンタルビデオ店の商品の配置を気に留めるなど、映画にまつわる身の回りの全ての現象に意識的になることが肝要です。							
授業概要	映画の流通とは、一本の映画の製作が始まってから観客に届くまでの「作る」「見せる」「見る」という旅のことであり、つまり生産者から卸問屋を経て消費者へと至る道すじのことです。本講では、①映画を作ること(＝製作)、②映画を見せること(＝配給、上映、複製ソフト、著作権、輸出入、検閲)、③映画を見ること(＝鑑賞、批評、研究、ジャーナリズム)、のそれぞれの基本を概説し、映画流通の全体像を把握することをめざします。映画とは「商品」なのか、それとも「作品」なのか。それを考えるための基本レッスンです。							
到達目標	映画業界をひとつの産業としてとらえる視点を持ち、映画流通の全体像を把握することができるようになること。							
授業計画	回数	内 容						
	1	映画の流通とは何か——いま町の映画館でかかっている特定の映画を例にあげ、その映画が企画立案されてから完成するまでの「旅」を具体的にたどる。						
	2	映画の製作——1本の映画が誕生するプロセス(企画立案、脚本執筆、資金調達、ロケハン、撮影、ポストプロダクション)の流れを把握する。						
	3	映画の輸出——日本映画がはるばる海を越えて外国で上映されるプロセスを学ぶ。						
	4	映画の輸入——外国映画がはるばる海を渡って日本で上映されるプロセスを学ぶ。						
	5	映画の配給——第4回を受け、外国映画を日本に紹介する配給会社の仕事を理解する。						
	6	映画の上映——映画館がいかに経営されているかを学ぶ。自主上映との違いにもふれる。						
	7	映画と複製ソフト——フィルムとビデオの差異をメディア史的な視点から理解する。						
	8	映画とテレビ——20世紀を主導した2つのメディア＝先行した映画と後発のテレビの関係を考える。						
	9	映画と著作権——「ノーモア映画泥棒」のCMをもとに、映像の著作権の理念と現状を理解する。						
	10	映画と保険——映画製作につきまとうリスクとそれを回避するための「保険」の理念を学ぶ。						
	11	映画と観客——最新設備の巨大シネコンからアートフィルム専門のミニシアターまで、さまざまな映画館像を総覧する。						
	12	映画と批評——新聞の映画評や雑誌のコラムから学術論文までの幅を理解し、映画を文章化することの意味を考える。						
	13	映画とジャーナリズム——スターのゴシップから国際映画祭の華やかな報道まで、映画ジャーナリズムの歴史と現状を理解する。						
	14	映画と地域コミュニティ——日本各地で興隆する、映画を用いた地域活性化の試みについて考える。						
	15	まとめ						
授業外学習	課外授業(配給会社または映画館見学)を行うことがある。							
教科書	佐々木晃彦監修『芸術経営学講座第4巻 映像篇』東海大学出版会、1994年(アマゾンまたは図書館)							
主要参考書	公益財団法人ユニジャパン<www.unijapan.org> など							
評価方法	期末レポート80%＋平常点20%。100点満点中60点を合格点とする。(ただし出席不良の者がレポートだけ出してもダメ。)							

科 目 名						担 当 者 名		
プロデュース論						佐々木 史朗 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次		講義型	校舎
基礎	理論系	選択	講義	2	2	前期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	【読替科目】 プロデュース論 I (～2015年度)							
授業概要	映画は「作ること」にはじまり「見せること」で終わる。何の条件のないアイディアを出発点に、それがどのようなプロセスを経てシナリオとなり、映像化する現場へと展開していくのか、できあがった作品をどのようなマーケットで観客に出会わせるのか、劇場での上映が終わった作品を、その後どのように商品化するか、その作品をどう管理して著作権を発生させていくか、創作物である映画と商品としての映画をどのようにバランスさせていくか、その枠割を果たすキーパーソンとしてのプロデューサーの業務に沿いながら講義をおこなう。 ※1～5、12～15回は佐々木が、6～11回は富山省吾(プロデューサー)が担当する。							
到達目標	芸術性と商品性の両側面を併せ持つ映画について認識を持つプロデューサーについて関心と知識をたかめると同時に講義で用いる映画作品を授業中に見る引用だけでなく作品全体を見ることを促す							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	「プロデューサーとは何か」映画作品の中心に位置するプロデューサーの役割を正しく認識し、果たすべき役割を概括論的に解説し、学生に理解させる						
	2	「日本映画のこれまで」日本映画がどの時代、どのような社会の中で生まれ、それを推し進めてきたのは誰であったか、中心人物について解説し、現在に受け継がれているか、日本映画史を人間的な側面から論じる						
	3	「日本映画のこれから」そのような日本映画がどこから変質しはじめ、どのような人間たちが変革を担っていったか、その人間たちはどのような作品をつくったのかを解説する						
	4	「企画とはなにか」映画の出発点はどこにあるか、アイディアか、既成の作品の何かか、社会の流行か、それがどのように映画の企画になりうるかを解説する						
	5	「日本のマーケットとはなにか」完成した映画はどのようなマーケットへ展開すべきか、そこにはどのような条件があるのか、作品の特質と商業の場を考えながら論じる						
	6	「映画が産業となった日」映画が巨大産業となっていくアメリカ市場を中心に、なぜそうなったか、国土に特有の事情があったのか、現在の映画産業はどのように存在しているかを論じる						
	7	「シナリオとは何か」映画創作の出発点であるシナリオをどう組み立てるべきなのか、成功したシナリオにどのような共通点があるのか、演劇の脚本との共通性、違い方を比較しながら解説する						
	8	「シナリオとは何かー2」実際のシナリオの組み立て方を作品をみせながら分析し、なにが必要なことか、人物はどう描くべきか、時間と空間をどのように省略するのかを解説する						
	9	「映画のファイナンス」映画製作に必要な製作資金、上映に際して必要な宣伝費などをどう調達するか、映画へ出資する企業や人々はどこにいるのか、その企業とはどのような契約を成立させるのかなどを解説する						
	10	「プリプロとは何か」ファイナンスが決定すると製作準備(プリプロ)が開始となる。準備に必要なことから、スタッフ、仕事にはどのようなものがあるか、どう進めていけばよいかを解説する						
	11	「撮影現場では何が起きているか」俳優、スタッフ、撮影現場でのコミュニケーションの必要性、監督を中心とする撮影の現場でどのようなことが起きるか、優れた監督は現場でどのように存在しているかを論じる						
	12	「VFXは映画をどう変えたか」近年VFXの進歩によって映画の作られ方は大きく変わり、映画の作られ方に影響を与え続けている。VFXの最前線にいるプロデューサーをゲストに視覚効果の具体を解説する						
	13	「VFXは映画をどう変えたか」ー2、近年VFXを映画の中でどう使うべきなのか、有効であるのか。作品例を見せながら、その効果や技術を具体的に説明する						
	14	「映画が観客と出会う場所」映画がマーケット展開するのに必要な配給と劇場、製作はそれらとどのように関連するのか、何が必要とされるか、マーケティングとは何かを解説する						
	15	「映画はだれのものか」完成した作品は誰が所有するか、映画の著作権とは何か、その処理はどのように行われるのか、著作権の理想と現実のできごと、財産権と人格権について解説する						
授業外学習	授業中上映する映画作品は後日かならず観ておくこと							
教科書	なし							
主要参考書	劇場、DVDなどでの映画鑑賞							
評価方法	出席及び参加度:60% レポート40%							

科 目 名						担 当 者 名		
コンテンツ文化史						中川 譔		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
基礎	理論系	選択	講義	2	2	前期	B1(3×5)	白山
履修条件	無し							
授業概要	アニメーションという技法には100年以上の歴史があり、アニメーションという技法で創れる映像作品の範囲は、現代の我々が「アニメ」という語で想像する範囲よりずっと広いものだ。この講義では、アニメーションの歴史を辿り、現在の「アニメ」へ至る、その萌芽から爛熟までを、歴史的に追いかけていく。表現を鑑賞する姿勢として、その背景となる作り手や企業の成り立ち、法律による制限、倫理規制、金銭的な限界などの様々な視座から分析し、一つの作品がどのように成立していくものなのかについての歴史的・社会的・技術的な分析をよしとする立場に立ち、単純な作家主義を廃する。							
到達目標	アニメーションの技法を歴史的に理解し、現在コンテンツと分類される作品の成り立ちや歴史的背景を理解すること。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	アニメーション・コンテンツとは何か						
	2	アニメを「読む」ための手法						
	3	アニメを「読む」・作る手法を通しての実践						
	4	1950年代の日本・アニメ産業の萌芽						
	5	1960年代の日本・アニメ産業の成立						
	6	1970年代の日本・表現としてのアニメ						
	7	1980年代の日本・おたくあるいはマニアの成立						
	8	1990年代の日本・細分化するアニメ						
	9	2000年代の日本・ソフトとしてのアニメ						
	10	技術変革とアニメーション技法の変遷						
	11	ディズニーの成し遂げたこと・1930年代の米国から						
	12	1970年代から2000年代までのPixar社小史・CGIの確立						
	13	日本アニメにおけるCGIの歴史						
	14	技術からアニメを読む・実践						
	15	総括						
授業外学習	授業で取り上げる作品の鑑賞や背景の調査、参考書の熟読等を随時求める。							
教科書	—							
主要参考書	京都アニメーション出版部『作画の手引き』(2010)、同『仕上げ・撮影の手引き』(2010)、デヴィッド・A・プライス『メイキング・オブ・ピクサー』(2009)、有馬哲夫『ディズニーとライバルたち—アメリカのカートゥン・メディア史』(2004)、津堅信之『日本アニメーションの力—85年の歴史を貫く2つの軸』(2004)							
評価方法	最終レポートで評価するが、授業参加や発表等で加点をする。							

2017 年度						2017 年度		
科 目 名						担 当 者 名		
演出専門基礎講義						緒方 明、天願 大介、斎藤 久志 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門基礎	創作系	選択必修	講義 (オムニバス)	2	2	前期	F(その他)	新百合ヶ丘・白山
履修条件	演出、身体表現・俳優コースに進む学生は原則として当講義履修が条件。							
授業概要	演出とは何か。演技指導とは脚本を立体化、映像化するために映画監督はなにを行うべきなのか。それぞれの監督が考える「演出論」を講義し、共通点、相違点を探る。講師によってはワークショップも行い、演出の実践を体感する。							
到達目標	映画を鑑賞する際に、脚本・演出を基点に観る方法を把握し、自らの映画制作の際の参考にする。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	[演出論]①－A 斎藤久志 安藤尋 インプロワークショップ→講師が作った設定を学生が即興で演じ、検証する						
	2	[演出論]①－B 斎藤久志 安藤尋 自作を見せて脚本→演出の流れを検証する						
	3	[演出論]②－A 緒方明 自作を見せて脚本→演出の流れを検証する						
	4	[演出論]②－B 緒方明 サウトシキ ワンシーン実習で制作した同一脚本で作られた2本の作品を見せて演出を検証する						
	5	[演出身体ワークショップ]③－A 緒方明 コントのテキストを検証しながら、ドラマの本質を探る						
	6	[演出身体ワークショップ]③－B 天願大介 緒方明 エチュード形式であるテーマを基にミニドラマを演じてみる						
授業外学習	担当教員の作品を可能な限り事前に観賞しておく							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席(80%)及びレポート提出(20%)							

科 目 名						担 当 者 名		
脚本専門基礎講義						荒井 晴彦、斎藤 久志 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門基礎	創作系	選択必修	講義 (オムニバス)	2	2	前期	B1(3×5)	新百合ヶ丘
履修条件	脚本コースに進む者は履修すること。							
授業概要	毎回、実作者(脚本家、監督等)であるゲスト講師を招き、ゲスト講師が携わった作品を上映することで、その作品がいかんにして作られたかを担当教員との対話であきらかにしていく。事前に上映される作品の脚本をプリントで配布するので、必ず読んで出席すること。その作品に、原作がある場合は、原作を読んでから脚本を読む事が望ましい。 ・開講日が変則となるので注意すること。 ・とりあげる作品及びゲスト講師は、事前に脚本を配布する際に知らせるので、掲示に注意すること。							
到達目標	第一線のプロの創作過程を知る事で、自分たちの今後の作品作りの参考にする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	【テーマ:監督】						
	2	ゲスト講師が監督した作品の上映。						
	3	ゲスト講師による作品の解説。講師と担当教員による対談。学生とのディスカッション。						
	4	【テーマ:脚本】						
	5	ゲスト講師が脚本した作品の上映。						
	6	ゲスト講師による作品の解説。講師と担当教員による対談。学生とのディスカッション。						
	7	【テーマ:製作】						
	8	ゲスト講師が製作した作品の上映。						
	9	ゲスト講師による作品の解説。講師と担当教員による対談。学生とのディスカッション。						
	10	【テーマ:監督】						
	11	ゲスト講師が監督・出演した作品の上映。						
	12	ゲスト講師による作品の解説。講師と担当教員による対談。学生とのディスカッション。						
	13	【テーマ:脚本】						
	14	ゲスト講師が脚本した作品の上映。						
15	ゲスト講師による作品の解説。講師と担当教員による対談。学生とのディスカッション。							
授業外学習	上映される作品の脚本を事前に配布するので、授業までに必ず読むこと。また、原作がある場合は、原作を読むこと。							
教科書	毎回配布される脚本のプリント。							
主要参考書	原作がある場合は原作小説等。							
評価方法	出席(40%)、レポート(60%)							

科 目 名						担 当 者 名		
撮影照明専門基礎演習						さの てつろう、川上 皓市 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門基礎	創作系	選択必修	演習	2	2	前期	F(その他)	白山・外部
履修条件	1年後期の「映画制作基礎演習」を履修している 2年後期以降に撮影照明コースを希望する学生							
授業概要	16ミリフィルムによる撮影・照明について基本的知識と技術の習得、ドラマ撮影・照明についての基礎知識を実際の機材を使って学習する。 少人数グループのワークショップ形式で進行する。							
到達目標	撮影機材全般の取り扱いができる。フィルムと露出・照明比・色温度の特性を理解し対応し表現にできる。スレート・グレーチャートの意味と必要性を理解し実践できる。共同作業の重要性を理解し連携がとれる。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	映画における撮影と照明の役割 ～作品をみせて、その役割について講義						
	2	撮影・照明機材の特性 ～撮影・照明機材取り扱いの実践						
	3	光とフィルムと絞り、色温度 ～露出計・カラーメーター・デジタルカメラ等を使用して、計測と色温度について講義						
	4	カメラメカニックテスト ～グレーチャート・カラーチャートを使用して基本的なカメラのメカニックテストを行う						
	5	照明の基本、光の角度と光質などを講義する ～スタジオ内のセットをライティングする						
	6	テスト撮影① 人物や風景など多種のパターンをスタジオと屋外で撮影する						
	7	テスト撮影② 人物や風景など多種のパターンをスタジオと屋外で撮影する						
	8	(現像所 見学) 現像所でフィルムプロセッシングの見学及びテスト撮影のプリントを試写し結果の検証を行う						
授業外学習	フィルムスチールカメラで様々な自然光線での風景などを撮影、プリントして検証してみる							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映画TV技術手帳」映画テレビ技術協会 「35 / 16mm FILM CAMERAS MANUAL」映画テレビ技術協会 「映画撮影術」フィルムアート社 「カメラ アシスタント マニュアル」 翻訳 西田和憲 / 日本映画撮影監督協会 「撮影・VFX/CG アナログ基礎講座」 古賀信明著 スペシャルエフエックススタジオ							
評価方法	授業への積極参加・機材運用などの習熟度により評価							

科 目 名						担 当 者 名		
録音専門基礎演習						弦巻 裕、若林 大介 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門基礎	創作系	選択必修	演習	2	2	前期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	2年後期以降に録音コースを希望する学生は必ず履修しなければならない。							
授業概要	「映画制作基礎演習」を経て、録音を学ぶことを志向した学生のための専門基礎科目である。映画における音の役割と、現場からポストプロダクションまで関わる録音技術者の仕事の流れ、つまり、映画における音の役割、録音とは何か、ミキシングとレコーディング、アフレコの技術等を一通り解説しなぞることで、録音技術を学んでいこうかと考える学生に適切な情報を提供する。今後の演習・実習においては、この授業を修了したもののみが録音機材を操作することができる。							
到達目標	音とは何か？その物理的性質を理解する。 録音技術の基本を理解すると共に、マイクロフォンと録音機の基本的な仕組みを理解し、映画録音に最低限必要な機材の使い方を身につける。 スタジオの仕組みを理解し、簡単なアフレコ・フォーリー・ダビング作業を行えるようにする。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	映画における音の役割 録音のワークフローと現場録音の解説。 映画の音の遍歴						
	2	音とは何か？録音とは何か？ マイクの仕組み&レコーダーとは？&ケーブルの仕組み						
	3	現場録音ワークショップ①／現場機材の説明と機材特講						
	4	現場録音ワークショップ②／機材セッティングとブームオペレート 現場録音ワークショップ③／現場でのミキシングとレコーディング						
	5	スタジオ特講 スタジオでの音声の基準と素材管理 DAW[デジタルオーディオワークステーション]の基本 いい音とは何か？						
	6	アフレコスタジオでの録音／スタジオの使い方 アフレコスタジオでの録音／セリフの録音 アフレコスタジオでの録音／効果音の録音						
	7	アフレコスタジオでの録音／効果音の録音 素材のミックス(仕込み)						
	8	素材のミックス(ミックスダウン) 総括						
授業外学習	最近10年ほどの米国アカデミー録音賞、日本アカデミー録音賞、毎日映画録音賞の作品の中から数本を選んで鑑賞し、作品の中で音がどのような役割を果たしているかを考える。							
教科書	自主教材を用いる。適宜指示する。							
主要参考書	自主教材を用いる。適宜指示する。							
評価方法	1日目、2日目の座学でのミニテスト 20％ 3日目、4日目の現場録音ワークショップでの技能の到達度の評価 40％ 5日目から8日目までのスタジオ作業での技能到達度による評価 40％							

科 目 名						担 当 者 名		
編集専門基礎演習						阿部 互英 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門基礎	創作系	選択必修	演習	2	2	前期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	2年後期以降に編集コースを希望する学生は履修すること。							
授業概要	「映画制作基礎演習」を経て、編集を専攻することを志向した学生のための基礎講座の第二弾である。映画における編集の重要性を認識するために編集の発生や成り立ちを把握し、必要な基礎知識を身に着けつつ、技術的作業に要する道具・機材の取り扱い方を身に着け、さらに実験的にモンタージュしてみる。							
到達目標	編集の発生や成り立ち、様々な編集技術の基礎を講義で知り、初めて〈編集〉を意識して映像を組み立てる思考を得、体験をする。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	1年次の映画制作基礎演習の復習をする。 その経験と、編集に関するさまざまな資料をもとに〈映画編集〉について話し合う。						
	2	編集の歴史についての講義と作品分析(S・エイゼンシュテイン/D・W・グリフィス/ その他 いずれかの作品鑑賞)						
	3	モンタージュとは何か、様々な編集技法についての講義						
	4	編集素材を使い編集をする①						
	5	編集素材を使い編集をする②						
	6	編集素材を使い編集をする③						
	7	個々の編集したものを映写して観ながら評する。 7日間のまとめ						
授業外学習	授業で紹介された作品・引用された作品は観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	受講姿勢・態度・編集をみて評価する。							

2017年度						科目名			担当者名		
						理論専門基礎講義			高橋 世織、石坂 健治、関川 夏央 田辺 秋守、ハン・トンヒョン、伊津野 知多、大澤 信亮		
科目区分		科目分類		授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型		校舎	
専門基礎	理論系	選択必修	講義 (オムニバス)	2	2	前期	C1(1+2×7)		白山		
履修条件	映画・映像文化コースを希望する学生は履修すること。 第1回目の授業は、この授業科目とコースについてのガイダンスを行うので、必ず出席すること。										
授業概要	映画・映像文化コースでの学習への導入となる授業科目である。第1回は映画・映像文化コースについてのガイダンスを行う。第2回～14回はオムニバス形式で、コースの専任教員がそれぞれの専門分野について概説し、その魅力を語る。第15回は授業内で提示する課題についてレポートを作成する。										
到達目標	様々な学問分野と方法論に触れることで知識を得ると同時に、自らの関心の方向性を確かめることができる。特に映画・映像文化コースに進むことを希望する学生は、コース選択のために必要な情報を得ることができる。										
授業計画	回数	内 容									
	1	【全員】 ガイダンス： 映画・映像文化コースでは何を学ぶか									
	2	【大澤】 作品としての批評									
	3	【大澤】 〃									
	4	【石坂】 上映の現場でいま起こっていること									
	5	【石坂】 〃									
	6	【田辺】 哲学は映画に乗って旅をする									
	7	【田辺】 〃									
	8	【高橋】 皮膚論的想像力とは何か									
	9	【高橋】 〃									
	10	【ハン】 映画で考える社会学、もしくは社会学で読み解く映画									
	11	【ハン】 〃									
	12	【関川】 映画から現代史を読み取る。									
	13	【関川】 〃									
	14	【伊津野】 現実揺らぐー 映画・映像のリアリティ									
	15	課題レポートの作成(授業終了時に提出)									
授業外学習	授業中に指示した文献や映像作品をできるだけ見ておくこと。										
教科書	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。										
主要参考書	それぞれの授業内で案内する。										
評価方法	各回の出席(50%)＋課題レポートの評価点(50%)										

科 目 名						担 当 者 名		
脚本WS(ワークショップ) I						斎藤 久志 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	2	2	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	「脚本専門演習Ⅰ」もしくは「演出専門演習Ⅰ」を履修していること。 【読替科目】 脚本専門演習Ⅰ-1							
授業概要	2年後期の専門演習で脚本と演出の関係を学んできたうえでの「合同制作」「脚本専門演習Ⅱ」で自分たちが監督をする作品の為に脚本作りなので、より実践的な脚本の作り方を学ぶ。							
到達目標	ペラ30枚のシナリオの完成。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	基礎・長編と学んで来たことを使って、15分での構成、脚本と演出の関係等を学び、「合同制作」「脚本専門演習Ⅱ」で実際に撮影するにあたって、可能なこと不可能なことを検討のうえ、プロット執筆に向かう。						
	2	プロットの講評を受け、箱書きにしてみる。						
	3	箱書きの講評を受ける。展開に無理がないか、登場人物が生きて動いているかを検証し、脚本執筆に向かう。書く上では30枚にこだわらずお話の展開を意識させる。						
	4	書いた脚本の個別指導を受ける。その上でここまで学んだ事を具体的に検証する。長い脚本は無駄がないか、短い脚本は何が足りないかを指導する。						
	5	直した脚本の合評をし、「脚本WSⅡ」に向けて直しの方向性を指導する。						
授業外学習	プロット及びシナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)							

2017年度						2018年度		
科 目 名						担 当 者 名		
演出専門演習Ⅰ 〈ワンシーン〉						緒方 明 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	ガイダンスに参加し、教員の撮った作品を観ておく。 【読替科目】 脚本演出専門演習Ⅰ－A							
授業概要	専門コースに分かれて初めての演習であり、脚本から演出→完成に至るまでどのような作業が行われるかを演習の形でいながら把握していく。ロケハン、美術準備、演技指導、カット割等を与えられたテキストを元に実際に行い体得する。							
到達目標	シナリオの読解力を深め撮影現場をスムーズに進行させる能力を身につける。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	ゼミ内オリエンテーション、脚本特講、演出と脚本の関係性						
	2	技術特講、講師撮影作品準備開始、脚本の読み込み、キャスティング(ワークショップによる演技指導)						
	3	講師作品のロケハン(ロケ交渉)、衣装合わせ等						
	4	講師作品撮影。学生によるワンシーン作品の脚本選定、班構成						
	5	学生たちによるワンシーン作品の準備・撮影(毎週一本撮影) ラッシュチェック、脚本の再検証 同一シナリオによって繰り返し撮影していく						
	6	学生たちによるワンシーン作品の準備・撮影(毎週一本撮影) ラッシュチェック、脚本の再検証 同一シナリオによって繰り返し撮影していく						
	7	学生たちによるワンシーン作品の準備・撮影(毎週一本撮影) ラッシュチェック、脚本の再検証 同一シナリオによって繰り返し撮影していく						
	8	編集特講、編集作業						
	9	作品編集作業						
	10	編集・整音・全作品を上映して検証授業						
授業外学習	講評または指定された脚本を各自精読しておく							
教科書	—							
主要参考書	シドフィールド「映画を作るためにしなくてはならないこと」							
評価方法	レポートの内容と演習への出欠、姿勢などで総合評価							

科 目 名						担 当 者 名		
脚本専門演習Ⅰ 〈インプロビゼーション〉						斎藤 久志 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	ガイダンスに参加して、課題のプロットを執筆しておくこと。 【読替科目】 脚本演出専門演習Ⅰ－B							
授業概要	この授業は脚本に重きをおいて行う。あらすじを元にインプロビゼーション(即興)で学生自ら演じることによって、ドラマの発生、台詞の発生を主観で体験する。頭で書いた物語が実際に生身で動いてみると感情に無理があったり、展開に無理があったりすることを、その都度直しながら撮影し、完成させる。その完成作品を今度は文字に起こし、それを元に脚本直しをすることで、客観的に展開を文字で考え直す。そのうえで主観と客観の差を知り、脚本を書く上での考え方の基本を学ぶ。さらに出来上がった脚本をプロの俳優に演じてもらい作品を作ることで、自分の書いた物を他者に伝えること。主観で感じた感情を外(観客)に見せるにはどうすればいいのかと、という演出面で方法論を学ぶ。							
到達目標	頭だけではなく、心と身体を使って脚本を書くことで、映画における表現方法を学ぶ。「脚本専門演習Ⅱ」に向けての現場的役割を習得する。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	提出したプロットを全体及び個人面談で直しを繰り返し、撮影するプロット選び、撮影での役割を決める。						
	2	選ばれたプロットを元にロケハン、衣装決め等を監督に選ばれた者を中心に行う。						
	3	一日ワンシーン、計4日間をかけて撮影をおこなう。						
	4	撮った素材を編集でつなぎ、一度編集ラッシュの講評を受けてさらに編集を直していく。						
	5	出来上がった作品の合評を聞き、それを元に各自採録シナリオに起こし、撮り上がった作品において何がたりなかったか、等を考えてシナリオを作る。						
	6	書き上げたシナリオの講評をマンツーマンでおこない。シナリオを直す。それを計3回おこなう。						
	7	書き上げたシナリオの全体合評を行い、次に撮影する脚本を選び、役割を決める。						
	8	選ばれた脚本を元にロケハン、美術、衣装などの準備をする。キャストに関しては、プロの俳優事務所をお願いして、キャスティングをしてもらう。						
	9	衣装合わせ、リハーサルの後に4日間の撮影を行う。						
	10	編集・MAの後、発表会をおこない、作品解析をする。						
授業外学習	撮影のための準備、シナリオの執筆等。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	執筆物の成果と、演習における姿勢、熱意を重視し担当教員が総合的に判断する。							

科 目 名						担 当 者 名		
技術合同専門演習(撮影照明コース)						さの てつろう、川上 皓市 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	—							
授業概要	これまでに学んだ基礎知識と技術を映画制作に応用していくことで「撮影・照明」がいかに作品に反映され、重要であるかを体感する。文章(シナリオ)から演出・演技につながり、それらを映像へ具現化することの難しさと、より理想に近づけるには何を学ぶべきかを思考する。							
到達目標	*映画制作の多様性を理解すること *思考・創造・準備・応用・発想の転換が映画撮影でいかに重要か深く理解すること *多くの技術が作品の仕上がりを左右しそれらを身につけ反映させることが作品のグレードアップにつながることを理解する							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	映画撮影における心得、取組み、技術について講義すると共に、これまで使用していない機材の使用方法について学習する						
	2	映画撮影に向けて機材をより実践的に学習する						
	3	制作準備						
	4	制作準備						
	5	撮影						
	6	5週目に撮影を行った作品のタイトル撮影と仕上げ作業への参加 復習授業 3～5週目に製作した作品の反省を踏まえて、写真でストーリーを構成する ～撮影						
	7	3～5週目に製作した作品の仕上げ作業への参加 復習授業 写真構成の撮影(最終日、講評)						
	8	3～5週目に製作した作品の検証と仕上げ作業への参加 復習授業 撮影スタジオで基本的なライティングを行い、照明の基本を再認識させる						
	9	3～5週目に製作した作品の検証と仕上げ作業への参加 復習授業 架空の人物を設定し、その人物を紹介する映像を撮影・編集して、ドラマ映像の構成を再認識させる						
	10	3～5週目に製作した作品の検証と仕上げ作業への参加 (現像所でのタイミング作業) 復習授業 架空の人物を設定し、その人物を紹介する映像を撮影・編集して、ドラマ映像の構成を再認識させる						
授業外学習	*「撮影照明専門基礎演習」で得たデータの再分析と復習 *ワークショップへの参加 *映画鑑賞・演劇の鑑賞 *様々な光線下でフィルム写真撮影・プリントして検証							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映画撮影術」 ポール・ウィラー著/フィルムアート社 「映画TV技術手帳」 映画テレビ技術協会 「映画制作ハンドブック」 ムック玄光社 「撮影・VFX / CG アナログ基礎講座」 古賀信明著/スペシャルエフエックス スタジオ 「カメラ アシスタント マニュアル」 翻訳 西田和憲/日本映画撮影監督協会							
評価方法	映画制作への積極的参加、技術への関心と探究心、作品に関わる各パートスタッフの役割についての理解、共同作業でのコミュニケーション能力、指導講師からの指導の理解度などから総合的に評価する							

科 目 名						担 当 者 名		
技術合同専門演習(録音コース)						弦巻 裕、若林 大介 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	—							
授業概要	2年前期の「録音専門基礎演習」で学んだ基礎知識と技術を現場での制作で具現化することにより、3年前期の「合同制作」に向けた実践的な技術を身につける。撮影照明・編集、それぞれの専門コースの学生と共同で16mmフィルムによる短編作品の制作を行う。録音と、撮影照明や編集との関係について理解を深めるとともに、チームワークの必要性を理解しコミュニケーション能力の向上を図る。							
到達目標	マイクの特性を理解した上で、映像に応じた音を録るためには、適切な位置にマイクを配置する事が重要である事を理解する。電気音響の基礎を理解し、デシベルなどの単位を実践的に使えるようにする。適切な信号レベルで録音する必要性を理解し、実践面でも適切なレベルで歪みのない録音を出来るようにする。デジタル録音の概念を理解する。セリフ・効果音・音楽の担当者が協同して作品を完成させる事を実践的に理解する。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	DAW(デジタルオーディオワークステーション)について 音とは何か 映画音楽について						
	2	光学録音について デジタル録音の概念 現場録音における、録音スタッフ(技師、チーフ、セカンド、サード)の配置と各ポジションの役割						
	3	制作準備 スタッフ編成、キャスティング、ロケハン、美術、衣装合わせ、機材チェック、カメラテスト、シンクロテスト、メインロケハン、リハーサル、撮影スケジュールの決定 録音機およびマイクの取り扱い方 マイクアレンジの基本						
	4	制作準備 スタッフ編成、キャスティング、ロケハン、美術、衣装合わせ、機材チェック、カメラテスト、シンクロテスト、メインロケハン、リハーサル、撮影スケジュールの決定 録音機およびマイクの取り扱い方 マイクアレンジの基本						
	5	撮影 映像に即したマイクアレンジの仕方 様々な状況に応じた同時録音方法						
	6	リレコ&ラッシュ 素材管理と、編集への素材受け渡しの注意点 DAW(デジタルオーディオワークステーション)について						
	7	ラッシュ&オールラッシュ&アフレコ&音ロケ 映像に合わせた台詞の整音と音構成 音構成に合わせた音集め						
	8	フォーリー&音楽&仕込み 映像に合わせた効果の収録 音楽の収録や選曲 ならびに収集した音のはりつけなど						
	9	仕込み&ダビング 音の完成作業(ダビング)に向けた最終調整						
10	発表(上映)と合評 作品総括、技術総括							
授業外学習	録音機とマイクを持って様々な音を録音し、その音をスタジオで聞いてみる。自分がイメージした音を作るには、どのような録音を行う必要があるか、またどんな音を組み合わせる必要があるかを考える。 アフレコスタジオ、ダビングスタジオのシステム図を自分で書き、スタジオの仕組みを理解する。							
教科書	「映画録音技術」(発行(協)日本映画・テレビ録音協会。金額3240円)							
主要参考書	書籍 はじめての人のための電気の基本がよ〜くわかる本 (発行 秀和システム 1200円+税)							
評価方法	1週目、2週目にミニテストを行う 10% 3週目以降は準備段階、撮影段階、仕上げ段階ごとに映画制作への積極的な参加の姿勢。作品と撮影行為の理解力。授業項目の理解度。技術への関心度。共同作業でのコミュニケーション能力などを指導教師が話し合い評価する。 準備段階 30%、撮影段階 30%、仕上げ段階 30%							

2017年度						2018年度		
科 目 名						担 当 者 名		
技術合同専門演習(編集コース)						阿部 互英 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	—							
授業概要	撮影照明・録音・編集の技術3コースの学生が、共同で16mmフィルムによる短編作品の制作を行う。							
到達目標	2年前期の各「専門基礎演習」で学んだ基礎知識と技術を、現場での制作で具現化することにより、3年前期の「合同制作」に向けた実践的な技術を身につける。編集と、撮影・照明や録音との関係について理解を深めるとともに、チームワークの必要性を理解しコミュニケーション能力の向上を図る。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	基礎授業1:編集のワークフローとその注意点 / 2:フィルム編集機材の仕組みとその扱い方 / 3:編集助手の仕事と素材管理・仕上げスケジュールの組み方 / 4:映像と音・録音スタジオ見学 / 5:現像所の存在とフィルム(ラボ見学)						
	2	基礎授業6:ネガの取り扱いとネガ編集 / 7:オプチカル種類とオプチカル説明書・ネガの出し方 / 8:スクリプト特講 編集における記録用紙の重要性・記録用紙の書き方・読み方を理解する						
	3	制作準備 スタッフ編成、キャスティング、ロケハン、美術、衣装合わせ、機材チェック、カメラテスト、シンクロテスト、メインロケハン、リハーサル、撮影スケジュールの決定						
	4	制作準備 スタッフ編成、キャスティング、ロケハン、美術、衣装合わせ、機材チェック、カメラテスト、シンクロテスト、メインロケハン、リハーサル、撮影スケジュールの決定						
	5	撮影&ラッシュ						
	6	仕上げ:ラッシュ 【編集準備】画・音ばらし〜組み〜【フィルム編集】〜編集ラッシュ						
	7	仕上げ:ラッシュ フィルム編集〜ファイナル・カット(オール・ラッシュ)まで／音楽・効果音打ち合わせ						
	8	画ネガ整理／画ネガ編集の準備／カット・リスト作成						
	9	画ネガ編集の準備 (タイミング打ち合わせ) ダビング						
	10	画(ネガ)音(ネガ)原版作成〜発送 0号プリント試写／チェック／反省／発表(上映会)と合評						
授業外学習	授業の復習はもちろんのこと、FILM演習におけるネガ原版作成のための訓練は授業時間外でも繰り返し行うこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	試験は行わない。映画制作への積極的な参加の姿勢、作品と撮影行為の理解力、授業項目の理解度、技術への関心度、共同作業でのコミュニケーション能力などを指導教員が話し合い、評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
ドキュメンタリー専門演習Ⅰ						安岡 卓治 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	ドキュメンタリーも劇映画と同様に実写の映像を構築して制作されるものである。劇映画にはシナリオという設計図があるが、登場人物の物語を豊かにするためには、それぞれの場面をどのように撮影するかにかかっている。人物の動きをいかに撮るのか、物語の舞台となる場所をどう見せるのか、映画の奥行きを深める工夫が鍵になる。こういった撮影には、作品のストーリーや展開を十分に踏まえた意図が不可欠であり、意図を前提にした撮影の設計がなされなければならない。漫然と撮っていても、NGの山を築くだけである。この演習では、実景撮影における意図と撮影設計について体験的に学習する。何気なく日常で接している風景が、創意工夫によって様々な意味を持った「実景」となる。							
到達目標	■ドキュメンタリー映画制作に必要な基礎的な技術の習得 ■ドキュメンタリー映画の多様性を知る ■短編制作の作業の流れを体験する							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	■講義①「『風景』を『実景』へ」■講義②「モンタージュと意図」■講義③「＜ベクトルを創る＞人の動き、カメラの動き」 ■作品研究						
	2	■撮影・編集ワークショップⅠ「モノログ実習」 ■作品研究						
	3	■撮影・編集ワークショップⅠ「モノログ実習」＋技術基礎① ■作品研究						
	4	■撮影・編集ワークショップⅡ 基礎技術② ■作品研究						
	5	■撮影・編集ワークショップⅡ 基礎技術③ ■作品研究／ゲスト講師講義						
	6	■撮影・編集ワークショップⅡ 基礎技術④ ■作品研究／ゲスト講師講義						
	7	■講義①「企画論①『ストーリー』」■講義②「企画論②『構成要素と登場人物』」■講義③「企画論③『作業設計とスケジュール』」						
	8	■撮影・編集ワークショップⅢ「暮らしを撮る」						
	9	■撮影・編集ワークショップⅢ「暮らしを撮る」						
	10	■撮影・編集ワークショップⅢ「暮らしを撮る」						
授業外学習	■鑑賞課題：各自が選ぶドキュメンタリー作品 ■技術研修課題：各ワークショップ課題 ■制作課題：ドキュメンタリー映画企画書作成							
教科書	—							
主要参考書	「日本のドキュメンタリー2 政治・社会編」岩波書店、「日本のドキュメンタリー3 生活・文化編」岩波書店、「日本のドキュメンタリー4 産業・科学編」岩波書店、「ドキュメンタリー・ストーリーテリング『クリエイティブ・ノンフィクション』の作り方」フィルムアート社、「ドキュメンタリーとは何か」土本典昭・記録映画作家の仕事」							
評価方法	ワークショップ課題への取り組み。制作されたクリップでの習熟度。課題レポートへの取り組み。							

科 目 名						担 当 者 名		
映画・映像文化専門演習Ⅰ						伊津野 知多、関川 夏央、大澤 信亮、ハン・トンヒョン		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	白山・外部
履修条件	—							
授業概要	映画・映像文化コースに進んだ学生が、4年次の卒業論文の執筆までに必要な知識と技術、思考力を段階的に身につけることを目的とした科目である。授業内容ごとに4つのユニットに分け、4人の教員が担当する。「映画理論」(講義形式)では、映画と映像文化を理解するための基礎的な知識を修得する。「ライティングWS」(演習形式)では、自分の考えを適切に文章で表現するための技術を修得する。「映画祭合宿①」(演習形式)では、地方の映画祭に参加して映画祭の運営やプログラミングのあり方について理解を深める。「文献購読①」(演習形式)では、知識の幅を広げるとともに、文献を読み解く技術を修得する。受講者には、主体的に授業に参加し、ユニットごとに課される課題を確実にこなしていくことが求められる。この授業を不合格になると3年次に進級できなくなるので注意すること。							
到達目標	①映画・映像文化を学ぶ上での基礎知識を身につける。 ②卒業論文の執筆に必要な書く力と読む力、論理的な思考力を身につける。							
授 業 計 画	内 容							
	【映画理論】 担当教員:伊津野知多/講義型:C4(2コマ×8週)							
	映画理論の基礎的な概念と考え方を理解し、映像文化を読み解くための基礎力を身につけることを目的とする。毎回参考上映を行い、受講者とのディスカッションを交えながら授業を進める。具体的には、以下のような内容を扱う。 ・映画の独特な時間と空間 ・映画の視点の多様性 ・視点と視線のコントロール ・映像、映画のイデオロギー性 ・映画の3つの意味の層(記録性・表現性・物語性) ・映画のさまざまなスタイル							
	【ライティングWS】 担当教員:関川夏央/講義型:C4(2コマ×8週)							
	・他者に伝えたいことを伝えられる文章を書く。 ・他者を書き言葉によってたのしませる。 ・2コマ8回の演習で6～7個の課題を与える。 それを600～1200字の原稿にして提出し、相互的批評を加えながら書き言葉による他者への伝達の方法を考え、訓練する。 また同時に、他者の原稿の読み方を学ぶ。							
授 業 計 画	【映画祭合宿①】 担当教員:大澤信亮/講義型:F(その他)							
	2泊3日の合宿を通して、地方映画祭の運営と現状の見学ならびに、学生同士の相互理解を図ることを目的とする。学生は期間中、それぞれの関心に基づいた役割分担によって、のちにレポートを書くことを前提に、映画祭に参加する。帰校後の授業では、各自のレポートを総合し、第三者が映画祭の全体を理解できるような一本の報告レポートを完成させる。 ・映画祭への参加(小津安二郎記念・蓼科高原映画祭。9/23～24日の予定) ・映画鑑賞(小津作品、出展作品、短編、イベント) ・映画祭の周辺(トーク、パーティー、監督居酒屋、無藝荘、フィルムコミッション) ・授業(10/11(水)3-4限。レポートの読み合わせと総合。)							
授 業 計 画	【文献購読①】 担当教員:ハン・トンヒョン/講義型:C4(2コマ×8週)							
	幅広い社会問題、時事問題に触れ、一般教養を身につけ、社会を見る目を養いつつ、文章の読解と要約に慣れることを目的とする。現代社会の様々なテーマを扱った新書などの一般書を全員で読み、要約して発表、意見交換する。発表は全員の義務。また指示された文献については発表者以外も全員が必ず読み、自分の意見を小レポートにまとめる。							
授業外学習	授業で紹介されたものを中心に、批評や評論、学術的な文献を多読する習慣をつけてほしい。映像作品についても、授業外の時間に多く見ておくこと。また、読書や映画鑑賞でインプットしたものを、自分の中で消化し、読書メモや鑑賞メモのような形でアウトプットする訓練をしておくことを勧める。							
教科書	使用しない。必要な資料はプリント配布する。							
主要参考書	各授業内で紹介する。							
評価方法	ユニットごとの成績をあわせて総合評価する。ユニットごとの評価方法は以下の通り。 【映画理論】 毎回授業時に課す小レポートの評価点(70%)＋出席、ディスカッションへの参加態度などの平常点(30%) 【ライティングWS】 出席(50%)＋課題提出(50%) 【映画祭合宿①】 課題レポート(60%)＋授業への出席および態度(40%) 【文献購読①】 発表(40%)＋毎回課す小レポート(30%)＋出席、ディスカッションへの参加態度など平常点(30%)							

2017年度						科目名			担当者名		
脚本専門演習Ⅰ－2						斎藤 久志 ほか					
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎			
専門	創作系	選択必修	演習	2	3	前期	F(その他)	新百合ヶ丘			
履修条件	「脚本専門演習Ⅰ－1」を履修し、30枚の脚本を書き上げていること。										
授業概要	「合同制作A」の実習の物理条件に照らし合わせたうえで、脚本の直しをおこなう。										
到達目標	「脚本専門演習Ⅰ－1」で書いた脚本をよりブラッシュアップさせる。										
授業計画	日数	内 容									
	1	テーマに添って物語が通っているかを検証をする。									
	2	ハコ(構成)に戻して、シークエンス、シーンの検証をする。									
	3	登場人物の行動に無理はないか、登場人物の関係性は動いているかを検証をする。									
	4	シーンの数、ロケ場所の問題等、物理条件を検証をする。									
	5	合評して、「合同制作A」で作る脚本を選出する。									
授業外学習	脚本の執筆。										
教科書	—										
主要参考書	—										
評価方法	出席(40%)、提出課題(60%)										

科 目 名						担 当 者 名		
合同制作A 〈ドラマ〉(脚本演出コース)						細野 辰興、斎藤 久志 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	2年前期の「撮影照明専門基礎演習」、「録音専門基礎演習」、「編集専門基礎演習」のうちのいずれか1科目を履修していることが望ましい。その上で、ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モンタージュ論、コンテニューティ(撮影計画)を一通り理解していること。ガイダンスに出席し、授業の狙いを理解した上で、ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モンタージュ論、コンテニューティを考慮した15分間ほどのワンシーン演習用シナリオ(200字詰め原稿用紙30枚以内見当)を執筆、提出すること。							
授業概要	各専門コースに分かれて学んできた学生が、一本の台本の元に集まり各部の主張の中で一つの作品を作り上げることにより、コミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。撮影は16mmフィルムで行い、仕上げではノンリニア編集を行いHDCAMで作品を仕上げる。「技術合同専門演習」と合わせ、フィルム媒体での完成作品とHDのテープ媒体での完成作品を作ることにより、卒業制作における作品媒体の選択肢を広げる。							
到達目標	脚本演出コースの学生は、映画制作の要として企画、脚本執筆、準備、撮影、演出、制作、仕上げに至るまで作品のテーマ、意図を理解し、それに沿って作品が完成するまで各パートを主導出来るようになること。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	脚本選定および脚本直し						
	2	制作準備 スタッフ編成および演出部に合流、						
	3	キャスティング、ロケハンの開始						
	4	衣装合わせ、美術・小道具、、メインロケハン、リハーサル、撮影スケジュールの決定						
	5	この週の後半より撮影開始&ニュー・ラッシュ						
	6	撮影&ニュー・ラッシュ						
	7	この週の前半で撮影終了&ニュー・ラッシュ。仕上げ準備:仕上げスケジュール作成、基本的に編集部・録音部と共に作品制作にあたる。編集構成打ち合わせ、						
	8	編集ラッシュ開始 編集部や録音部と打ち合わせを重ね、作品を作り上げる。						
	9	音構成及び音楽打ち合わせ、効果音打ち合わせ						
	10	音楽打ち合わせ、アフレコ						
	11	カラコレ&ダビング(MA)						
	12	復習授業及び発展授業 作品制作のプロセスやそれを通じて学習したことを基に、さらに映像表現に対し考察を深める為の発展的な授業を行う。						
	13	復習授業及び発展授業 作品制作のプロセスやそれを通じて学習したことを基に、さらに映像表現に対し考察を深める為の発展的な授業を行う。						
	14	デジタル出力・試写						
15	作品発表会・合評							
授業外学習	2年次に行なった実習の全行程、授業内容を反芻しておくこと。過去の1500ft実習の作品を観て、撮影シミュレーションなどを立ててみる。3年次までに自分が拘った実習の脚本を分析し、実際に出来上がった映画とを比較し、脚本を立体化すると云うことを反芻しておく。							
教科書	過去に自分が携わった実習作品の脚本と完成作品							
主要参考書	2年次のゼミの講義録 『蒲田行進曲』(監督・深作欣二)『竜二Forever』(監督・細野辰興) 且雄二作『助監督』(城戸賞受賞脚本)『貌斬り KAOKIRI〜戯曲【スタニスラフスキー探偵団】より』(監督・細野辰興)							
評価方法	試験は行わない。映画制作への積極的な参加の姿勢、作品と各パートの役割の理解力、授業内容の理解度、技術への関心、共同作業でのコミュニケーション能力などから総合的に評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
合同制作A 〈ドラマ〉(撮影照明コース)						さの てつろう、川上 皓市 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	新百合ヶ丘
	2年後期「技術合同専門演習」を履修している							
授業概要	脚本があり演出があり演技があり、映画を創作する行程で「背景の選択」「画面構成」「光のコントロール」を計画想像しどう作品に反映させるか！映画制作を通じて学んでいく。 多くのスタッフ・パートと関わり作品制作をおこなうことによりコミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。 16mmフィルム撮影・ネガ現像logテレシネ・カラーグレーディング・最終DCPに仕上げる。							
到達目標	*映画制作の多様性を深く理解すること *技術の前に思考と創造あること *撮影・照明技術が作品にとっていかに重要であるかを深く理解すること							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	基礎授業 今回の演出コースとの合同製作の準備として、撮影コースだけでサイレント作品を製作する。～撮影						
	2	基礎授業 カラコレ、グレーディングの講義と1週目に撮影したサイレント作品の編集と講評						
	3	基礎授業 機材の準備、点検。取扱いに不安のある機材等の再認識						
	4	各コース合流して撮影準備から撮影						
	5	各コース合流して撮影準備から撮影						
	6	各コース合流して撮影準備から撮影						
	7	各コース合流して撮影準備から撮影						
	8	復習授業 4～7週目の反省を踏まえ、照明への造詣をより深める為に白黒の映像作品を製作する。～準備						
	9	4～7週目に製作した作品の仕上げ作業への参加 復習授業 白黒映像作品の準備						
	10	4～7週目に製作した作品の検証と仕上げ作業への参加、カラコレの実践的講義 復習授業 白黒映像作品の準備						
	11	4～7週目に製作した作品のカラコレと仕上げ作業への参加 復習授業 白黒映像作品の準備						
	12	4～7週目に製作した作品のカラコレと仕上げ作業への参加 復習授業 白黒映像作品の準備						
	13	4～7週目に製作した作品の仕上げ作業への参加 復習授業 白黒映像作品の撮影						
	14	4～7週目に製作した作品の仕上げ作業への参加 復習授業 白黒映像作品の編集と完成試写、講評						
	15	合評会（合同制作・他）						
授業外学習	*関わるシナリオと同系統の小説の解説 *映画作品鑑賞・演劇鑑賞 *様々な光線下でフィルム写真撮影・プリントして検証する							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映画の文法」ダニエル・アリホン著 / 紀伊国屋書店 「映画の文法/日本映画のショット分析」今泉容子著 / 彩流社 「カメラ アシスタント マニュアル」翻訳 西田和憲 / 日本映画撮影監督協会 「撮影・VFX/CG アナログ基礎講座」古賀信明著 / スペシャルエフエックススタジオ							
評価方法	映画制作の積極的参加、技術への関心と探究心、作品に関わる各パート・スタッフの役割についての理解、共同作業でのコミュニケーション能力、などから総合的に評価する							

科 目 名						担 当 者 名		
合同制作A 〈ドラマ〉(録音コース)						弦巻 裕、若林 大介 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	—							
授業概要	各専門コースに分かれて学んできた学生が、一本の台本の元集まり各部の主張の中で一つの作品を作り上げることにより、コミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。撮影は16mmフィルムで行い、仕上げではノンリニア編集を行いDCP(デジタルシネマパッケージ)で作品を仕上げる。「技術合同専門演習」と合わせ、フィルム媒体での完成作品とDCPの完成作品を作ることにより、卒業制作における作品媒体の選択肢を広げる。							
到達目標	プレイバック撮影の仕組みを理解し、プレイバック撮影が出来るようにする。 ノンリニア編集・デジタル仕上げるのワークフローを理解し、デジタル化された映像・音声・編集データの取り扱いをできるようにする。 サラウンドの基礎を理解し、作品に応用する。 学生の力主体で1本の作品を完成させる。 録音部として映画作りに関わり、各パートと協同して自分たちの作品を完成させる。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	映画音楽 映画にとっての音楽の役割。 具体的な作品を対象にして、音楽がどのような役割を果たしているかを考える。						
	2	イマジカ講習 現在の映画制作ワークフロー プレイバック撮影1 プレイバック撮影とは？音楽プレイバックと音楽以外のプレイバック撮影。プレイバックの様々な方法。 PA機材とそのセッティング						
	3	プレイバック撮影2 音楽のプレスコ・プレイバックの編集 編集ソフト(Final Cut Pro)の使い方。曲に合わせ編集する。 編集済みのデータをプロツールズにインポートし、整音を行う。						
	4	制作準備 スタッフ編成および演出部に合流、準備スケジュールの作成、キャスティング、ロケハン(ロケーションハンティング)、衣装合わせ、美術・小道具、メインロケハン、リハーサル、撮影スケジュールの決定						
	5	制作準備 合同実習に向け、機材のセッティングの確認および未学習の機材を学ぶ。 マイクオペレーションの基礎の確認						
	6	現場:撮影&ラッシュ						
	7	現場:撮影&ラッシュ						
	8	仕上げ:編集期間 ラッシュ、音素材送り、編集ラッシュ、整音作業、アフレコ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ サラウンドのセッティング及び音作り						
	9	仕上げ:編集期間 ラッシュ、音素材送り、編集ラッシュ、整音作業、アフレコ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ サラウンドのセッティング及び音作り						
	10	仕上げ:編集のFIX オールラッシュ、整音作業、アフレコ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ、効果アフレコ、音の仕込み						
	11	仕上げ:音作業 アフレコ、音の素材集め、音設計・ダビング打合せ、音楽打ち合わせ、効果アフレコ、音の仕込み						
	12	仕上げ:音作業 アフレコ、音の素材集め、音楽打ち合わせ、効果アフレコ、音の仕込み						
	13	仕上げ:音作業 アフレコ、音の素材集め、音楽打ち合わせ、効果アフレコ、音の仕込み、ダビング仕込み						
	14	仕上げ:ダビング アフレコ、音の素材集め、音楽打ち合わせ、効果アフレコ、音の仕込み、ダビング仕込み						
	15	デジタル出力・試写 作品発表会・合評						
授業外学習	自分の好きな作品をえらんで音楽分析を行う。音楽の曲数、バリエーションの数を調べ、また音楽がそのシーンでどのような意味や目的を持って使われているかを考える。 前期実習で使う録音機 Roland R4のマニュアルを読み、録音機の機能と使用法を理解すると共にマニュアルを読む力を身につける。 プロツールズのマニュアルを読む。完全に理解する必要は無く、どの部分にどのような内容が書かれているかを大雑把に把握する。							
教科書	—							
主要参考書	書籍 サウンドとオーディオ技術の基礎知識 (リットーミュージック 1600円+税)							
評価方法	1～3週目の音楽およびプレイバックの実習、4週～5週目の準備期間、6週～7週の撮影期間、8週～15週までの仕上げ期間。以上3つの段階毎に映画制作への積極的な参加の姿勢、作品と各パートの役割の理解力、授業内容の理解度、技術への関心、共同作業でのコミュニケーション能力などから総合的に評価する。 各評価項目の最終成績に占める割合は、1～3週目 20%、4週～5週 20%、6週～7週 30%、8週～15週 30%							

科 目 名						担 当 者 名		
合同制作A 〈ドラマ〉(編集コース)						阿部 互英 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	—							
授業概要	各専門コースに分かれて学んできた3年生(演出/撮影・照明/録音/編集コース)による合同実習。脚本をもとに各班に別れて、スーパー16mmフィルムで撮影し、仕上げではノンリニア編集を行いDCP上映に向けて作品を仕上げる。							
到達目標	(各専門コースが合同演習にすることによって)コミュニケーション能力と、編集思考・技術を習得することを目指す。スーパー16mmフィルムで撮影し、ノンリニア編集を行いDCP上映に向けて作品を仕上げる。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	基礎授業 01) デジタル基礎:2年の復習も兼ね、デジタルの基礎を学び直す。 ビデオ基礎とムービーの基礎 02) 編集と音楽との関係性について(実習制作前に録音コースと合同で映画音楽家の講義を受ける)						
	2	基礎授業: ノンリニア編集基礎 03) 演出・撮影・録音・編集コース合同でグレーディング作業の概要を学ぶ 04) ノンリニア編集の作業工程の講義						
	3	基礎授業: ノンリニア編集基礎 05) 編集素材の取り込みと、素材の管理方法 06) 合同実習で使うノンリニア編集機(AVID)の操作法の習得						
	4	基礎授業: ノンリニア編集基礎 07) エフェクトの種類とその使用法、およびその効果の習得 08) タイトルの作成とその重要性						
	5	基礎授業: ノンリニア編集基礎 09) データ管理の習得。 10) カットリストやEDLリスト、オペチカルリストの作成						
	6	基礎授業 11) ノンリニア編集基礎香盤表の作成と素材管理の表などを作成。撮影済み素材の確認。 12) 撮影済み映像および録音済み音声をデジタル編集機に随時取り込み、 データを整理し編集準備をする。 13) 編集開始						
	7	14) 音付け及び編集作業～オールラッシュへ 編集が固まるまで編集ラッシュという試写を繰り返し、精査する。 オールラッシュ 音楽および音響効果打ち合わせ、後最終直し。 15) 音声・映像データの吐き出し						
	8							
	9							
	10							
	11	16) 撮影照明・編集コース合同でグレーディングの実際を学ぶ カット表の作成(助監督あるいはスタッフとデータを見て作成する) 17) 仕上げ準備(コンフォーム)						
	12	18) グレーディング						
	13	19) 仕上げ準備						
	14	20)ダビング 21)作品のオーサリング						
	15	作品発表会・合評						
授業外学習	デジタル編集習得のため、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかさねること。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	試験は行わない。映画制作への積極的な参加の姿勢、作品と各パートの役割の理解力、授業内容の理解度、技術への関心、共同作業でのコミュニケーション能力などから総合的に評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
合同制作B 〈ドキュメンタリー〉						安岡 卓治 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	ここでは、インタビュー・ワークを作品制作を通して習得することを目的としている。 インタビューは、単なるQ&Aではない。話し手が積極的に語る状況を作り出すことがスタッフに求められる。時としてそれは何らかの信頼関係を築くことであり、場合によっては真剣勝負のような緊迫した駆け引きを求められることもある。地方合宿で未知の場所、未知の人々を取材対象とすることによって、実践的にインタビュー撮影を学習する。 さらに、その映像を編集仕上げることで、自らの課題を洗い出し、合評を通して、何が伝わり、何が伝わらなかったかを厳しく問い返す。							
到達目標	■ドキュメンタリー撮影のワークフローの習得 ■インタビューワークの習得 ■取材・構成・編集ワークの体得							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	【合宿プレゼンテーション】取材先地域の基礎情報の提示。取材対象候補者についての概説、参考作品の試写 ■技術ワークショップ						
	2	【予備調査】取材先地域の歴史や風俗等、取材対象者の職業等に文献等を收拾し、企画の仮説を立案 ■技術ワークショップ						
	3	【企画案作成】 予備調査によって立案した仮説に基づき、企画案を作成する						
	4	【合宿撮影】 ①取材対象者との打合せ(予備取材日程、撮影日程などの策定) ②インタビュー撮影演習 ③予備取材(構成要素の検証と新たな企画立案の基盤をつくる)						
	5	【合宿撮影】 ④インタビュー撮影①(ロケ後に撮影内容の検証、文字起し、インタビュープランの再構築) ⑤インタビュー撮影②(前項で確認した課題に基づき、再度インタビュー撮影を行う) ⑥実景・生活・ワーキングシーンの撮影						
	6	【編集Ⅰ】 ①撮影内容の解析①:全カット表作成。インタビュー文字起し ②撮影内容の解析②:主要な構成要素を検証 ③OK出し:主要な構成要素を支えるカット、手応えのあるカットなどを抽出 ④構成案の策定:OKカットを有効に生かす構成を模索する						
	7	【編集Ⅱ】 ①構成案の検証:「仮構成案」をもとに主要なカットを実際に確認しながら検証する						
	8	【編集Ⅱ】 ②編集演習①:ノンリニア編集システムの基本操作の復習 ③編集演習②:ドキュメンタリー編集におけるノンリニアシステムの使用法 ④編集演習③:ノンリニアシステムにおける音声編集操作とテロップ作成操作						
	9	【編集Ⅱ】 ⑤第一次編集①:「仮構成案」に基づくラフ編集 ⑥第一次編集②:「仮構成案」からの軌道修正						
	10	【第一次編集講評】 指導教員とともに他班と合同で試写。問題点、課題、展望を洗い出す。						
	11	【編集Ⅲ】 ①構成の検証:第一次編集講評で洗い出された構成の問題点について検証する ②再構成:シーンの移動や変更、OK外のカットの洗い出しなど抜本的な再構成を模索する						
	12	【編集Ⅲ】 ③再編集①:再構成に基づきシーンの入れ替えや削除、新たなシーンの構築などを行う ④再編集②:文字情報など原稿を作成し、シーンの長さなどを調整する ⑤仮MA:音声の調整を編集機ベースで行い全体の音声バランスの適正を図る						
	13	【第二次編集講評】						
	14	【編集Ⅳ】 ①構成の検証:第二次編集講評で洗い出された問題点を検証する ②ディティールの追求:細部の点検と補正 ③本MA:デジタル音響システムによる音の最終仕上げ						
	15	【合評会】 レポート作成						
授業外学習	■文献・ネットによる予備取材 ■企画案策定 ■構成案・編集プランの策定							
教科書	—							
主要参考書	「ドキュメンタリー・ストーリーテリング『クリエイティブ・ノンフィクション』の作り方」フィルムアート社、「ドキュメンタリーとは何か」土本典昭・記録映画作家の仕事」、「映画は生きものの仕事である—私論・ドキュメンタリー映画」未来社、「映画の瞬き—映像編集という仕事」フィルムアート社、「映画もまた編集である——ウォルター・マーチとの対話」みすず書房							
評価方法	実習への参加と取り組み、制作された作品を通した習熟度、課題レポートへの取り組み							

科 目 名						担 当 者 名		
映画・映像文化専門演習A						大澤 信亮、伊津野 知多		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	白山・外部
履修条件	—							
授業概要	映画・映像文化コースに進んだ学生が、4年次の卒業論文の執筆までに必要な知識と技術、思考力を段階的に身につけることを目的とした科目である。授業内容ごとに3つのユニットに分け、2人の教員が担当する。「雑誌制作WS」(演習形式)では、雑誌の企画・編集・コンテンツの作成を行う。「映画祭合宿」(演習形式)では、地方の映画祭に参加して映画祭の運営やプログラミングのあり方について理解を深める。「文献購読」(演習形式)では、知識の幅を広げるとともに、文献を読み解く技術を修得する。受講者には、主体的に授業に参加し、ユニットごとに課される課題を確実にこなしていくことが求められる。この授業を不合格になると4年次に進級できなくなるので注意すること。							
到達目標	①卒業論文の執筆に必要な書く力と読む力、論理的な思考力を身につける。 ②雑誌制作の実践を通して、これまで学んできたことを応用できるようになる。							
授業計画	内 容							
	【雑誌制作WS】 担当教員:大澤信亮／講義型:A2(2コマ×15週) 全15週の授業を通して、今年度の「映画大学だ!」を制作する。規定のコンテンツとしては、長編シナリオ該当作、卒業制作脚本、オープンキャンパスで行われる対談、教員アンケートなどがあるが、それらに加えて新たな企画の提出を義務づける。授業の性質上、授業日は変動する可能性が高い。その日程も含めて初回では話すので、必ず出席すること。 ・スケジュール、学生企画、台割りの決定(4月中) ・対談の収録・起こし・まとめ、学生企画の進行と完成(5～7月) ・長編シナリオ、卒業制作脚本、両者関連原稿(7月下旬) ・教員アンケート(6月中予定) ・デザイナー・印刷所との対応、ゲラの最終校正、印刷(8月中予定)							
	【映画祭合宿】 担当教員:伊津野知多／講義型:F(その他) 福島県須賀川市で開催される「第29回すかがわ国際短編映画祭」に参加する2泊3日の合宿。後期の「上映企画WS」に向けて、地域に根付いた映画祭のあり方や、短編映画のマーケットなどについて考察を深めることを目的とする。合宿への参加のほか、プレ授業、アフター授業を行う。スケジュール等の詳細は後日連絡する。 ・5/9(火)3-4限: プレ授業。映画祭についての調査。 ・映画祭合宿: 5/12(金)夜移動、5/13(土)～5/14(日)映画祭参加、5/14(日)夜に帰宅。 ・5/23(火)3-4限: アフター授業。各自執筆したレポートの発表と提出。							
	【文献購読】 担当教員:伊津野知多／講義型:C4(2コマ×8週) 映画・映像、メディア関連の文献を読む訓練を通して、卒業論文に向けて自らのテーマと方法論を発見する力を身につけることを目的とする。授業では6本(予定)の課題テキストを精読する。各テキストごとに2名ずつ個別発表、その後全員でのディスカッションと補足講義を行う。発表担当者以外も全員が課題テキストを事前に読み込んでおくことが必須である。発表では、論旨の要約、関連資料の調査、テキストについての発表者の意見を明確に述べることが求められる。 ・6/6・6/13(1-4回): 準備学習。授業時に配布するテキストを全員で読み込み、ディスカッションと補足講義を行う。 ・6/20～7/25(5～16回): 1コマ目は個別発表、2コマ目はディスカッションと補足講義。							
授業外学習	「文献購読」では、発表担当回以外の全テキストを全員が読み込んで授業に臨むこと。また、授業で紹介されたものを中心に、批評や評論、学術的な文献を多読する習慣をつけてほしい。映像作品についても、授業外の時間に多く見ておくこと。読書や映画鑑賞でインプットしたものを、自分の中で消化し、読書メモや鑑賞メモのような形でアウトプットする訓練をしておくことを勧める。							
教科書	使用しない。必要な資料はプリント配布する。							
主要参考書	各授業内で紹介する。							
評価方法	ユニットごとの成績をあわせて総合評価する。ユニットごとの評価方法は以下の通り。 【雑誌制作WS】 出席50%+貢献度50%(企画、編集、執筆、司会、テーブル起こしなど) 【映画祭合宿】 プレ授業、アフター授業及び映画祭への参加態度(70%)+映画祭報告レポートの評価点(30%) 【文献購読】 出席とディスカッションへの参加態度(30%)+発表(40%)+期末レポートの評価点(30%)							

科 目 名						担 当 者 名		
脚本専門演習Ⅱ 〈脚色〉						荒井 晴彦 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	原作(小説など)を元に長編シナリオを執筆する。小説とシナリオは同じ物語でもいかに違うかを知り、映画表現とは何かを学ぶ。自分の外に物語を置く事によって、知らない世界を調査等によって知り、他者(世界)を認識させる。コンストラクション(構成)ダイアログ(台詞)ト書き等、さらに専門的技術を習得させると同時に長編を書く持続力と体力をやしなう。							
到達目標	脚色を書き上げることによって、シナリオの構造、ト書き等の技術を習得する。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	書いて来た箱書きを元に各自、その原作を選んだ理由を発表させ、原作のテーマを見つけさせる。(場合によっては、原作の変更も示唆する)						
	2	原作をそのまま脚本形式に起こさせ(ベタ起こし)、小説とシナリオの表現の違いを認識させる。						
	3	既成の原作物の映画を原作～脚本～完成した映画の順でたどって、解析する。①長編小説の場合。						
	4	既成の原作物の映画を原作～脚本～完成した映画の順でたどって、解析する。②短編小説の場合。						
	5	ベタ起こしを元に箱書きを書き、映画としての構成を考える。						
	6	それぞれが、どういう映画にするかを考えて、プロットにする。						
	7	プロットを元に調べなければならないことや、取材すべきことを指導する。						
	8	本や、取材で得たことを元にさらにプロットを練る。						
	9	プロットを元に箱書きを作る。						
	10	脚本執筆に入る。						
	11	既存の原作物の映画を観て、脚本～原作と逆にたどって、解析する。						
	12	書き上げた初稿を箱書きに戻し、検証する。						
	13	検証を元に脚本を直す。						
	14	マンツーマンで脚本の直しを指導する。						
	15	合評。						
授業外学習	プロット及びシナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	指導教員がその都度指示をします。							
評価方法	出席及び執筆物の成果。							

科 目 名						担 当 者 名		
脚本演出専門演習Ⅱ 〈3分エチュード〉						細野 辰興 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	2年前期の「撮影照明専門基礎演習」、「録音専門基礎演習」、「編集専門基礎演習」のうちのいずれか1科目を履修していることが望ましい。その上で、ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モンタージュ論、コンテニューティ(撮影計画)を一通り理解していること。ガイダンスに出席し、授業の狙いを理解した上で、ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モンタージュ論、コンテニューティを考慮した3分間ほどのワンシーン演習用シナリオ(200字詰め原稿用紙8枚以内見当)を執筆、提出すること。(主要登場人物は2人以上3以内とすること。)							
授業概要	全ての学生が、一人1本、3分間の作品を企画開発・脚本執筆・監督することにより、2年後期から行ってきた専門演習、合同制作の成果として、映画演出の概念(脚本創作・脚本の解釈[テーマの掴み・関係性の確保]・ドラマの本質・主人公の在り方・テーマ性の強調・芝居の付け方・間接表現・説明描写の排除、等々)と、映画リテラシー(映画を批評・分析し、且つ創作出来る能力)を体得する。また、一人一人が10本の作品を準備、撮影、ポストプロダクションまで色々な役割でスタッフワークすることにより、映画制作のノウハウを復習し、卒業制作に備える。							
到達目標	映画演出の概念(脚本創作・脚本の解釈[テーマの掴み・関係性の確保]・ドラマの本質・主人公の在り方・テーマ性の強調・芝居の付け方・間接表現・説明描写の排除、等々)と、映画リテラシー(映画を批評・分析し、且つ創作出来る能力)を体得する。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	脚本推敲並びに完成						
	2	準備1:スタッフ編成、キャスティング、ロケハンなど 技術特講:デジタル撮影基礎のワークショップ						
	3	準備2:衣裳、小道具打ち合わせ。撮影スケジュール作成 本読み立ち稽古						
	4	準備3: 美術打ち合わせ、撮影計画打ち合わせ、オールスタッフ打ち合わせ						
	5	「撮影A」「撮影B」①:テスト、撮影計画(コンティニューイティ)の微調整、及び撮影						
	6	中間ラッシュ試写1(撮影済みテープ試写)						
	7	「撮影A」「撮影B」②:テスト、撮影計画(コンティニューイティ)の微調整、及び撮影						
	8	中間ラッシュ試写1(撮影済みテープ試写)						
	9	仕上げ(ポスト・プロダクション)の開始 編集及び編集ラッシュ ①編集点を推敲した順繋ぎ						
	10	②セミ・オールラッシュ(ほぼ完成の順繋ぎ)アフレコ、効果アフレコ						
	11	オールラッシュ(完成した順繋ぎ)						
	12	ダビング(MA)						
	13	合評会(作品上映と講評)とレポート提出						
	14	作品解析						
	15	作品解析						
授業外学習	3年次に行なった実習の全行程、授業内容を反芻しておくこと。過去の3分間エチュード実習の作品を観て、撮影シミュレーションなどを立ててみる。3年次までに自分が拘った実習の脚本を分析し、実際に出来上がった映画とを比較し、脚本を立体化すると云うことを反芻しておく。							
教科書	教員が作成したオリジナル。							
主要参考書	『シナリオの基礎技術』(新井一著)、『映画のスタッフワーク』(兼山錦二著)、『ええじゃないかエッセイ』(今村昌平著)、『複眼の映像』(橋本忍著)、『映画脚本家・笠原和夫 昭和の劇』(笠原和夫、荒井晴彦著)、『映像の演出』(吉村公三郎著) ほか多数							
評価方法	演習における姿勢、熱意を重視。亦、レポートを提出させ担当講師が総合的に判断する。							

科 目 名						担 当 者 名		
撮影照明専門演習						さの てつろう、川上 皓市 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	3年前期「合同制作A」の成績が (F) 以外であること							
授業概要	フィルムからデジタルに移行した映画(デジタルシネマ)技術の特性を解説し実際にデジタル機材を使用してCM、短編映画を制作する							
到達目標	*現在主流のデジタルシネマ撮影技術を理解し作品に反映できる *卒業制作に向けて演出との関わりを深く理解し撮影現場の運営がスムーズにできる							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	デジタルシネマ基礎知識① 用語、機材、フィルム・デジタルのガンマ特性、撮影現場の運用等を解説し、どの様に映像制作に反映させるかを検証する						
	2	デジタルシネマ基礎知識② 実際に触れて機材の特徴などを解説						
	3	CM制作 ～企画・準備 与えられたテーマに基づいて企画を考え、ロケハン等の準備を始める						
	4	CM制作 ～準備・撮影						
	5	CM制作 ～撮影						
	6	CM制作 ～撮影・編集						
	7	短編映画の制作 ～準備①						
	8	短編映画の制作 ～準備②						
	9	短編映画の制作 ～撮影①						
	10	短編映画の制作 ～撮影②						
	11	短編映画の制作 ～仕上げ作業への参加						
	12	短編映画の制作 ～仕上げ作業への参加						
	13	短編映画の制作 ～仕上げ作業への参加						
	14	短編映画の制作 ～仕上げ作業への参加						
	15	短編映画の制作 ～仕上げ作業への参加						
授業外学習	*デジタル一眼レフや動画撮影のできるデジタルカメラを使って様々な光線下で撮影・検証してみる *メーカー・機材会社などの各ワークショップへの参加 *ドキュメンタリー映画・劇映画の鑑賞分析							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映像撮影ワークショップ」 板谷秀彰・著/玄光社 MC 「新版 映像ライティング」 桜井雅章・著/玄光社 MC 「デジタルムービー実践ガイドブック」 玄光社 「デジタルシネマカメラ完全攻略」 玄光社							
評価方法	授業・映像制作への積極的参加、技術への関心と習得度、探究心の度合いなどから総合的に評価する							

科 目 名						担 当 者 名		
録音専門演習						弦巻 裕、若林 大介 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	「合同制作A」において、それぞれの役割を体験し、課題を整理しておくこと。							
授業概要	録音をまなぶ学生の為の専門演習の上位レベルの授業である。「合同制作A」での課題を検証し、さらに高度な技術課題について演習する。また、演出、撮影照明、録音、編集が合同で行う「卒業制作」の実施に備える。教員が担当した映画作品について録音データを参考にしながら、その創作上の注意や創作のありかた、撮影や編集との連携のあり方などを学ぶ。							
到達目標	ワイヤレスマイクの原理と特性を理解する。 マルチトラック録音の原理を理解した上で、マルチトラック録音機を使えるようにする。 効果音ライブラリーを積極的に使えるようにする。 セット撮影での録音を行う。 ワイヤレスマイクを含む3～4本程度のマイクロフォンを使ったマルチトラック録音を行い、作品を完成させる。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	ワイヤレスマイクの使い方 ワイヤレスマイクとは？電波とは？電波法に基づく使用上の注意点。ピンマイクの仕込み方。 ワイヤレスマイクを使った録音実習 ガンマイクとワイヤレスマイクのMIXバランスの取り方						
	2	ENGスタイルの録音 数班に分かれ、カメラ、レポーター、録音のクルーを組み取材を行う。ワイヤレスマイクも使ってみる。 収録した素材をダビングルームで試写し、検証を行う。						
	3	マルチトラック録音とマルチトラックレコーダー トラックを分けて録音するメリットと注意点。プリフェーダーとポストフェーダーの違い。 マルチトラック録音を行った場合の整音方法。						
	4	音楽編集特講 実際の音楽編集、音楽製作を行っているミキサーを招き講義をおこなう。 MIDIの解説やMIDIを使つての効果音の作成を学ぶ。						
	5	効果音特講 現役の効果音ミキサーを招き、現在の映画制作における一般的な効果音制作方法について解説してもらう。 どのような道具、どのような環境で行っているか？実際の音付け作業や、フォーリーの実際を実演してもらう。						
	6	効果音特講 アニメーションに合わせ、実際の音付け作業やフォーリーを実際行う。 収録から整音、ダビングまでをおこなう。						
	7	3科合同演習 制作準備 撮影、編集と合同で監督を招き、録音部として映画に携わる。ミキサー・ワイヤレスマイク等、制作準備を行う。						
	8	3科合同演習 制作準備 現場撮影 撮影、編集と合同で監督を招き、録音部として映画に携わる。ミキサー・ワイヤレスマイク等、制作準備を行う。 ロケーション、ナイター、セット撮影、ロケセットなど様々な環境で撮影を行う。						
	9	3科合同演習 現場撮影 ロケーション、ナイター、セット撮影、ロケセットなど様々な環境で撮影を行う。 様々な状況に応じた機材使用などを行う。						
	10	3科合同演習 編集期間 ラッシュ、音素材送り、編集ラッシュ、整音作業、アフレコ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ						
	11	3科合同演習 編集のFIX オールラッシュ、整音作業、アフレコ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ、効果アフレコ、音の仕込み						
	12	3科合同演習 音作業 アフレコ、音の素材集め、音設計・ダビング打合せ、音楽打ち合わせ、効果アフレコ、音の仕込み						
	13	3科合同演習 音作業 アフレコ、音の素材集め、音楽打ち合わせ、効果アフレコ、音の仕込み、ダビング仕込み						
	14	3科合同演習 ダビング アフレコ、音の素材集め、音楽打ち合わせ、効果アフレコ、音の仕込み、ダビング仕込み						
	15	デジタル出力・試写 作品発表会・合評						
授業外学習	JPPA『映像音響処理技術者資格認定試験問題集』を使い、自身の音響技術の理解度を確認する。 後期実習で用いるRoland R88とSONY WRR-861,WRT-822のマニュアルを熟読し、卒業制作まで使用することになる機材の使い方を身につけると共にマニュアルを読む力を身につける							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	1週～6週までは適宜ミニテストを行う。また6週目のアニメの音付けについては作品の完成度を評価する。 7週～15週の三科合同演習では、準備、撮影、仕上げの各段階における、作品と演出意図の理解力、技術の習熟度、映画制作への積極的な参加の姿勢と共同作業でのコミュニケーション能力などから総合的に評価する。 各評価項目の最終成績に占める割合は、ミニテスト 10%、アニメ音付け 20%、準備および撮影 35%、仕上げ 35%							

科 目 名						担 当 者 名		
編集専門演習						阿部 互英 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	新百合ヶ丘
履修条件	「合同制作A」において、それぞれの役割を体験し、課題を整理しておくこと。							
授業概要	編集を学ぶ学生の為の専門演習の上位レベルの授業である。「合同制作A」での課題を検証し、さらに高度な技術課題について演習する。							
到達目標	演出、撮影照明、録音、編集各コースが合同で行う「卒業制作」の実施に備える。編集を学ぶ上で短編作を作ったり他のパートとの関連性の深さを知る事で、創作のありかたや編集の重要性を学ぶ。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	01)ノンリニア実習の復習・確認 3年前期でのAVID編集を振り返り、反省点・作業工程を確認する 02)映像加工・タイトル作成を学ぶ(Photoshop/After Effects使用) 03)予告編ディレクター/タイトル・デザイナーの予告編制作事前講義						
	2							
	3							
	4	04)さまざまな予告編の参考試写 05)予告編作成の講義と構成 06)予告編の作成(過去の実習作品を素材に予告編を作成することにより限られた素材の中から選び出す能力・構成する能力を引き出す)						
	5							
	6	07)作成した予告編の発表会(作成した予告作品の校内発表会・批評・総括) 08)プレスコアリング撮影素材を編集する						
	7	【編集・撮影・録音/合同演習】 編集素材を用い、スキルアップを図る。 09)準備						
	8							
	9	10)技術三科合同による制作実習:各コースの課題を取り入れて撮影・録音・編集を行う。						
	10							
	11	11)技術三科合同による制作実習:編集～オール・ラッシュまで 12)音仕込み作業 録音・整音作業にあたり編集データの整理・はきだし(EDL／カット表作り)						
	12							
	13							
	14	【編集・撮影・録音/合同演習】撮影 13)グレーディング 録音14)音仕込み作業 編集15)CG・VFXとの関わり合い講義 16)ドキュメンタリー/ドラマ／アニメーション編集講義 (プロの編集者による作品とその編集技についての講義・・・都合により講師・ジャンルの変更有り)など						
	15	【編集・撮影・録音/合同演習】 17)ダビング作業 18)上映会/合評						
授業外学習	納得できる卒業制作に向けて、及び多様なデジタル編集に対応できるよう、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかさねること。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	各段階で技能試験を課し、修了を認められなかった場合は補講と追試を課す。							

科 目 名						担 当 者 名		
ドキュメンタリー専門演習Ⅱ						安岡 卓治 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	ドキュメンタリーのみならず、企画は、作品の概要を伝えるものとして映画制作を準備する上で大きな役割を担っている。台湾の映画監督ホウ・シャオシェンは、「映画は映画以外のものによって作られる」という。この授業では、様々な企画の在り方を講義し、学生自身が立案した企画書を検証しながら、その独自性、先見性、実現性などを探ってゆく。企画書に表れた様々な取材対象者や出来事へのアプローチ方法、主題の広がりについて論議を深めながら、作品の可能性を追求する。それぞれの企画のディティールから逆照射される作り手自身の在り処を見出すことも大きなねらいである。卒業制作を前提として、ドキュメンタリー制作の過程とスタッフの在り方や役割、主題と手法の在り方を知る。							
到達目標	■卒業制作作品の企画立案							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	■企画ワークショップ「企画案のプレゼンテーションと検証①」						
	2	■企画ワークショップ「企画案のプレゼンテーションと検証②」 ■作品研究／ゲスト講師講義						
	3	■講義「ドキュメンタリーの多様性」①個人に内在する主題とデジタルの新たな手法 ②社会を見つめる視点 ③現実から描き出されるもの ④心象描写 ■作品研究／ゲスト講師講義						
	4	■講義「企画論」①主題と構成要素 ②登場人物とアクション ③作品のフォルム ④作品規模と制作規模 ■作品研究／研究発表						
	5	■企画ワークショップ ①各企画の進行報告と合評②意図をつむぐ ■作品研究／研究発表						
	6	■企画ワークショップ ①各企画の進行報告と合評②実証的情報収集 現実を凝視せよ、すべてを疑え ■作品研究／研究発表						
	7	■企画ワークショップ ①各企画の進行報告と合評②登場人物の検証 ■作品研究／研究発表						
	8	■技術ワークショップ ①基礎技術の復習 ②各作品企画に合わせた撮影編集課題への取り組み						
	9	■4年卒業制作合評会						
	10	■企画ワークショップ 企画の検証 ■作品研究／研究発表						
	11	■企画ワークショップ 企画の検証 ■作品研究／研究発表						
	12	■企画ワークショップ 卒制企画班編成						
	13	■企画ワークショップ 卒制企画班班別指導						
	14	■企画ワークショップ 卒制企画班班別指導						
	15	■企画ワークショップ 卒制企画班班別指導						
授業外学習	■取材・調査・企画練成 ■作品づくりを前提にした技術研修							
教科書	—							
主要参考書	「ドキュメンタリー・ストーリーテリング『クリエイティブ・ノンフィクション』の作り方」フィルムアート社、「ドキュメンタリーとは何か―土本典昭・記録映画作家の仕事」、「映画は生きものの仕事である―私論・ドキュメンタリー映画」未来社、「映画の瞬き―映像編集という仕事」フィルムアート社、「映画もまた編集である——ウォルター・マーチとの対話」みすず書房							
評価方法	取材調査レポート課題企画書への取り組み、編成班での担当領域への取り組み							

科 目 名						担 当 者 名		
映画・映像文化専門演習B						石坂 健治、田辺 秋守、伊津野 知多		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択必修	演習	6	3	後期	F(その他)	白山・外部
履修条件	—							
授業概要	映画・映像文化コースに進んだ学生が、4年次の卒業論文の執筆までに必要な知識と技術、思考力を段階的に身につけることを目的とした科目である。授業内容ごとに3つのユニットに分け、3人の教員が担当する。「上映企画WS」(演習形式)では、学外で行う映画祭の企画から実施までを行い、実践的な力を養う。「作品批評研究」(講義形式)では、「上映企画WS」と連動して、映画作品を見る力を高め、映画批評を書く技術を修得する。「卒論準備演習」(演習形式)では、4年次の卒業論文のテーマを絞り込み、研究計画を立てるまでの準備を行う。 受講者には、主体的に授業に参加し、ユニットごとに課される課題を確実にこなしていくことが求められる。この授業を不合格になると4年次に進級できなくなるので注意すること。							
到達目標	①卒業論文の執筆に必要な書く力と読む力、論理的な思考力、プレゼンテーションの技術を身につける。 ②上映企画の実践を通して、これまで学んできたことを応用できるようになる。							
授 業 計 画	内 容							
	【上映企画WS】担当教員:石坂健治／講義型:A2(2コマ×15週) ・創作コースが映画を制作するのに対し、映画・映像文化コースは「映画祭を制作する」。それがこの授業である。 ・授業の順序としては、①映画上映の意義と作法を学び、②受講生それぞれが特集上映会の企画書を作成、③コンペにより最優秀企画書を選出、④上映交渉、ゲスト交渉、チラシ・HP作り、観客動員などを全員で手分けしておこない、⑤フィナーレとして企画を実際に映画館で開催する。 ・一昨年度は「ペランダから見る世界 映画の中の団地」、昨年度は「めをと映画祭 愛と翳りの風景」を川崎市アートセンターで開催し、学内外の観客から好評を博した。受講生の諸君には更なる飛躍を期待したい。							
	【作品批評研究】担当教員:田辺秋守／講義型:C4(2コマ×8週) 作品の分析、解釈、批評は緊密に関係しあっている。この授業では、作品を分析し、解釈した上で、いかに自分なりの映画批評を書くかを学ぶ。まずは先行する「批評」に関する歴史を振り返り、どのようなタイプの批評があるのかを理解する。その後、実際に批評を「書く」という訓練をしていく。書いた作品批評を学生がお互いに合評しあうこともしたい。 1 批評とは何か:映画批評小史 2 映画を解釈すること 3 映画を評価すること 4 映画批評を書く1 5 作品上映:その批評の実践的な分析1 6 映画批評を書く2 7 作品上映:その批評の実践的な分析2 8 映画批評を書く3							
	【卒論準備演習】担当教員:伊津野知多／講義型:F(その他) 卒業論文に向けて自らのテーマと方法論を発見すること、それを発表や研究計画書という形で具体化し、他者に説得的に示す上で必要な技術を修得することを目的とする。具体的な内容は以下の通り。詳細なスケジュール等は後日連絡する。 ・9/27(水): 3年研究発表会(卒論のためのプレ発表)① ・10/4(水)3-4限: 発表会後の事後授業。各自の発表の問題を洗い出し、今後の課題を設定する。 ・11/1(水)3-4限: WordスキルアップWS。 ・11/8(水)3-5限: パワーポイントWS。 ・12/18(月): 3年研究発表会(卒論のためのプレ発表)② ・2月下旬: 「卒業論文研究計画書(仮)」提出。							
授業外学習	「上映企画WS」では東京国際映画祭などに参加することがある。これ以外にも意識的に多くの映画作品を見ておくこと。また、卒業論文に備え、テーマの絞り込み、必要な文献の調査を各自で行っておくこと。批評や評論、学術的な文献を多読する習慣をつけてほしい。							
教科書	使用しない。							
主要参考書	各授業内で紹介する。							
評価方法	ユニットごとの成績をあわせて総合評価する。ユニットごとの評価方法は以下の通り。 【上映企画WS】 企画書80%、平常点(出席、イベントでの働きぶり、など)20% 【作品批評研究】 出席50%、提出物50%、授業での発言20% 【卒論準備演習】 各回授業への出席(50%) + 2回の研究発表の内容(50%)。 「卒業論文研究計画書(仮)」の提出は必須だが、成績評価の対象にはしない。							

科 目 名						担 当 者 名		
卒業制作 〈ドラマ〉						緒方 明、熊澤 誓人、さの てつろう、川上 皓市 弦巻 裕、若林 大介、阿部 互英、安岡 卓治 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合ヶ丘・白山
履修条件	脚本演出コースの学生は卒制候補脚本を期限までに提出すること							
授業概要	【前期】 創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフティング、キャスティング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。 【後期】 映画は、観客と出会う初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどけるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。							
到達目標	・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作する。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。							
授業計画	内 容							
	(1) 3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考 (2) 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票 (3) 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始 (4) 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャスティングなど (5) 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出、セットプラン(セット使用の場合)提出 (6) 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認 (7) 7月1日…撮影クランクIN(危険撮影は講師立ち合い)、ラッシュチェック (8) 7月末日…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ (9) 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ (10) 9月中旬…オールラッシュ、整音開始 (11) 9月下旬…グレーディング、ダビング(MA) (12) 10月上旬…0号試写、完成 (13) 11月下旬…合評会 (14) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成 (15) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ (16) 1月下旬…劇場公開準備 (17) 卒制作品劇場公開							
授業外学習	■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか							
教科書	「映像作家サバイバル入門 自分で作る／広める／回収するために」松江哲明著							
主要参考書	「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネ旬報							
評価方法	①制作期間の出欠及びその姿勢、②出席と各課題の提出 ①と②をもとに総合的に評価							

科 目 名						担 当 者 名		
卒業制作 〈ドキュメンタリー〉						安岡 卓治 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	「ドキュメンタリー専門演習Ⅰ」、「ドキュメンタリー専門演習Ⅱ」を修了していること。							
授業概要	【前期】ドキュメンタリーに限らず、映画、ひいては表現活動すべてに底通する源泉は、一個一個の個人の中にある問題意識や美意識である。伝えたいという心、見せたいという心、それが源にある。学生ひとりひとりに固有の作品があるべきだ。これまでのドキュメンタリー制作を軸とした専門演習で、各学生はそれぞれの企画を練り上げてきた。これらを映画作品として作り上げることが本講座のプロセスである。学生各々の企画提案を学生講師で協議しながら、企画主旨を共有できるスタッフによって制作班を編成し、それぞれの企画の実現に取り組む。本講座の履修期間内に完成することが困難な企画や、具体的な取材対象者、団体等の協力を得ることが困難な企画は制作対象から外れる場合がある。取材、撮影、編集・・・制作の過程で数々の困難や失敗を経験しながら、映画を知り、人間を知る。 【後期】映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰しも経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。							
到達目標	・卒制としてドキュメンタリー映画の制作を体験しながら、それぞれの役割を全うすること。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。							
授 業 計 画	内 容							
	(1) ～3月上旬…企画書協議＋班編成 (2) ～4月上旬…班別協議＋班別指導 (3) ～4月上旬…撮影設計・スケジュール策定・取材調査 (4) 4月上旬～7月上旬…撮影 (5) 4月上旬～7月上旬…撮影後随時ラッシュチェック (6) 4月上旬～7月上旬…映像デジタイズ・編集データ整理・文字起こし (7) 7月上旬…構成案策定 (8) 7月下旬…第一次編集・音声調整 (9) 8月上旬…編集チェック・再構成 (10) 9月中旬…第二次編集 (11) 9月下旬…編集チェック・再構成・追加撮影・資料撮影 他 (12) 9月中旬…最終編集 (13) 9月下旬…ゼミ内講評 (14) 10月上旬…編集直し・MA (15) 11月下旬…合評会 (16) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成 (17) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ (18) 1月下旬…劇場公開準備 (19) 卒制作品劇場公開							
授業外学習	■取材・調査・企画練成 ■撮影・録音・編集等の技術練成 ■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか							
教科書	「映像作家サバイバル入門 自分で作る／広める／回収するために」松江哲明著							
主要参考書	「ドキュメンタリー・ストーリーテリング『クリエイティブ・ノンフィクション』の作り方」フィルムアート社、「ドキュメンタリーとは何かー土本典昭・記録映画作家の仕事」、 「映画は生きものの仕事であるー私論・ドキュメンタリー映画」未来社、「映画の瞬きー映像編集という仕事」フィルムアート社、「映画もまた編集であるーウォルター・マーチとの対話」みすず書房、「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネ旬報							
評価方法	①卒制作品への取り組み、②出席と各課題の提出 ①と②を総合的に評価							

科 目 名						担 当 者 名		
卒業シナリオ I						荒井 晴彦、斎藤 久志		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	8	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	【読替科目】 卒業制作 I (～2015年度)							
授業概要	創作系シナリオコースに進んだ人は、外に出せる250枚のシナリオを持って卒業することを目指します。ここまで学んできたシナリオ技術と、人としての成長を、劇場用映画の長さにあわせて、一般映画と肩を並べられるレベルまで到達できるまで個別指導をおこないます。							
到達目標	250枚のオリジナル脚本の完成。							
授 業 計 画	内 容							
	以下のようなスケジュールで進行する。 ① 4月： 企画開発。 ② 5月～6月： プロット作り。 ③ 7月～8月下旬： シナリオ執筆。 ④ 9月上旬： 合宿によるシナリオ直し。 ⑤ 9月下旬： シナリオの提出 ○ 場合によってはワンシーンもしくはワンシークエンス撮影をして、それを観て、シナリオの検証をおこなう。 これらの過程を経て、250枚のオリジナルシナリオを完成させ、9月末〆切のシナリオ作家協会主催の「新人シナリオコンクール」への応募を目指す。 10月からは、120枚のTVドラマのシナリオ作りにとりかかり、11月末〆切の「テレビ朝日21世紀新人シナリオ大賞」の応募を目指す。 参考のTVドラマを観せて、テレビドラマ研究をやった後に、執筆にとりかかる。							
授業外学習	プロット及びシナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	それぞれの書くシナリオの題材にあった映画、シナリオ、書籍などを、教員がその都度提示します。							
評価方法	執筆物の成果。							

科 目 名						担 当 者 名		
卒業シナリオⅡ						荒井 晴彦、斎藤 久志		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択必修	演習	4	4	後期	F(その他)	白山
履修条件	「卒業シナリオⅠ」でシナリオを提出していること。 【読替科目】 卒業制作Ⅱ（～2015年度）							
授業概要	「卒業シナリオⅠ」で書き上げたシナリオを全体で読み合わせ、校正をし、一冊の文集にまとめる。							
到達目標	①卒業シナリオ集の完成。 ②自ら目標を設定し、スケジュールを立てて実行する自己管理能力が身につけられる。							
授 業 計 画	内 容							
	卒業シナリオ集の制作 およそのスケジュール ① 12月： 掲載シナリオ決定(前期の長編かTVドラマかを各自選択) ② 1月上旬～中旬： 校正作業(ひと作品につき三人で校正) ③ 1月下旬～2月： 文集完成(授業の一環として学生主体で行う)							
授業外学習	—							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	「卒業シナリオ集」作成の作業への参加態度から評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
卒業論文Ⅰ						高橋 世織、大友 りお、石坂 健治、関川夏央 田辺 秋守、ハン・トンヒョン、伊津野 知多、大澤 信亮 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択必修	演習	8	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	3年後期までに、次の①②いずれかの条件を満たしていること。かつ、「卒業論文研究計画書(仮)」を提出済であること。 ①理論コースの選択必修科目のうち、4単位科目を2科目、2単位科目を1科目、合計10単位以上修得している。 ②理論コースの選択必修科目のうち、4単位科目を3科目、合計12単位以上修得している。							
授業概要	理論コースでの学習の集大成として、学生自らが長期間にわたって主体的に行う研究である。それぞれに研究テーマを見つけ、関連する資料を調査してそれを読み解き、まとめた長さの文章に論理的にまとめあげることが求められる。分量は、24,000字以上40,000字程度まで(400字詰原稿用紙換算60枚～100枚程度)。 それぞれの研究テーマと学生からの希望に応じて指導教員(主査・副査)がつき、個別指導を繰り返して研究を進めていく。「卒業論文研究計画書」の提出と、2度の「卒論中間発表会」、定期的な草稿の提出、および卒論提出後に「卒業研究発表会」で発表することも必須である。4月初めにガイダンスを行うので必ず参加すること。							
到達目標	①論理的な思考法、文章表現やプレゼンテーションの技術など、これまで学んできたことを応用、実践できるようになる。 ②自ら目標を設定し、スケジュールを立てて実行する自己管理能力を身につける。							
授 業 計 画	内 容							
	卒業論文提出までの間は、随時主査による個別指導を受けて各自で研究を進める。同じ教員を主査とする学生や研究テーマが近い学生を集めて「卒論ゼミ」を行う場合もある。 前期中に、Wordスキルアップワークショップ、プレゼンテーションワークショップを実施する(全員参加必須)。 「卒論中間発表会①②」では、全員が研究経過を報告し、教員からのアドバイスを受ける。②は合宿として実施する。 8月以降は、毎月一度草稿の提出を課す。 最後の「卒業研究発表会」は、ポスターセッション(自分の卒論の内容をポスターにして掲示し、来場者に解説する)の形式で行う。準備と当日の進行は学生の実行委員会が主体となって担う。							
	全体としては以下のようなスケジュールで進行する。具体的な日程についてはその都度連絡する。							
	① 4月: 4/5(水)卒論ガイダンス、個別指導および卒論ゼミ開始							
	② 5月: Wordスキルアップワークショップ実施							
	③ 6月中旬: 「卒業論文研究計画書」(卒論題目・研究概要・構成案)の提出 下旬: プレゼンテーションワークショップ実施							
	④ 7月下旬: 卒論中間発表会①							
	⑤ 8月中旬: 8000字レポート提出							
	⑥ 8月下旬: 卒論中間発表会②【卒論合宿】							
	⑦ 9月末: 草稿①提出							
	⑧ 10月末: 草稿②提出							
	⑨ 11月末: 初稿提出							
	⑩ 12月中旬: 卒業論文の提出							
	⑪ 2018年2月中旬: 卒業研究発表会							
授業外学習	教員は随時アドバイスや指導をするが、卒業論文の基本は授業外の自主的な学習である。各自主体的に取り組んでほしい。							
教科書	—							
主要参考書	それぞれのテーマに応じて参考文献を助言する。							
評価方法	個別指導への参加態度、段階ごとの草稿の提出、「卒業論文研究計画書」の内容、「卒論中間発表会①②」での発表内容という、卒業論文執筆のプロセスにおける取組みを総合的に評価する。「卒業研究発表会」での発表は必須だが、成績評価の対象にはしない。							

科 目 名						担 当 者 名		
卒業論文Ⅱ						高橋 世織、大友 りお、石坂 健治、関川夏央 田辺 秋守、ハン・トンヒョン、伊津野 知多、大澤 信亮 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択必修	演習	4	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	3年後期までに、次の①②いずれかの条件を満たしていること。かつ、「卒業論文研究計画書(仮)」を提出済であること。 ①理論コースの選択必修科目のうち、4単位科目を2科目、2単位科目を1科目、合計10単位以上修得している。 ②理論コースの選択必修科目のうち、4単位科目を3科目、合計12単位以上修得している。							
授業概要	「卒業論文Ⅰ」と連動する科目である。卒業論文を提出した後、主査・副査との三者面談形式による「卒業論文口述試験」を受けること、「卒業論文集」に掲載する最終原稿を作成することが必須である。							
到達目標	①論理的な思考法、文章表現やプレゼンテーションの技術など、これまで学んできたことを応用、実践できるようになる。 ②自ら目標を設定し、スケジュールを立てて実行する自己管理能力を身につける。							
授業計画	内 容							
	以下のようなスケジュールで進行する。具体的な日程はその都度連絡する。 ① 12月中旬： 卒業論文の提出 ② 2018年1月上旬： 卒業論文口述試験(主査・副査との三者面談形式) ③ 2018年1月下旬： 「卒業論文集」掲載用の最終原稿の提出 ④ 2018年2月： 「卒業論文集」の校正作業（授業の一環として学生主体で行う）							
授業外学習	教員は随時アドバイスや指導をするが、卒業論文の基本は授業外の自主的な学習である。各自主体的に取り組んでほしい。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	卒業論文の内容と口述試験の成績によって評価する(学修成果の評価)。 「卒業論文集」掲載用の最終原稿の提出は必須だが、成績評価の対象にはしない。							

科 目 名						担 当 者 名		
映画美術演習						中原 俊、稲垣 尚夫 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択	演習	2	2	後期	E(集中)	白山
履修条件	「映画美術論」を履修していること							
授業概要	美術デザイナーの指導のもと、スタジオ内に図面に沿ってセットを組みながら、大道具・塗装・装飾等のセット造りに必要な技術を学ぶ							
到達目標	3年前期の「合同制作」で使用するセットへの発想と自分達の力で建てるための技量を身につける							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	「イメージが出来上がるまで」 スケッチ画と図面の読み方・場所を作り、出来上がりをイメージしてみる						
	2	平台設置・材料調べ・不足部品作り						
	3	床板張り・建て込み・窓、扉枠取り付け						
	4	窓外・廊下建て込み・建具取り付け・下地張り						
	5	塗装・装飾構想(在り物搬入)・看板、家具等造り物製作						
	6	エイジング(汚し)・小道具調達(借り物・買い物)						
	7	飾り込み・ライティング・最終仕上げ・撮影・ディスカッション・総括						
授業外学習	撮影のためのシナリオ執筆・狙いの装飾品の調達・撮影した素材をつかっの編集・音仕上げ							
教科書	とくになし							
主要参考書	「映画美術に賭けた男」中村公彦 草思社							
評価方法	出席60%、指導講師による個別評価(技能＋理解)40% 作業工程を修得し、リーダーシップを発揮した者には美術ライセンスB(スタジオ使用許可書)を与える。							

科 目 名						担 当 者 名		
ドキュメンタリー映画史						石坂 健治		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択	講義	2	2・3・4	後期	B1(3×5)	白山
履修条件	ドキュメンタリー映画からTVニュースまで、広い意味のノンフィクション映像に関心のある者に開かれた講座である。事前の心がけとしては、新聞に載るニュースをその後も自分なりにフォローしてスクラップするなど、身の回りの社会的な事件に意識的になることが肝要である。							
授業概要	ドキュメンタリーとは何か？文学と映画の分野で使われるこのコトバの本来の意味は？劇映画と別のカテゴリーに分類される理由は？だが本当に劇映画と異なるものなのか？……こうした基本的な疑問を抱きながら、ドキュメンタリー映画史の大海原へ飛び込もう。映画史初期(リュミエール、メリエス、フラハティ)、戦意昂揚映画、社会主義プロパガンダ、ダイレクトシネマ、戦後日本と社会派ドキュメンタリー(土本、小川、大島、今村)、アジア・ドキュメンタリーの興隆、デジタル作法とセルフドキュメンタリー論争、などについて概説する。							
到達目標	ドキュメンタリーの歴史を理解すると同時に、ドキュメンタリーの未来形を各自が自覚的に追究することができるようになること。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ドキュメンタリーとは何か——文学と映画の分野で使われるコトバの起源						
	2	初期映画——リュミエールとメリエスの「ドキュメンタリー性」の違い						
	3	フラハティ——『ナヌーク(極北の怪異)』における「自然」と「演出」について						
	4	戦争とドキュメンタリー——ナチス・ドイツのプロパガンダ映画を分析する						
	5	リーフェンシュタール——『民族の祭典』とファシズムの美学について						
	6	社会主義とドキュメンタリー——エイゼンシュテインのモンタージュ理論を解説						
	7	ダイレクトシネマ——戦後の米仏にあらわれた「観察の映画」の思想とその成果						
	8	戦後日本のドキュメンタリー——左翼運動とドキュメンタリー映画の軌跡						
	9	土本典昭と小川紳介——高度成長期の暗黒面である「水俣」と「三里塚」						
	10	大島渚と今村昌平——前者の「朝鮮」と後者の「東南アジア」						
	11	アジア・ドキュメンタリーの興隆1——文革後の中国、民主化後の韓国						
	12	アジア・ドキュメンタリーの興隆2——東南アジアや中東でタブーに挑む作家たち						
	13	デジタル時代の表現——21世紀の新しいドキュメンタリー作法について考える						
	14	セルフ・ドキュメンタリー論争——近年の日本で巻き起こったドキュメンタリー論争						
	15	まとめ						
授業外学習	公開中のドキュメンタリーを映画館で鑑賞するなどの課題を出すことがある。							
教科書	特になし。							
主要参考書	石坂健治・土本典昭共著『ドキュメンタリーの海へ』現代書館、2008年(購入又は図書館) 原一男著・石坂健治＋井土紀州編『踏み越えるカメラ』フィルムアート社、1994年(購入又は図書館) 佐藤忠男ほか編『シリーズ 日本のドキュメンタリー(全5巻)』岩波書店、2010年(購入又は図書館)							
評価方法	期末レポート80%＋平常点20%。100点満点中60点を合格点とする。(ただし出席不良の者がレポートだけ出してもダメ。)							

科 目 名						担 当 者 名		
アメリカ映画史						松井 宏		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択	講義	2	2・3・4	後期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	かつてアメリカ映画における主要なジャンルのひとつであったミュージカル映画。そのなかでも特筆すべきミュージカル映画たちを残したヴィンセント・ミネリ監督(1903年～1986年)の主要な作品を分析しながら、40～70年代のミュージカル映画とアメリカ映画そのものの変遷を、たどってみる。							
到達目標	アメリカ映画およびミュージカル映画を、娯楽作品としてのみならず、歴史的かつ美学的な観点から味わえるようになること。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイドランス／ヴィンセント・ミネリとミュージカル映画から見るアメリカ映画						
	2	ミュージカル映画の黄金時代						
	3	『若草の頃』(44)						
	4	ヴィンセント・ミネリの絶頂期——ミュージカル映画の極限へ						
	5	『巴里のアメリカ人』(51)						
	6	ミュージカル映画から(メロ)ドラマへ①						
	7	『お茶と同情』(56)						
	8	ミュージカル映画から(メロ)ドラマへ②						
	9	『走り来る人々』(58)						
	10	ミュージカル映画の終わりの始まり						
	11	『恋の手ほどき』(58)						
	12	ミュージカル映画から見るアメリカ映画の変容①						
	13	『明日になれば他人』(62)						
	14	ミュージカル映画から見るアメリカ映画の変容②						
15	『晴れた日に永遠が見える』(70)							
授業外学習	外国映画を鑑賞する際に、製作国や原題をチェックする癖をつけてほしい。							
教科書	授業時にプリントを配布予定。							
主要参考書	授業時に適宜紹介する。							
評価方法	レポート(70%)と出席等平常点(30%)で評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
映画前史 《19世紀学》への招待)						高橋 世織		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択	講義	2	2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし 【読替科目】 映画前史(～2016年度／理論系選択必修科目)							
授業概要	映画術は19世紀末に誕生し、料金を取って見せた機械仕掛けの見世物興行(産業)であった。しかも当時の最先端テクノロジーがハイブリッドに組み合わさった光学的魔術の玉手箱だ。ただし帝国主義時代の産物、申し子であったという側面も見落とすわけにはいかない。実は、19世紀とは、じわじわと100年がかりで映画が胎動し誕生する為の下準備・基盤整備を着々と推し進めていた季節であった。時代の一切の動線が映画誕生へと向かっていったといつてよい。19世紀の交通(鉄道網)・経済(資本蓄積)の拡大や個人や帝国の欲望・犯罪、感覚の歴史、さらにはテクノロジーの思想を検証する。市民社会(都市生活)のなかで、隆盛する「商品としての小説」や絵画・演劇・オペラ等と雁行しながら、映画出現の下地・基盤が着々と整備されていった。映画は電気なしでは存在できない。エレクトロニクス、光学などの科学技術の革新や発明もあいまって初めて映画誕生が叶ったのだ。19世紀のよちよち歩きの諸学問を映画産業芸術というフレームから逆照しつつ読み解いていく。19世紀にようこそ。本講は来たるべき21、22世紀的映画の可能性をも予見・構想しつつ未生以前を発掘・再発見するという、海老反りのごとき反語的あつさりの《19世紀学》への招待なのである。まずは、メリエス「月世界旅行」(1902年)から遡って、19世紀の様々なフランケンシュタイン現象の胎動を訪ね聴こう。							
到達目標	①20世紀に花開く映画芸術も、すでに種があちこちの畑で撒かれていたことの発見など、古典や歴史から学ぶことの面白さ・意義深さを体験する。②＜映画学＞は、既存の人文系/社会科学系/自然科学系すべての知を総動員したところで存立する学問であり、方法論であることの認識するに至る。映画の可能性を探る作業である。願わくば、《歴史的想像力》という知力と感性も涵養されんことを…。③高校までの歴史の勉強や知識が、そういうことだったのか、と肉付けされるようになる。							
授 業 計 画 								

2017 年度						科 目 名			担 当 者 名								
						テーマ研究Ⅱ〈比較映画論〉						田辺 秋守、晏 妮(アンニ) ほか					
科目区分		科目分類		授業形態		単位数		配当年次		学期		講義型		校舎			
専門		理論系		選択		講義 (オムニバス)		2		2・3・4		後期		B1(3×5)		白山	
履修条件		特にないが、映画批評、映画論を書こうとする者には不可欠の授業 【読替科目】 比較映画論(～2016年度)															
授業概要		複数の教員がそれぞれの切り口から毎回二本の映画作品をとりあげ、それらを比較する。同じ俳優、監督、スタッフによる異なる作品の比較、時代、地域、製作国などが異なる作品の比較、同一ジャンルの二作品の比較、共通するテーマを扱う二作品の比較、オリジナルとリメイクの比較など、様々な比較のパターンが考えられる。映画を単体の作品としてではなく、社会的、歴史的コンテキストや映画史の観点から見る見方を学び、映画を分析したり、批評したりする際の強力な武器とする。 (以下の授業計画は変更する場合がある。その場合は後期履修登録までに確定シラバスを掲示する。)															
到達目標		映画を多角的な視点によって読み解く力を身につけてもらうのが、到達目標である。															
授 業 計 画		回数		内 容													
		1		オリエンテーション													
		2		ケーススタディ1													
		3		学生からの質疑応答・討議													
		4		シナリオ研究の観点からの比較映画論													
		5		ケーススタディ2													
		6		学生からの質疑応答・討議													
		7		編集スタイルからの比較映画論													
		8		ケーススタディ3													
		9		学生からの質疑応答・討議													
		10		俳優論・演出論からの比較映画論													
		11		ケーススタディ4													
		12		学生からの質疑応答・討議													
		13		批評・映画研究の観点からの比較映画論													
		14		ケーススタディ5													
		15		学生からの質疑応答・討議													
授業外学習		取り上げる作品を事前に見ておくことを勧める。															
教科書		なし															
主要参考書		なし															
評価方法		出席率(30%)と授業内レポート(70%)															

科 目 名						担 当 者 名		
映画と演劇						天願 大介		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択	講義	2	2・3・4	後期	B1(3×5)	白山
履修条件	事前の知識はとりあえず必要とされない。							
授業概要	演劇は映画の母である。演劇を知らぬ者に映画を作る資格はない。映画と演劇の歴史を学びその深い関係を知り、異質なものがつかり合うことで生まれるパッションこそが映画の原点であり、未来の映画の豊かな可能性がそこにあることを実感する。							
到達目標	演劇に興味を持ち、演劇の知識が映画制作に必要な不可欠だと実感する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画の始まりと各国の演劇との関係。						
	2	黒澤明とシェイクスピア。能について。						
	3	西洋文化と東洋文化との激突。						
	4	スタニスラフスキーとエイゼンシュテインが求めたもの。歌舞伎との関係。						
	5	ウディ・アレンとギリシャ悲劇。						
	6	映画的リアリズムと演劇的表現との激突。						
	7	歌舞伎・能以外の日本の伝統演劇 話芸(講談・落語・浪曲)の違い。						
	8	川島雄三 旧体制と新時代の激突。						
	9	立川談志 伝統と現代との激突。						
	10	アングラとは何だったのか。						
	11	寺山修司と唐十郎 旧劇と新劇の対立、アングラとの関係。						
	12	芸術と通俗との激突。						
	13	映画と演劇の現在。						
	14	各国作家たちの様々な模索。						
15	激突が未来の扉を開く。							
授業外学習	観劇を体験しておくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	授業の中で提示。							
評価方法	出席とレポートで判断する。(出席65%、レポート35%)							

科 目 名						担 当 者 名		
映像人類学						村尾 静二		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択	講義	2	2・3・4	後期	B1(3×5)	白山
履修条件	—							
授業概要	文化人類学では、人間の生活や技術の記録のみならず、身体や暗黙知、空間やサウンドスケープをはじめとして、言葉でとらえることが難しいと思われてきた事象に分け入り、分析するための方法として、映像メディアが広く活用されてきた。本講義では、文化人類学の基礎知識を学ぶとともに、これまで様々な時代、地域、視点により制作されてきた民族誌映画をテキストにして、映像人類学の理論と実践について講義する。受講者は、映像人類学の基本的問題を理解し、自身の関心に応用できるようになることを目標とする。							
到達目標	映像人類学の視点とは何かを理解し、それを自身の関心に応用することができる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイドンスー人類とイメージ						
	2	人類と映画のファーストコンタクト						
	3	世界の辺境の劇化と植民地主義						
	4	ドキュメンタリー映画の形成－映画による社会の視覚的構成						
	5	映像人類学の確立(1)－映像にとらえられた文化の規範						
	6	映像人類学の確立(2)－映像にとらえられた民族の心性						
	7	ジャン・ルーシュ(1)－科学に宿る詩的なもの						
	8	ジャン・ルーシュ(2)－現実には宿る演劇性						
	9	エスノグラフィー(民族誌)としての映画						
	10	戦争の記録、民族の記憶						
	11	人類学映像のポスト・モダンの展開(1)エスニシティと映像						
	12	人類学映像のポスト・モダンの展開(2)ジェンダーと映像						
	13	グローバル化する世界と先住民メディアの現在						
	14	撮ること、撮られること－世界に捉えられてきた「JAPAN」の諸相						
	15	まとめ－映像と文化の倫理						
授業外学習	文化人類学の基本的問題について準備学習し、映像人類学について関心を明らかにすること。							
教科書	『映像人類学－人類学の新たな実践へ』村尾静二・箭内匡・久保正敏編、せりか書房、2014年。							
主要参考書	『よくわかる文化人類学(第2版)』綾部恒雄・桑山敬己(編)、ミネルヴァ書房、2010年。							
評価方法	授業への出席(50%)と授業内レポート(50%)により評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
写真論						高橋 世織 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択	講義	2	2・3・4	後期	B1(3×5)	白山
履修条件	特になし。撮影照明コース以外の諸君も受講を勧めます。 【読替科目】 映画イメージ論(～2014年度)、映像・写真論(2015年度)							
授業概要	映画をかつては「活動写真」、ないしは「シャシン」と云ったほどで、撮影行為抜きには映画も写真も存在しえない。19世紀前半に誕生した写真術は、隣接する美術領域はもとより、現実の都市や人々の生活、表情、しぐさ、感情、風景を掬い取った小説世界に対して多大なインパクトを与え続けた。エミール・ゾラの膨大な小説群や、日本では明治期の尾崎紅葉(写真倶楽部会長でもあった)、露伴の描写技法、朔太郎の口語自由(生成)詩の達成は写真の持つメディア特性抜きには説明できない。また19世紀後半から澎湃として沸き起こる自然主義(リアリズム)は写真メディアが齎した思潮でもあった。スマホがグローバルに普及した21世紀の写真の未来、あり方も構想する。倉石信乃(「博物館資料保存論」担当教員)、港千尋、石内都等、ゲスト講師も招聘する予定。							
到達目標	本学は「人間総合研究」があるから良い方だが、《フィルムカメラ》に触ったことも見たこともない学生がもはや殆ど圧倒的多数の時代となった。《写真》術が誕生した19世紀の歴史を知り、写真行為とは何か、撮影行為とは何か、という根源への探究心を目覚めさせる。同時に、新たな映像表現のあり方の考究に繋げるようにしていきたい。映画の中でどのように写真現象を取り込むと面白い事になるのか、そのヒントにもして欲しい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	はじめに ― 写真行為とは何か。フォト・グラフィー(光で描くの意味)ゆえに写真でなく「光画」と訳した方が・・・？ スマホは写真か？						
	2	ダグレオタイプ発明(1839年)とその影響、及びタイプライターの誕生と犯罪空間の変容 ――コナン・ドイル『アイデンティティの事件』(1889年)を手がかりに、写されたもの、書き移されたもの、と近代法概念の確立について考える						
	3	心霊写真、オカルティズム、風景・子どもの発見ほか						
	4	写真と都市思想 ―― 都市思想家としてのベンヤミンの写真論、 『ベルリン天使の詩』『都市とモードのビデオノート』とA. ザンダー『20世紀の人間』						
	5	写真と近代文学 ―― ベンヤミン、エミール・ゾラ、萩原朔太郎、尾崎紅葉、幸田露伴、江戸川乱歩、安倍公房ほか						
	6	映画の中の写真／写真の映画(『麦秋』1951と『生きる』1952と『二十四の瞳』1954)						
	7	同上 ―― クリス・マイケル、ビル・ヴィオラ、W. ヴェンダースを中心に考える						
	8	ファミリー・アルバムと《家族》の変容						
	9	同上 ―― 家族の肖像とブリクラ現象、自撮りブームを考える						
	10	東京都写真美術館の誕生とその後の経緯 ― 《映画美術館》は何故、構想されないのか？ 《美術館》とは？《展示》とは何なのか？						
	11	学芸員が過去の写真家のネガから焼いたものはその作家の写真と言えるか？ ヴィンテージ・プリントとアンセルアダムズの現像思想						
	12	プリントと版の時代(写真と書物)―土門拳『筑豊のこどもたち』とアラキー『さっちゃん』から写真集のありかたを考える						
	13	写真や映像はこれからどのように社会と切り結べるか？						
	14	「映画の記憶／写真の記録」と題して、高橋＋ゲスト講師(写真家を予定)によるトーク・セッション						
15	まとめと質疑応答							
授業外学習	東京都写真美術館(恵比寿)に出かけたり、ギャラリーでの写真の展示の仕方に常日頃から関心を持つように心がける。植田正治、東松照明、アラキー、吉増剛造、森山大道、中平卓馬、森村泰昌、石内都、杉本博司、島山直哉、港千尋、オノデラユキ、やなぎみわ、佐藤時啓、鈴木理策等の最先端で特異な写真行為を実践展開している作家に関心を持っておいで欲しい。							
教科書	教科書は特に指定しない。随時、必要な文献、関連資料等はコピー配布する。							
主要参考書	『日本写真史概説』(1999、岩波書店)、F. キッター『グラモフォン・フィルム・タイプライター』(1999、筑摩書房)、ベンヤミン『パサージュ論』第4巻(2003、岩波現代文庫)、東松照明『11時02分長崎』(新潮社フォトミュゼ)、同『太陽の鉛筆』(毎日新聞社)、荒木経惟『センチメンタルな旅・冬の旅』(新潮社)、ビル・ヴィオラ『はつゆめ』(2006、淡交社)等を挙げておくが、毎回講義の中で、参考書、参考文献は教示していく。							
評価方法	出席(その日のリアクションペーパーの充実度)と、課題レポート(最後に論題を伝えます)とを総合して評価。出席5割、レポート5割。 【3回以上欠席の場合は原則、不可扱いとなりますので要注意】							

2017年度						担当 者 名		
科 目 名						伊津野 知多		
記号論								
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択	講義	2	2・3・4	後期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	「映像とことば」を履修していることが望ましい。 【読替科目】 映画理論C(～2015年度)							
授業概要	「記号論」は、あらゆる文化的現象を何らかの意味を伝える記号と捉え、その意味伝達のしくみを考えようとする学問である。この授業ではまず、記号論の基本的な用語を解説し、専門的な文献を読むための基礎知識と考え方の枠組みを身につけてもらう。次いで、言語媒体で発展した記号論を映像や映画に適用する際に生じる問題について考える。映像が観客に意味を伝えるしかたは言語の場合とどう違うのか、映像で物語を語るとはどういうことか、映画固有の意味作用とは何か、などのテーマで、「記号」としての映画を考えてみよう。 随時参考上映を行うほか、グループワークとディスカッションを行う。							
到達目標	①記号論の基礎的な概念や考え方が理解できるようになる。 ②映像や映画を記号論的に分析することができるようになる。 ③グループワークやディスカッションを通して、思考をことばにして他者に伝える技術が修得できる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	記号論(記号学)という考え方						
	2	ことばと映像の意味作用は何がちがうのか／グループワーク①						
	3	記号論(記号学)の基本的な概念①						
	4	記号論(記号学)の基本的な概念②						
	5	記号論(記号学)の基本的な概念③／グループワーク②						
	6	映像の記号論①： 言語記号と視覚的記号のちがい／映像の意味作用と映画の意味作用の特徴						
	7	映像の記号論②： ロラン・バルトによる広告写真の分析を検討する／グループワーク③						
	8	映像の記号論③： 広告写真の記号論的読解						
	9	映像の記号論④： グループワーク④						
	10	映画の記号論①： クリスチャン・メッツの映画記号学						
	11	映画の記号論②： ジャック・ロジェ『アデュー・フィリピーヌ』(1961)の鑑賞						
	12	映画の記号論③： クリスチャン・メッツによる映画の分析を検討する① 「大連辞関係」とはなにか						
	13	映画の記号論④： グループワーク⑤						
	14	映画の記号論⑤： クリスチャン・メッツによる映画の分析を検討する②						
15	映画への記号論的アプローチの意義と限界							
授業外学習	授業で指示する参考文献のうち、入門的な内容のものを読んでみてほしい。							
教科書	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。							
主要参考書	池上嘉彦『記号論への招待』(岩波新書、2013)／ロラン・バルト著、諸田和治編訳『ロラン・バルト映画論集』(ちくま学芸文庫、1998)／ロラン・バルト著、蓮實重彦他訳『映像の修辞学』(ちくま学芸文庫、2005)／クリスチャン・メッツ著、浅沼圭司監訳『映画記号学の諸問題』、『映画における意味作用に関する試論』、(水声社、1987、2005)。このほか、初回に参考文献表を配布する。							
評価方法	①平常点(各回のリアクションペーパーの内容、ディスカッションやグループワークへの参加態度)： 50％ ②期末レポート： 50％							

科 目 名						担 当 者 名		
こども映画教育演習						熊澤 誓人、中山 周治 ほか		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	創作系	選択	演習 (コラボ)	4	3・4	後期	E(集中)	白山・外部
履修条件	映像教育の理論と実践を学ぶものです。理論コース創作コース問わず履修できます。 【読替科目】「シネリテラシー研究」「シネリテラシー演習」(～2016年度) ※両方の科目が履修済みの学生の履修は不可。							
授業概要	<はじめの4日間> 学校、地域、その他のコミュニティで実践された、映画の力を活かした国内外の事例を紹介し、映画と教育についてより深く考えることができるように、作品視聴、ディスカッション、発表などの活動を行う。 <その後の7日間> 麻生区役所地域みまもり支援センターと共催の小学生対象映画制作ワークショップ『こども映画大学』とのコラボレーション。この授業を履修した大学生がワークショップに参加した小学生たちに映画作り(シナリオ作りから撮影・編集・発表会進行まで)を指導しながらともに作品を作り上げ上映する。初めの4日間の講義を踏まえ、映画としての表現方法、発想の過程、その面白さ、チームワーク、課題を体験し、学び合う。 (「シネリテラシー研究」と「シネリテラシー演習」を統合した新科目です)							
到達目標	映画のもつ力を教育現場で活かす発想、方法論を身に付けること。また映画を通じた活動によって社会をより豊かにするための方法論を身に付けること。小学生に映画を教えることで今まで得た知識・技術を確認することができる。自分と違う価値観とは何かを考える機会になる。川崎市麻生区の取り組みに参加することで自分の故郷や住んでいる町に置き換え、町と人の関係、町と教育の関係を見つめなおすことができる。							
授 業 計 画 画	日数	内 容						
	1	シネリテラシーとは何か (1)『シネリテラシー～映画をつくる子供たち』視聴 オーストラリアの事例研究 映画を観るとはどんなことか (1)初めての映画体験(アマゾン川流域、明治時代の日本など) (2)無文字社会、口承の文化の人々の思考様式 (3)幼児の映像体験						
	2	映画を作るとはどんなことか (1)子どもたちの作品研究(小学中学高等学校、就学支援施設、盲学校など) (2)社会教育の現場から(デジタルストーリーテリング、難民キャンプなど) 芸術教育とは何か(1)『子どもたちの100の言葉』視聴 イタリア、レージョエミリアの幼児教育(2)『月世界旅行』の授業案化						
	3	市民教育とは何か (1)『100人の子供たちが列車の到着を待っている』視聴 チリの事例研究 (2)スペインの読書教育『読書へのアニメーション75の作戦』研究 「映画へのアニメーション」ワークショップデザイン 映画の読み解きとは何か (1)『岸辺のふたり』視聴 模擬授業体験 (2)『岸辺のふたり』の授業案化						
	4	地域運動としての映画とは何か (1)『こころの山脈』視聴 福島県本宮市の事例研究 (2)川崎市の事例研究 表現教育とは何か (1)『山びこ学校』生活綴り方(作文教育)の研究 (2)「ちいさなひとのえいががっこう」「こども映画プラス」のNPO活動研究						
	5	麻生区地域みまもり支援センターの取り組みと昨年のワークショップ作品鑑賞・メイキング映像を含めた報告 『こども映画大学』の進め方(主題・役割・安全管理・運営方法などの話)・スタッフ及び担当編集 ワークショップの為の機材取扱い講座(カメラ・録音・編集)						
	6	『こども映画大学』ワークショップ準備(スタッフ打ち合わせ・会場づくり) ワークショップの為の機材取扱い講座(カメラ・録音・編集) ワークショップリハーサル						
	7	『こども映画大学』ワークショップ① 映画の仕組み説明(映画とは? スタッフの仕事) シナリオ作り 機材の取扱説明(小学生にカメラや録音機材の使い方を教える) シナリオを基にした班決め・配役やスタッフ決め ワークショップ終了後大学生はシナリオをもとに打ち合わせ・小道具など買い出し・撮影準備						
	8	『こども映画大学』ワークショップ② ロケハン・本読み・リハーサル・撮影 ワークショップ終了後、大学生は撮った素材を編集機に取り込み、編集準備。						
	9	『こども映画大学』ワークショップ③ 編集・発表会進行表作り・役割決め ワークショップ終了後、大学生は上映会準備						
	10	『こども映画大学』ワークショップ④ 発表会@イオンシネマ新百合ヶ丘(予定) ワークショップ終了後、大学生はあとかたづけ						
	11	演習を振り返って(スタッフ報告会・意見交換・来年度へ向けて)						
授業外学習	映画制作実習及び講義での体験・知識・理解を深めておく							
教科書	教科書・参考書は使用しない。必要な資料はプリント配布する。							
主要参考書	『映像教育の実践的研究～シネリテラシー教育の可能性を探る』(千葉茂樹・中山周治編、日本映画大学、2014年)							
評価方法	出席と受講態度を総合的に評価する。ただし『こども映画大学』ワークショップのみの参加は不可とする。							

科 目 名						担 当 者 名		
アジア映画史						石坂 健治		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択	講義	2	3・4	前期	B1(3×5)	白山
履修条件	アジア、中東、南米など、非欧米圏の映画を観たり、新聞の国際面に目を通す習慣を身につけること。専門にかかわらずアジア映画に関心のある者に開かれた講座である。2年次の「ドキュメンタリー映画史」を履修しておくことが望ましい。							
授業概要	19世紀末、西洋近代テクノロジーの産物である映画に接したアジアの諸地域の大半は植民地であった。そのアジアにおいて、欧米や日本と異なる映画史がいかに展開されてきたのか。本講では、地域やクロニクル(年代順)も考慮しながら毎回、様々な映像作品を横断し、アジア映画の歴史と現在を論じていく。ゴダール流に言うなら「複数の映画史」を体験する場をめざしたい。							
到達目標	アジア映画を彩る作家たちとローカル映画産業について理解を深める。さらなる究極の目標は、日本人が苦手とする「アジアとの付き合い方」をマスターすることである。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	韓国1——東西冷戦構造がそのまま残存している朝鮮半島において、韓国映画はいかなる歴史をたどってきたのか。						
	2	韓国2——20世紀末に巻き起こった韓国映画ルネッサンスとは何だったのか。						
	3	韓国3——21世紀の国策として映画製作や映画祭を推奨する韓国映画の目覚ましい発展を検証する。						
	4	インド1——歌と踊りのユニークなスタイルをもつインド映画の歴史をたどる。						
	5	インド2——英国の植民地だった体験はインド映画にいかに影を落としているか検証する。						
	6	インド3——21世紀の新しいインド映画の特徴を探る。						
	7	香港1——功夫(クンフ)映画というユニークなジャンルの歴史をたどる。						
	8	香港2——ブルース・リーとジャッキー・チェンについて。						
	9	香港3——21世紀の新しい香港映画について検証する。						
	10	中国1——中国大陸の映画史と「世代」について。						
	11	中国2——21世紀の新しい中国映画。						
	12	台湾——1980年代のニューウェイブから現在まで。						
	13	東南アジア——タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナムなどの映画の魅力について。						
	14	中東——イラン、トルコなどのイスラム諸国と映画。						
	15	まとめ						
授業外学習	公開中のアジア映画を劇場で観ることなど、課題を出すことがある。							
教科書	石坂健治ほか監修『アジア映画の森—新世紀の映画地図』作品社、2012年(購入または図書館)							
主要参考書	石坂健治ほか編『アジア映画で<世界>を見る—越境する映画、グローバルな文化』作品社、2013年(購入または図書館)							
評価方法	期末レポート80%＋平常点20%。100点満点中60点以上を合格とする。(但し、出席不良の者がレポートだけ出してもダメ。)							

科 目 名						担 当 者 名		
テーマ研究Ⅲ〈映画ジャンル論〉						田辺 秋守		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択	講義	2	3・4	前期	B1(3×5)	白山
履修条件	【読替科目】 映画ジャンル論(2016年度)、映画ジャンル論A(～2015年度)、映画ジャンル論B(～2015年度)							
授業概要	今日「メロドラマ」という概念は、単に涙を誘う感傷的な映画ジャンルという皮相なレベルを離れて、映画ジャンルの中でも最も生産的な機能をもっていることが明らかになっている。そればかりではなく、メロドラマ論は、映画をめぐる言説の最も複雑で難解な論争を形成している。メロドラマを論ずるには、少なくともジャンル、作家、スタイル、表象、美学、イデオロギー、ジェンダー、エスニック等の重要な鍵概念が理解できなければならない。この授業では、現代思想の観点からこの複雑なジャンル映画を分析してゆく。最後には、日本映画のメロドラマの独自性に迫りたいと思う。							
到達目標	メロドラマというジャンルを理解すること、そのサブジャンル化が確認できること。そのうえで、受講後には別のジャンル映画のケーススタディを各自が実践できるようにする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	イントロダクション:メロドラマの特徴:運命の急変・サスペンス・災難・悲劇・土壇場での救済						
	2	ハリウッド・メロドラマの開始:D・W・グリフィスによる演劇的メロドラマ・『国民の創生』『散り行く花』『東への道』『嵐の孤児』						
	3	ハリウッド・メロドラマの展開:「母もの」(『ステラ・ダラス』と「男性メロドラマ」(『理由なき反抗』『ビガー・ザン・ライフ』)						
	4	サーク・メロドラマという形態:ダグラス・サーク研究(1)『心のとしび』『天の許し給うものすべて』						
	5	サーク・メロドラマという形態:ダグラス・サーク研究(2)『翼に賭ける命』『風と共に散る』						
	6	サーク・メロドラマという形態:ダグラス・サーク研究(3)『悲しみは空の彼方に』						
	7	サーク・メロドラマの脱構築(1):ファスビンダー『不安は魂を食いつくす』						
	8	サーク・メロドラマの脱構築(2):フランソワ・オゾン『焼け石に水』						
	9	サーク・メロドラマの脱構築(2):トッド・ヘインズ『エデンより彼方に』						
	10	「墮落した女」のメロドラマ:リー・ジェイコブス:『裏街』『ブロード・ヴィナス』『椿姫』						
	11	「被害妄想の女」のメロドラマ:メアリー・アン・ドーン『レベッカ』『らせん階段』『第二の妻』『扉の影の秘密』						
	12	「知られざる女」のメロドラマ:スタンリー・カヴェル『ガス燈』『忘れじの面影』『情熱の航路』『昨日』						
	13	日本のメロドラマ(1)小津安二郎:ファミリー・メロドラマの極北『晩春』『お茶漬の味』『東京物語』						
	14	日本のメロドラマ(2)成瀬巳喜男:女性映画としてのメロドラマ『浮雲』『流れる』『放浪記』『乱れ雲』						
	15	日本のメロドラマ(3)木下恵介:メロドラマの叙情性『二十四の瞳』『喜びも悲しみも幾歳月』『香華』／メロドラマの可能性						
授業外学習	可能な限り多くのメロドラマ作品を見ること。							
教科書	ジョン・マーサー『メロドラマ映画を学ぶ』フィルム・アート社							
主要参考書	ピーター・ブルックス『メロドラマ的想像力』産業図書 ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』晃洋書房 加藤幹郎『映画ジャンル論 ハリウッドの快楽のスタイル』平凡社 Rick Altoman, <i>Film/Genre</i> , BFI, 1999.							
評価方法	レポート60% 出席20% リアクションペーパー20%							

科 目 名						担 当 者 名		
状況論 〈日本映画の場所〉						田辺 秋守		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
専門	理論系	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
履修条件	日本映画の現状を理解したいと思う人に向いている。授業で予定している映画作品をできるかぎり観ておくこと。							
授業概要	この授業では、現在の日本映画が日本の状況をいかに描いているかを、いくつかのキーワードによって分析する。その際、分析の枠組みとして「現代思想」のいくつかの概念を援用する。それらの概念の布置関係から現在の日本映画の先鋭な場面で、どのような「倫理-美学的」状況が現出しているのかを具体的に論じる。授業を通して、現代日本人に必要な倫理的判断や政治的公正さが何であるかを理解してもらいたい。シラバスに示した計画は昨年度のトピックであり、日本映画の公開状況に従って随時更新する。							
到達目標	受講後には、日本映画の現状と今後の展開を遠望できる知見をもっているようにしたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	イントロダクション:「巨匠の時代の終わり」・「80年代以降の日本映画の担い手」・「90年代の日本映画の状況」・「0年代以降の日本映画をめぐる状況」						
	2	試金石としての学園ドラマ:次世代スターの「居場所」 深作欣二『バトル・ロワイアル』(2000) 豊田利晃『青い春』(2001) 岩井俊二『リリィ・シュシュのすべて』(2001) タナダユキ『俺たちに明日はないッス』(2008) 吉田大八『桐島、部活やめるってよ』(2012)						
	3	ミニマルな笑いの彼方:日本型コメディの行方【スラップスティックな笑いの欠如、王道なきコメディ】【オフビートとミニマリズムの笑い】						
	4	三木聡『亀は意外と速く泳ぐ』(2005) 宮藤官九郎『真夜中の弥次さん喜多さん』(2005) 大根仁『モテキ』(2011) 富永昌敬『ローリング』(2015) 福原充則『愛を語れば変態ですか』(2015)						
	5	「歌って踊る」への回帰【昭和歌謡へのノスタルジー】【日本のミュージカルの開花】						
	6	金子修介『恋に唄えば ♪』(2002) 篠原哲雄『昭和歌謡大全集』(2003) 鈴木清順『オペレッタ狸御殿』(2005) 中島哲也『嫌われ松子の一生』(2006) 周防正行『舞妓はレディ』(2014) 園子温『TOKYO TRIBE』(2014)						
	7	反復と差異:映画話法の革新【「反復」の効用】【「反復」の語りの顕在化】						
	8	平山秀幸『ターン』(2000) ガス・ヴァン・サント『エレファント』(2003) 天願大介『暗いところで待ち合わせ』(2008) 吉田大八『桐島、部活やめるってよ』(2012) 堤幸彦『イニシエーション・ラブ』(2015)						
	9	邪悪なサバイバルゲーム【シニカルな犯罪ドラマ】【邪悪なサバイバルゲーム】【量は質に転化しない】						
	10	中島哲也『告白』(2010) 三池崇史『悪の教典』(2012) 三池崇史『神さまの言うとおり』(2014) 柴田一成『リアル鬼ごっこ』(2007) 熊坂出『人狼ゲーム』(2013) アベユーイチ『脳漿炸裂ガール』(2015) 羽住英一郎『暗殺教室』(2015)						
	11	ニューウェイブ時代劇【日常ドラマとしての時代劇】【武士の特殊職業】【江戸時代の習俗映画】						
	12	山田洋次『たそがれ清兵衛』(2002) 熊井啓『海は見ていた』(2002) 蜷川実花『さくらん』(2007) 森田芳光『武士の家計簿』(2010) 三池崇史『一命』(2011) 本木克英『超高速！参勤交代』(2014) 原田真人『駆込み女と駆出し男』(2015) 中村義洋『殿、利息でござる！』(2016)						
	13	奇形の恋愛映画(偏愛映画)【恋愛は偏愛である】【性的越境の問題】【近親相姦願望】						
	14	大島渚『愛のコリーダ2000(リバイバル)』(1976) 行定勲『贅沢な骨』(2001) 橋口亮輔『ハッシュ！』(2001) 緒方明『いつか読書する日』(2004) 犬童一心『メゾン・ド・ヒミコ』(2005) 万田邦敏『接吻』(2006) 園子温『愛のむきだし』(2008) 横浜聡子『ウルトラミラクルラブストーリー』(2009) 熊切和嘉『私の男』(2013)						
	15	まとめ						
授業外学習	できる限り現在進行形の日本映画を観ること。							
教科書	特になし。毎回授業時にプリントを配布する。							
主要参考書	佐藤忠男『日本映画史3』岩波書店、四方田犬彦『日本映画のラディカルな意志』岩波書店、ミシェル・フーコー『異常者たち』『社会は防衛しなければならない』『生政治の誕生』筑摩書房、ウィリアム・E・コノリー『アイデンティティ／差異』岩波書店、ジョージ・アガンベン『ホモ・サケル』以文社、フレデリック・ジェイムソン『政治的無意識』平凡社、Fredric Jameson, Signatures of the Visible, Routledge, The Geopolitical Aesthetic: Cinema and Space in the World System, Indiana Univ Pr.							
評価方法	レポート60% 出席20% 授業時の発言20%							

科 目 名						担 当 者 名		
博物館教育論						小川 稔		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
資格	博物館学芸員	自由	講義	2	2・3・4	後期	E(集中)	白山
履修条件	特に定めない。							
授業概要	ミュージアム(博物館・美術館・映像アーカイブなど)には資料収集、研究、企画展示の他に教育普及の役割があり、近年ますます重視されている。本講座では担当者が勤務する公立美術館での実例などを通し、ミュージアムで実施されている幼児から社会人まですべての人々のための教育プログラムの現状を紹介するとともに、ミュージアムが社会とよりよい関係をもつための可能性について考察していく。各ミュージアムの個性、所蔵作品・資料などを活用しながら魅力ある講座やワークショップの立案について学生諸君と共に考えていきたい。合わせてミュージアム近隣の学校や公共施設へのアウトリーチのプログラムづくりにも触れたい。							
到達目標	ミュージアム学芸員のしごとは「ことば」の技術にある。アイデアを的確にまとめ印刷物やスピーチで伝えていく力を身につけたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	さまざまなミュージアム(博物館・美術館・映像アーカイブ)のあり方、歴史とその現状						
	2	学びの場としてのミュージアム						
	3	所蔵品・資料の教育プログラムへの活かし方						
	4	地域の幼稚園・小学校との連携、その実例						
	5	地域の中学校・高校との連携、その実例						
	6	地域の社会人のための教育プログラムについて						
	7	公民館など公共施設への出張(アウトリーチ)プログラムについて						
	8	公立美術館でのワークショップの実例						
	9	ワークショップ論(1) 幼児～小学生のための						
	10	ワークショップ論(2) 中学生～高校生のための						
	11	ワークショップ論(3) 学生～社会人のための						
	12	ワークショップ論(4) 作品(資料)制作と施設内での展示発表について						
	13	演習(1) 教育プログラムをつくってみよう						
	14	演習(2) 教育プログラムをつくってみよう						
	15	発表とディスカッション						
授業外学習	近隣の美術館、博物館、映像アーカイブに積極的に足を運んでほしい。そこで経験したことについて授業内で討論したい。							
教科書	資料をその都度配布する。							
主要参考書	授業内で紹介する。							
評価方法	授業中の発表、レポート(50%)出席状況(50%)などを総合的に評価する。							

科 目 名						担 当 者 名		
博物館資料論						佐川 美智子		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
資格	博物館学芸員	自由	講義	2	2・3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	とくに定めない							
授業概要	博物館の使命の基本は資料の収集とその適切な保存、後世への伝達である。本講では博物館が扱う資料とはなにか、その概念、意義、種類などについて、また資料収集のあり方・方法、整理分類、保管、活用などについての理念と実際を講じるとともに、学芸員の調査研究活動の意味、役割、内容も概説する。それによって博物館資料および調査研究活動についての基礎的理解を形成することを助ける。また歴史系博物館、美術館、科学館など館種別の資料の特性にも触れて、実際の事例を挙げながら、「資料」と呼ばれるものの広がりや意義に対する理解を深めるようにする。また実際に資料を手にとって調査し、調書を作成し、その資料についての情報を収集する作業の体験も実施する。同時に美術館の収蔵庫等のバックヤードを見学する機会を設け、実際の現場での資料のあり方を学ぶ。							
到達目標	<博物館の資料>とはなにかについての総合的な概念と、資料を収集・保存する意義について具体的な説明ができる。資料の取り扱い方法の基礎を身につけその取り扱いの基本を実践でき、さらなる調査の方法を知っている。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	はじめに：博物館資料とはなにか、その概念、意義、機能、種類などを概観する。						
	2	博物館資料とはなにか:資料の定義、種類とその多様性、収集基準、収集方針について。						
	3	資料によって異なる多種多様な博物館、美術館、資料館を概観する。						
	4	博物館資料の収集:その方法(購入、寄贈、寄託など)。						
	5	資料の管理:受け入れ手続きや分類、整理の考え方。						
	6	資料の管理:保存、修復などの基本的なあり方。						
	7	資料の管理:調査・研究の方法とその実際。						
	8	資料調査の実習:調査ポイントを学び調書を作成する。						
	9	資料調査の実習:書籍やインターネット、関係者への聞き取り等、周辺情報の調査方法とその実践。						
	10	資料調査結果の取りまとめと発表、質疑応答。						
	11	資料の活用、公開について:実物の展示(常設、企画展、貸し出し等)のあり方。						
	12	資料の活用、公開について:近隣で見られる展覧会の紹介と観覧の際のチェックポイント。						
	13	資料の活用、公開について:出版、データベース、画像提供と著作権。						
	14	映画・映像に関連する資料について						
15	まとめ:講義全体についての質疑応答							
授業外学習	講義で紹介する博物館、美術館、資料館等にはできるだけ足を運ぶことが望ましい。また講義時間外でバックヤードを含めた美術館見学を行う計画がある(自由参加)。							
教科書	講義時間中に随時、指示する。							
主要参考書	講義時間中に随時、指示する。							
評価方法	期末レポート(必須)							

科 目 名						担 当 者 名		
博物館資料保存論						倉石 信乃		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
資格	博物館学芸員	自由	講義	2	3・4	後期	E(集中)	白山
履修条件	博物館、美術館、フィルムセンターなどの施設に対する積極的な関心を持つ者に限る。							
授業概要	博物館という組織体は、アーカイヴと展示スペースを併存させた、固有の複合性を基本に成り立っている。これを機能面から捉えてみると、保存と展示という、互いに背馳したベクトルを備えていることが分かる。このため博物館において、保存を考えることはすなわち展示を考えることであり、かつ逆もまた真である。かくして、両者をセットで理解することが必要になる。 本授業では、まず資料保存の前提となるアーカイヴの特性を歴史的・政治的・美学的に考察し、保存の哲学とでもいべきものを理解する。さらに、保存と展示が背馳する状況を、私が学芸員時代に経験した美術館での展覧会などの実例に即して学んでいく。また、どのようなシステムで作品のケアが行われているかを、実際の博物館等の施設の実態に即して考察する。さらには、博物館活動に関する様々な映像資料も併せて実見し、授業内容についての立体的な理解を促したい。							
到達目標	博物館における保存の理論と実践、両面について基礎的な知識を得ること、また「アーカイヴ」「エコ・ミュージアム」など、保存にかかわる現在進行形で捉えておくべきいくつかのキー・コンセプトについても、基礎的な認識を持つことを到達目標とする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	イントロダクション シラバスの確認						
	2	アーカイヴとはなにか1 アーカイヴの起源						
	3	アーカイヴとはなにか2 アーカイヴと芸術作品						
	4	アーカイヴとはなにか3 アーカイヴと記憶						
	5	アーカイヴとはなにか4 アーカイヴの未来						
	6	資料保存の諸条件1:博物館と保存の歴史						
	7	資料保存の諸条件2: 保存の風土と環境						
	8	資料保存の諸条件3:美術館における保存の科学的条件						
	9	資料保存の諸条件4:美術館における保存と展示						
	10	資料保存の諸条件5: 美術館における修復						
	11	エコ・ミュージアムの思想―定義と歴史						
	12	エコ・ミュージアムの思想―環境と住民との関わり						
	13	エコ・ミュージアムと「地域アート」						
	14	現代美術と作品保存の未来						
	15	まとめ・試験						
授業外学習	東京国立近代美術館フィルムセンターを中心に、川崎市市民ミュージアム、横浜美術館、東京都写真美術館など、一般の美術館で映像資料の収集・保存を行っている施設の状況について、ある程度の知見を得ておきたい。							
教科書	特に指定しない。							
主要参考書	青木豊編『人文系博物館資料保存論』雄山閣、2013年。および大原一興『エコミュージアムへの旅』鹿島出版会、1999年。							
評価方法	平常点30％、試験70％、以上を総合的に勘案して、60％以上の評点を得た者を合格とする。試験内容は記述式で、博物館資料保存に係わる本授業の到達目標をクリアしているかを問うものとする。全授業のうち2/3以上を出席したものに試験の受験資格を与える。							

2017年度 科 目 名						担 当 者 名		
博物館展示論						植野 真澄		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
資格	博物館学芸員	自由	講義	2	3・4	後期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	博物館概論を履修しておくことが望ましい							
授業概要	博物館における展示は、博物館の機能の中でも博物館の所蔵資料を公開する重要な手段である。そのためこの授業では博物館展示の基礎的な知識と技能を身につけることを目的とし、以下の内容を講義(一部、実技を含む)と博物館の実地見学を通じて学ぶ。 1、展示の意義(展示と展示論の歴史、調査研究の成果としての展示、展示の政治性と社会性、コミュニケーションとしての展示) 2、展示の実際(展示の諸形態、展示の製作、展示の評価) 3、展示の解説活動(展示解説パネル、展示解説の基礎と応用、展示解説の刊行物)							
到達目標	博物館における展示の歴史、展示メディアの多様性、展示による教育普及活動、展示の諸形態に関する理論及び方法に関する知識や技術を習得し、博物館における展示機能に関する基礎的な能力を養う。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス						
	2	博物館の社会的意義と展示						
	3	展示の歴史						
	4	見学会						
	5	展示の形態						
	6	展示の仕組み						
	7	展示解説の手法						
	8	見学会						
	9	普及活動と展示						
	10	展示製作のプロセス						
	11	展示製作演習						
	12	展示製作演習						
	13	展示評価						
	14	展示の政治性と社会性						
	15	まとめ						
授業外学習	授業内で紹介した博物館を見学するなど、普段から博物館についての関心や知識を深める習慣を身につけておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	『博物館をみせる～人々のための展示プランニング』(K. マックリーン、井島真知・芦谷美奈子訳、玉川大学出版部、2003年)							
評価方法	リアクションペーパー(60%)＋期末レポート(40%) ＊なお、この授業で近隣の博物館を見学する校外学習を数回程度実施する予定なので、その見学参加と見学レポートの提出を含みます。見学先と見学日程については受講者数と博物館の都合等を調整の上、授業期間中に決定します。							

科 目 名						担 当 者 名		
博物館情報・メディア論						岩 槻 歩		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
資格	博物館学芸員	自由	講義	2	3・4	後期	A1(1×15)	白山
履修条件	—							
授業概要	デジタル技術の発展に伴い、博物館・美術館の在り方は大きく変化しようとしている。作品・資料といった「モノ」を取り扱うことに加えて、デジタライズされたさまざまな「情報」を蓄積・公開・発信していくことが、これからの博物館・美術館の主要な役割となっていくことは自明であろう。本講義では、博物館・美術館における「メディア」の多様な現状を学び、実際に展覧会・上映会などを実施するにあたって必要な知識と方法の概要を習得する。 ※ 2017年度は休講。							
到達目標	1.博物館・美術館におけるメディア(特に映像について)の歴史と特性、活用方法を把握する。 2.博物館・美術館におけるアーカイブの現状と課題について把握する。 3.インターネットやデジタルメディアの特徴を知り、博物館・美術館での活用の現状と今後の課題について認識する。 4.展示・上映にまつわる著作権等の知的財産権について概要を把握する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	はじめに 博物館・美術館における「情報・メディア」とは						
	2	視聴覚メディアの歴史的発展						
	3	博物館・美術館におけるメディアの活用1(展示・上映など)						
	4	博物館・美術館におけるメディアの活用2(教育普及・広報など)						
	5	博物館・美術館におけるメディアの活用3(調査・研究など)						
	6	展覧会の実例分析と課題の抽出						
	7	アーカイブとは何か その役割と活用について						
	8	博物館・美術館資料の取り扱いとその発信方法						
	9	映像メディアのアーカイブについて						
	10	博物館・美術館におけるデジタルメディア・インターネットの活用と実例(ゲスト招聘予定)						
	11	博物館・美術館とデジタル・ガジェットの可能性 双方向的メディアとは何か						
	12	情報発信におけるアナログメディアとデジタルメディア						
	13	知的財産権の概要 著作権・肖像権・所有権と作品展示について						
	14	総合発表:グループに分かれてひとつの展覧会を企画し、それぞれ展示・広報・教育普及の担当を担って企画書を作る。						
	15	総合発表とまとめ:企画書のプレゼンテーションと授業全体のまとめを行う						
授業外学習	講義実施期間中に最低3つの博物館展示・美術館展示を観覧すること。その際、当該展覧会のチラシ・webサイト・twitter・Facebook・雑誌広告・雑誌記事など発信情報の概要を把握しまとめておくこと。							
教科書	使用しない。必要なテキストはプリントなどで配布する。							
主要参考書	その都度指示する。							
評価方法	出席状況(20%)、授業期間中の小レポート・演習(30%)、期末レポート(50%)							

科 目 名						担 当 者 名		
博物館経営論						志賀 健二郎		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
資格	博物館学芸員	自由	講義	2	3・4	後期	A1(1×15)	白山
履修条件	—							
授業概要	「経営」は利用者がいて初めて成り立つ。自らがもつ経営資源を最大限に活用して、利用者に満足を提供し、共感の輪を広げていく努力が求められることは、博物館も一般の営利企業と同様である。また、「経営」は単に管理者だけのものではなく、博物館においても、基幹業務を担う学芸員は「経営」の仕組みを知り、それぞれの職分に応じて「経営」を実践していくことが求められる。本講座では、そうした点を基本において、博物館が「経営」を行っていく上での基本的な考え方と、「経営」の効果をより高めていくための展開を、最近の日本の博物館の具体的な事例などもまじえながら考察していく。							
到達目標	「博物館経営」の必要性、「経営」を成り立たせるための要素、日本の博物館の「経営」課題を知り、「博物館経営」における学芸員の役割を理解する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	・はじめに:博物館経営の特性—営利企業の経営との違いから考える—						
	2	・国公立博物館の経営形態と経営課題①—独立行政法人制度、指定管理者制度など—						
	3	・国公立博物館の経営形態と経営課題②—独立行政法人制度、指定管理者制度など—						
	4	・私立博物館の経営形態と経営課題—公益財団法人による経営を中心に—						
	5	・博物館経営の体系—経営理念・使命～評価制度—						
	6	・経営資源のコントロール①—財務、組織・人材—						
	7	・経営資源のコントロール②—施設・設備、収蔵品—						
	8	・経営資源の還元①—常設展と企画展—						
	9	・経営資源の還元②—教育普及、福祉への取り組み—						
	10	・付帯施設の経営—ショップ・レストラン— ・博物館のマーケティング①—営利企業のマーケティングとの違い—						
	11	・博物館のマーケティング②—プロモーション、ブランディング—						
	12	・地域社会、諸機関との連携						
	13	・市民とのパートナーシップ						
	14	・博物館倫理、博物館の危機管理						
	15	・まとめ:利用者視点のマネジメント						
授業外学習	博物館で行われている常設展・企画展の見学、ワークショップなどの普及活動への参加などにより、館と学芸員の実際の活動にふれるとともに、他の鑑賞者、参加者の反応もみておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	『博物館学Ⅲ—博物館情報・メディア論＊博物館経営論』(学文社)							
評価方法	出席(3分の2以上必須)40%、期末レポート40%、授業期間中のレポート・発表20%							

科 目 名						担 当 者 名		
博物館実習						佐藤 実		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
資格	博物館学芸員	自由	実習	3	4	通年	前期:A1(1×15) 後期:A1(1×15)	白山・外部
履修条件	博物館学芸員養成課程の登録をしており、原則として「生涯学習概論Ⅰ」「博物館概論」「博物館資料論」「博物館教育論」を履修済みであること。また「博物館情報・メディア論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館経営論」のうち、2科目以上を履修済みであることが望ましい。							
授業概要	[本授業はく博物館学芸員養成課程の必修科目>として開講されることに留意] 実際の博物館・美術館の現場では、博物館学芸員課程にて学んできた知識のみならず、実作品についての多様な技術が必要になる。博物館学芸員課程にて学んできた知識を踏まえ、社会的ニーズとして今日求められる現代の学芸員の実践的能力、実際の現場に必要な多様な技術の基礎と知識を習得する。 ＊本授業では、実習という性格上、授業期間以外の拘束もあることを留意の上、履修すること。							
到達目標	博物館学芸員課程にて学んできた知識を踏まえ整理しつつ、実際の現場に必要な多様な技術の基礎と知識を習得し、かつ今日の博物館・美術館の置かれている状況の調査や見学から、博物館・美術館の社会的ニーズについて理解を深め、現代の学芸員が必要とする実践的な能力の基礎を養う。							
授業計画	内 容							
	博物館・美術館への派遣実習が核となるため、地域の博物館・美術館の置かれている状況を、見学、調査し、今日における社会的ニーズについて学ぶ。 それと平行して学内でも、各種作品の取り扱い技術、展示技術、広報、普及活動の実際にまつわる具体的な技術について、出来る限り効率的に実技実習する。 とくに20世紀以降の今日的メディアによる資料の取り扱いについて、収集・保存から権利処理・公開までの一連の流れを学び、実践的な能力を習得する。 授業計画とスケジュール (1) 講義 2017年4月：博物館・美術館のはじまりと意義、そして地域社会との関わりについて学習 2017年5月～7月：展示の進め方概論について 2017年7月～10月：展示の技法について 2017年10月～11月：バリアフリー・市民参画・市民協働に関する美術館・博物館の近年の試み 2017年11月：資料整理 保存と目録(DB化) (2) 実技実習 2017年5月～7月：展示技法の実技習得 2017年11月～2018年1月：資料整理実習・学内資料の整理及びアーカイブ (3) 見学 4回程度 2017年5月：地域社会における博物館・美術館について見学 2017年6月：施設見学 ガイド付き 整理室、収蔵庫など施設の裏側を見学 2017年11月：展示会見学 展示会のテーマについて見学 2018年1月：展示会見学 近年の展示技法について見学 (4) 館園実習への準備 (5) 館園実習 (6) 事後指導 尚、授業の進行並びに館園実習時期により各回の計画とは異なる進行で授業を進める場合がある。							
授業外学習	美術館・博物館に対する社会的ニーズの変化とその対応など、学芸員を志す者にとって常日頃から関心を向けておく必要がある。積極的にさまざまな美術館・博物館に足を運ぶこと。							
教科書	講義時間中に随時、指示する。							
主要参考書	『美術館・博物館の展示 理論から実践まで』発行年2004年3月 丸善出版							
評価方法	出席状況、技術の習得程度及びレポート、実習館からの報告により総合的に評価。実習は社会との接点となるため実習館からの報告を重視。また欠席、遅刻が多い者は年度途中においても履修放棄とみなす。							

科 目 名						担 当 者 名		
社会教育計画						古 塚 典 洋		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
資格	社会教育	自由	講義	4	3・4	前期	A2(2×15)	白山
履修条件	日頃から教育問題や社会問題に関心を持つことが望ましい。また、映画についても単に作り手の観点だけでなく、受け手である観衆の受容、映画を通した教育や学習、映画振興のための方策といった観点から考えておくことが望ましい。							
授業概要	日々の生活のなかで、「社会教育計画」という言葉を耳にしたことはあるだろうか。そもそも、「社会教育」とは一体どのようなものであり、「計画」とは何を意味するのであろうか。そして、そこで表される「社会」や「教育」のリアリティと、私たちはいかに関係を結んでいるのであろうか。 本科目では、これらの問いを映画との関係において、さらに地域づくりとの関係において理論的に実践的に考えていく。 具体的には、(1)人びとの社会教育活動、および映画を含めた芸術を支える、制度や歴史、職員、施設の現状、学習者の基本的な特性を学び、(2)実際に計画を立て、地域における映画の普及・活用を目指すプログラミングを行うことなどを想定している。							
到達目標	上記の(1)(2)を通して、多様に広がる映画を活用した教育や学習の可能性を開拓できる知識と技能を習得することを目指す授業科目である。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1・2	オリエンテーション:私たちが学ぶことと「社会教育」						
	3・4	「社会教育計画」があること						
	5・6	社会教育計画の基盤						
	7・8	社会教育の主体、学習内容、学習課題						
	9・10	芸術文化と社会教育						
	11・12	映画をめぐる社会教育計画						
	13・14	映画というメディアと地域づくり:まち歩き						
	15・16	前半のまとめ、後半のオリエンテーション						
	17・18	社会教育を支える施設						
	19・20	社会教育を支える多様なアクター						
	21・22	地域・学校・家庭の連携						
	23・24	映画の学習と地域づくり:施設見学						
	25・26	映画の学習をデザインする						
	27・28	映画の学習をデザインする:グループ発表準備						
29・30	映画の学習をデザインする:グループ発表							
授業外学習	興味のある社会教育・生涯学習関連施設へ足を運んでみること。							
教科書	講義内で適宜指示をする。							
主要参考書	小林文人ほか編著『日本の社会教育・生涯学習-新しい時代に向けて』大学教育出版,2013年。							
評価方法	出席30%・授業中に課す小レポート20%・試験(期末レポートを予定)30%・授業貢献20%							

科 目 名						担 当 者 名		
社会教育演習						古壕 典洋		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
資格	社会教育	自由	演習	4	3・4	後期	A2(2×15)	白山
履修条件	日頃から教育問題や社会問題に関心を持つことが望ましい。また、映画についても単に作り手の観点だけでなく、受け手である観衆の受容、映画を通じた教育や学習、映画振興のための方策といった観点から考えておくことが望ましい。							
授業概要	私たちの日々の生活と学びは密接に結びついている。学びとは私たちの営みそのものである、と言っても過言ではない。社会教育とは、私たちの営みと学びとの関係を私たちの生という日常実践に即しながら追究する学問である。本科目では、社会教育の歴史や理念の変遷を、特に映画との関係を踏まえながら、私たちの周りで多種多様に展開されている社会教育の現代的意義と課題について検討をおこなう。具体的には、①テキスト・文献を基にした議論、②社会教育・生涯学習関連施設の見学(予定)、③受講生の問題関心に即した自主調査、④調査レポート作成および報告会、を実施する。							
到達目標	上記の①～④を通して、(1)映画というメディア、(2)それに携わる私、(3)この私が生きている地域社会、という三者を身体感覚として捉え、映画と社会教育との関係を総体的に把握するための知識と技能の獲得を目指す授業科目である。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1・2	オリエンテーション:私たちはなぜ学ぶのか？						
	3・4	「社会教育」や「生涯学習」があること						
	5・6	社会教育・生涯学習の援助者とは誰？						
	7・8	社会教育・生涯学習施設の様相—公民館、図書館、博物館						
	9・10	社会教育・生涯学習関連施設の見学・調査準備						
	11・12	社会教育・生涯学習関連施設の見学・調査						
	13・14	見学・調査の振り返り、前半のまとめ						
	15・16	国内外の社会教育・生涯学習の歴史						
	17・18	社会教育・生涯学習のいま						
	19・20	社会教育・生涯学習と映画というメディア						
	21・22	映画と地域づくり						
	23・24	社会教育・生涯学習関連施設の見学・調査準備						
	25・26	社会教育・生涯学習関連施設の見学・調査						
	27・28	レポート検討会、発表会準備						
	29・30	レポート発表会、まとめ						
授業外学習	興味のある社会教育・生涯学習関連施設へ足を運んでみること。							
教科書	講義内で適宜指示をする。							
主要参考書	赤尾勝己『新しい生涯学習概論—後期近代社会に生きる私たちの学び』ミネルヴァ書房,2012年。							
評価方法	出席20%、授業中に課す小レポート20%・最終レポート40%・授業貢献20%							

科 目 名						担 当 者 名		
社会教育活動						間野 百子		
科目区分		科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
資格	社会教育	自由	講義	2	3・4	後期	E(集中)	白山
履修条件	「社会教育主事補」の資格認定科目であるため、すべての課題を提出していない場合は、成績評価の対象にならない。 社会教育関連の施設見学(予定)の詳細については授業時間内に説明する。							
授業概要	本講座では、社会教育主事(補)の資格取得を目指す受講生が、さまざまな世代や状況の人びとの生活・学習課題を理解したうえで、社会教育活動の支援者としての力量を高めることを目的とする。具体的には以下の項目に焦点をあてる。 1. 社会教育活動の支援者(ファシリテータ)の役割と活動の導き方 2. 社会教育の実践理解(学習・市民活動、子どもの遊び環境) 3. 受講生の問題関心に応じた社会教育施設・活動の調査・発表 4. 社会教育施設の視察(予定)							
到達目標	社会教育施設における学習支援者の役割と支援の仕方を理解できるようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	オリエンテーション～社会教育の現代的意味						
	2	社会教育活動の概要～社会教育を必要とする社会的背景について						
	3	社会教育の主体者(子ども・若者、成人、高齢者)						
	4	グループワーク～みずからの社会教育体験を語り合う						
	5	施設見学(麻生市民館)						
	6	社会教育活動の支援者～ファシリテータとは何か						
	7	社会教育活動①～ボランティア活動の理論と実践						
	8	社会教育活動②～夜間中学校における学びと歴史的展開						
	9	社会教育活動③～困難を抱える少年支援のあり方						
	10	社会教育活動の実践例の検討(施設見学を含む)						
	11	社会教育活動の実践例の検討(子どもの遊び場としてのプレイパーク)						
	12	社会教育活動の実践例の検討(子どもの学び場としてのフリースクール)						
	13	施設見学の振り返り						
	14	課題レポートの発表・検討会						
	15	課題レポートの発表・検討会、全体の振り返り						
授業外学習	自宅近くの社会教育施設(公民館、博物館、図書館など)について調べ、そこで実施されているプログラムについて検討する。							
教科書	関口礼子他著『新しい時代の生涯学習』有斐閣アルマ、2009年							
主要参考書	社会教育・生涯学習辞典編集委員会『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店、2012年。 草野篤子・柿沼幸雄・金田利子・藤原佳典・間野百子編著『世代間交流学の創造』あけび書房、2010年。 参考HP:生涯学習研究e事典 http://ejiten.javiea.or.jp/							
評価方法	検討課題の準備状況 30%、課題レポートの発表40%、授業内小テスト 30%							

科目別索引

あ	アジア映画史	117
	アメリカ映画史	109
い	インターンシップ	55
え	映画・映像文化専門演習Ⅰ	86
	映画・映像文化専門演習A	93
	映画・映像文化専門演習B	100
	映画史概論	64
	映画制作基礎演習	57
	映画前史	110
	映画と演劇	112
	映画と文学	67
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅰ〈国際情勢〉	38
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ〈アジア交流〉	40
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ〈ネイションとエスニシティ〉	41
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅳ 〈セクシュアリティとジェンダー〉	17
	映画美術演習	107
	映画美術論	62
	映画文化特殊講義Ⅰ〈身体・思想〉	19
	映画文化特殊講義Ⅱ〈環境・災害・技術〉	46
	映画文化特殊講義Ⅲ〈ビジュアル・フォークロア〉	39
	映画流通論	69
	英語Ⅰ	29
	英語Ⅱ	32
	映像人類学	113
	映像とことば	68
	英米文学	13
	演劇史Ⅰ	22
	演劇WSⅠ	18
	演劇WSⅡ	25
	演出専門演習Ⅰ〈ワンシーン〉	80
	演出専門基礎講義	72
お	音響論	48
か	韓国語	34
き	記号論	115
	技術合同専門演習(撮影照明コース)	82
	技術合同専門演習(編集コース)	84
	技術合同専門演習(録音コース)	83
	脚本演出専門演習Ⅱ〈3分エチュード〉	95

	脚本基礎演習	56
	脚本専門演習Ⅰ〈インプロビゼーション〉	81
	脚本専門演習Ⅰー2	87
	脚本専門演習Ⅱ〈脚色〉	94
	脚本専門基礎講義	73
	脚本WSⅠ	79
	キャリア・サポートⅠ	49
	キャリア・サポートⅡ	54
け	現代思想	44
	現代社会と社会教育	43
こ	合同制作A〈ドラマ〉(脚本演出コース)	88
	合同制作A〈ドラマ〉(撮影照明コース)	89
	合同制作A〈ドラマ〉(編集コース)	91
	合同制作A〈ドラマ〉(録音コース)	90
	合同制作B〈ドキュメンタリー〉	92
	国際合同制作〈日韓合同映画制作〉	31
	こども映画教育演習	116
	コンテンツ文化史	71
さ	撮影照明専門演習	96
	撮影照明専門基礎演習	74
	サブ・カルチャー論	14
し	社会学入門	37
	社会教育演習	128
	社会教育活動	129
	社会教育計画	127
	写真論	114
	生涯学習概論Ⅰ	51
	生涯学習概論Ⅱ	52
	情況論	119
	情報メディア論	30
す	スタートアップ演習	8
せ	精神医学入門	50
そ	卒業シナリオⅠ	103
	卒業シナリオⅡ	104
	卒業制作〈ドラマ〉	101
	卒業制作〈ドキュメンタリー〉	102
	卒業論文Ⅰ	105
	卒業論文Ⅱ	106
た	体育	53

ち	地球環境倫理学	45	編集専門基礎演習	76
	中国語	33		
	長編シナリオ演習Ⅰ	58	も	物語WS
	長編シナリオ演習Ⅱ	60		21
	長編シナリオ制作	59	り	理論専門基礎講義
	著作権概論	35		78
て	テーマ研究Ⅰ〈映画会社とスター〉	65	ろ	録音専門演習
	テーマ研究Ⅱ〈比較映画論〉	111		録音専門基礎演習
	テーマ研究Ⅲ〈映画ジャンル論〉	118		75
	デジタル映像技術概論	47		
	哲学	15		
と	ドキュメンタリー映画史	108		
	ドキュメンタリー専門演習Ⅰ	85		
	ドキュメンタリー専門演習Ⅱ	99		
	ドキュメンタリー専門基礎演習	77		
に	日本映画史	63		
	日本語Ⅰ	26		
	日本語Ⅱ	27		
	日本語Ⅲ	28		
	日本伝統音楽概論	11		
	日本文化論	10		
	人間総合研究	9		
は	博物館概論	42		
	博物館教育論	120		
	博物館経営論	125		
	博物館実習	126		
	博物館情報・メディア論	124		
	博物館資料保存論	122		
	博物館資料論	121		
	博物館展示論	123		
ひ	美術史Ⅰ〈日本美術史〉	20		
	美術史Ⅱ〈西洋美術史〉	23		
	ビデオ・デジタル技術基礎演習	61		
	批評論	24		
	表象文化論	36		
ふ	フィルム・アーカイヴ学	66		
	プロデュース論	70		
	文学Ⅰ	12		
	文学Ⅱ	16		
へ	編集専門演習	98		

